

甲府駅南口周辺地域修景計画

平成24年3月

山梨県・甲府市

目次

1 . はじめに.....	1
2 . 甲府駅南口周辺地域の位置づけと現況	4
2 - 1 . 上位計画及び関連計画における位置づけ.....	4
2 - 2 . 地域の成り立ちと現況	15
2 - 3 . 公共施設の現況.....	26
2 - 4 . 眺望の現況.....	35
3 . 県民、市民などの意向	36
3 - 1 . アンケート結果の概要	36
3 - 2 . 若者ワークショップ結果の概要.....	38
3 - 3 . まちづくり団体からの提案の概要	43
3 - 4 . 「修景の方向性（素案）」に対する意見の概要.....	46
4 . 甲府駅南口周辺地域の景観上の課題.....	50
5 . 甲府駅周辺地域の位置づけと景観形成の方向.....	53
6 . 甲府駅南口周辺地域の修景計画の基本理念と基本目標	54
6 - 1 . 修景計画の基本理念.....	55
6 - 2 . 修景計画の基本目標.....	57
7 . 甲府駅南口周辺地域の景観形成の骨格	60
7 - 1 . ゾーン区分	60
7 - 2 . 拠点と景観形成軸	60
8 . ゾーン別景観形成の方向と具体的な取り組み.....	63
8 - 1 . ゾーン別景観形成の方向と取り組みメニュー.....	63
8 - 2 . ゾーン別景観形成の方向と具体的な取り組み.....	64
8 - 2 - 1 . おもてなし駅前ゾーン	64
8 - 2 - 2 . 風格と賑わいの都市ゾーン	65
8 - 2 - 3 . 歴史と文化へのアプローチゾーン	66
8 - 2 - 4 . 歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン.....	69
8 - 2 - 5 . 賑わいの商業ゾーン.....	70
8 - 2 - 6 . 潤いの住居・業務複合ゾーン	72
8 - 2 - 7 . 地域全体の共通事項.....	73
9 . 主要地点の修景イメージ.....	75
9 - 1 . 駅前広場のリニューアルのイメージ	76
9 - 2 . 平和通りのリニューアルのイメージ.....	80
9 - 3 . 舞鶴通り沿道の空間整備のイメージ.....	85

10 . 取り組みの実現に向けて	87
10 - 1 . 段階的な取り組みの方針	87
10 - 2 . 段階的な取り組みのスケジュール	87
10 - 3 . 実効性を高める今後の取り組み	89
【参考資料】	90
甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会設置要綱	90
甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会委員名簿	91
個々の施策、取り組み等に関する語尾の表現	93
「甲府城」という名称に関して	93

「甲府城」という表現について

かつての甲斐の国の府中城であり、現存する石垣、お堀などに囲まれている範囲を特定する名称としては、「甲府城 = 江戸初期には使われていた名称」「甲府城跡 = 史跡名称」「舞鶴城公園 = 都市公園名称」の3つが考えられる。

本計画では、基本理念の実現に重要な要素として「歴史・文化」を掲げており、「甲府城」が歴史的資産、景観的な象徴としてのイメージをあらわすのに最も適していると考えられることから、本計画では「甲府城」という名称を用いることとした。なお、明らかに県史跡や都市公園のことを示す場合や既定計画等における表現を引用する場合はこの限りではない。

1.はじめに

(1) 計画の背景と目的

甲府駅南口周辺地域は、山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり、拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリアであり、県都の玄関口にふさわしい景観づくりが重要な課題となっている。

現在、地域では「甲府市中心市街地活性化基本計画」に基づき、中心市街地の再生に向けた各種取り組みが展開されている。紅梅地区市街地再開発事業が完了し、県庁舎や市役所の建て替えなどの大きなプロジェクトが進行中であり、これらプロジェクトのインパクトを適切に受け止め、甲府城をはじめとした歴史・文化資源を活かしつつも、未来に向けたまちづくり、景観づくりが求められている。

また県土全体に目を向けると、リニア中央新幹線、中部横断自動車道の整備など、県土のさらなる飛躍につながるプロジェクトも進行中である。都市づくりの重要拠点である甲府駅周辺地域においては、これらも視野に入れたまちづくり、景観づくりが求められていると言える。

本計画は、このような背景を踏まえ策定するものであり、甲府駅南口周辺地域の景観の骨格となる駅前広場、道路、公園など公共施設の再整備を計画的に進めていくためのものである。このため、公共施設の再整備のあるべき姿とそれを実現するために必要な取り組みを示している。また、本計画に基づき公共施設の再整備を進めていくことにより、民間による様々な活性化に向けた取り組みのきっかけとなることを期待するものである。



(2008年6月10日撮影・山梨県提供)

計画対象地域



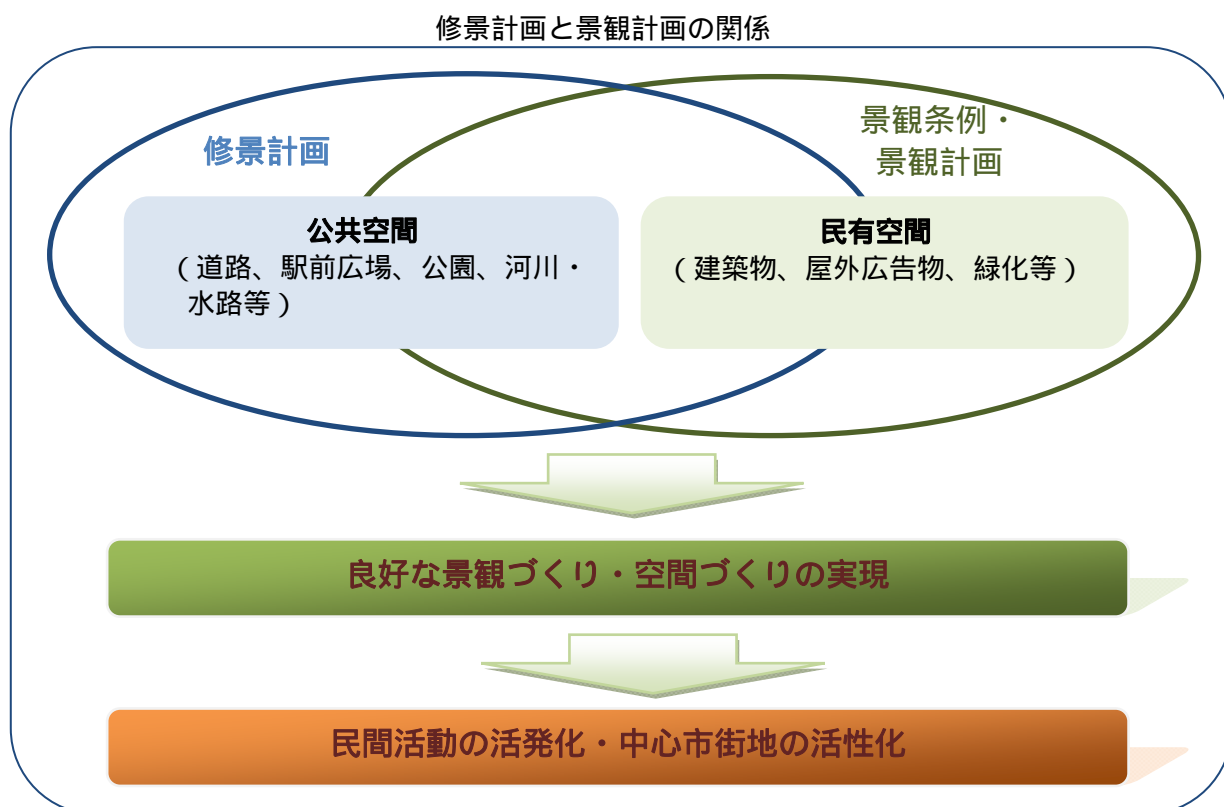
(2) 修景計画と景観計画の関係

良好な景観は、公共空間と私有空間が一体となって形成されるものである。

「甲府駅南口周辺地域修景計画」は、駅前広場、道路、公園など公共施設の再整備により景観の骨格を形成しようとするものであり、また甲府市が策定する「甲府市景観条例・景観計画」は主に私有空間における建築物、工作物等に関する景観誘導の指針となるものである。

このため、「甲府駅南口周辺地域修景計画」と「甲府市景観条例・景観計画」が一体となって、甲府駅南口周辺地域における良好な景観づくり・空間づくりを実現していくものである。

官民一体となって空間的な魅力の向上やまちとしてのポテンシャルの増大を図ることにより、居住者、就業者、観光客を増加させ、多様な交流機会の創出、民間活動の活発化や中心市街地の活性化につなげていこうとするものである。



(3) 計画の策定経緯

山梨県及び甲府市では、計画策定に向けて平成22年7月に「甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会」を設置し、様々な検討を進めてきた。

平成22年度は、検討委員会(4回)、アンケート調査、学生ワークショップ、意見交換会を実施し、修景の方向性(素案)を取りまとめ、ホームページで修景の方向性(素案)を公表、広く意見やアイデア等を募集し、「修景計画検討資料」として取りまとめを行った。

平成23年度は、「修景計画検討資料」に基づき、検討委員会(3回)、関係団体との意見交換会及びパブリックコメントなどを実施してきた。「修景計画」はこれらの結果を踏まえ取りまとめたものである。

これまでの検討経緯

時期	会議等	主な内容
平成22年 7/16	第1回検討委員会	・委員委嘱/関連計画の確認等/現状確認のためのまち歩き
8月下旬 ~9月上旬	アンケート調査 (街頭聞き取り、地元 住民・事務所、WEB)	・来訪者、地元住民・事業者などに対して、甲府駅周辺地域の 印象、景観上良いもの・悪いもの、景観づくりの方向などに ついてアンケート調査を実施
9/29	第2回検討委員会	・地域の景観上の課題について ・景観上の課題と修景の方向性(骨子案)について
10/30	若者ワークショップ	・若者の意見を計画に反映するため、山梨大学、山梨県立大学、 甲府工業高等学校の学生によるワークショップを実施 ・4班に分かれて、「平和通り」「駅前広場周辺」「舞鶴通り・ 舞鶴城公園南側」「舞鶴城公園北側」について、景観づくり のあり方を検討
11/11	意見交換会	・若者ワークショップの成果及びまちづくり団体の提案を発表 し、これを題材に出席者と検討委員会メンバーとが意見交換 を実施
12/20	第3回検討委員会	・修景の方向性(素案)について
平成23年1月	方向性(素案)の公表	・ホームページで修景の方向性(素案)を公表し、広く意見や アイデア等を募集
3/18	第4回検討委員会	・修景計画検討資料について
4月~6月	関係団体との 意見交換会	・修景計画に関して、関係団体(甲府商工会議所、甲府青年会 議所、甲府駅南口のまちづくり研究会、新世紀城下町研究会、 甲府城南商店街振興組合、ちょうちん横丁、丸の内八番街商 店街、東栄会)との意見交換会を実施
7/28	第5回検討委員会	・修景計画原案について
8月	関係団体との 意見交換会	・修景計画に関して、関係団体(地域活性化委員会作業部会、 丸の内八番街商店街)との意見交換会を実施
9/30	商工会議所からの提言	・甲府商工会議所より『甲府駅南口周辺地域修景計画』に対す る提言書の提出
11/9	県政出張トーク(テー マ:歩道のユニバーサ ルデザイン)	・障害者福祉団体等(県身体障害者福祉連合会、県車いす生活 者の会、県視覚障害者福祉協会、山梨大学大学院医学工学総 合研究部)と意見交換
12/16、22	甲府駅南口のまちづく り研究会の要望	・甲府駅南口のまちづくり研究会より「甲府駅南口の駅前広場 及び修景等に関する要望書」の提出
平成24年 1/16	第6回検討委員会	・修景計画原案について
1/23~3/13	各種団体等 からの要望	・県車いす生活者の会、甲府市身体障害者福祉連合会、県視覚 障害者協会、甲府市視覚障害者協会からの要望 ・甲府商工会議所、経済同友会、山梨県バス協会、山梨県タク シー協会からの要望
2/14~3/14	パブリックコメント	・「甲府駅南口周辺地域修景計画」(素案)を県HP上で公表 し、県民の意見を募集
3/27	第7回検討委員会	・修景計画について

2 . 甲府駅南口周辺地域の位置づけと現況

2 - 1 . 上位計画及び関連計画における位置づけ

(1) 総 括

山梨県及び甲府市が策定した上位計画及び関連計画などから、対象地域の位置づけやまちづくり、景観づくりの方向を把握するとともに、計画対象範囲の景観形成に影響を及ぼすと考えられる主要なプロジェクトの概要を整理した。

まちづくりに関する計画

「山梨県都市計画マスタープラン」や「甲府市都市計画マスタープラン」において、甲府駅周辺地域は、山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり、拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリアとして位置づけられている。

また、このような位置づけのもと、南口周辺地域では現在、「甲府市中心市街地活性化基本計画」に基づき、“買い物の場として楽しめる”“歴史や文化にふれることができる”“定住の場として選ばれる”中心市街地の再生に向けた各種取り組みが展開されている。

景観形成に関する計画

「美しい県土づくりガイドライン」において、甲府駅周辺地域は、「風格と品のあるもてなしの駅前景観を形成する」とともに「にぎわい創出に寄与する中心市街地の景観を形成する」ともなされている。また「甲府市景観形成基本計画」において、甲府駅周辺地域は、歴史景観と都市景観の調和・共存などを図りながら、『甲府を象徴する「風格」と「華」のある景観形成』を誘導していくものとされている。

このような位置づけのもと、景観形成のための様々な取り組みが位置づけられている。

甲府駅周辺における景観形成のための具体方策

計画名称	具体方策等
山梨県都市計画マスタープラン	・老朽化した既存の建物・都市基盤の更新
甲府市都市計画マスタープラン	・甲府城（舞鶴城公園）の保全・活用 ・鉄道軸及び道路軸における良好な車窓景観の形成
美しい県土づくりガイドライン	・屋外広告物（位置、形態意匠）に対する景観誘導 ・低層部の店舗の連続性の確保、デザイン看板の設置 ・歩道の修景整備
甲府市景観形成基本計画	・歴史景観と都市景観の調和・共存（歴史的建造物の保全／隣接建築物の景観誘導） ・甲府駅周辺の先導的・重点的景観形成（甲府城跡周辺等の景観誘導） ・印象的な眺望景観の確保（建築物、屋外広告物等に対する景観誘導） ・平和通りの風格ある景観形成（街路樹の保全・維持管理／官公庁施設の先導的・印象的な景観整備） ・中心商業地の賑わい創出に寄与する景観形成（歩行空間の景観整備／ポケットパーク等の確保／デザイン看板等の設置） ・甲府駅及び鉄道沿線における来訪者に配慮した景観形成（駅ホームの修景整備／車窓からの眺望を阻害する建築物等の景観誘導）

観光振興に関する計画

「甲府市観光振興基本計画」においては、「自然と調和した都市観光」をキャッチフレーズに総合的な観光振興策を示している。

甲府駅周辺や景観形成に関する施策としては、観光資源の整備と活用に向け、自然景観・歴史景観の保全、甲府駅周辺の拠点整備、まちなかの緑化の推進などが位置づけられているほか、交通手段の充実に向け、レトボンの活用、駐車場整備の検討などが位置づけられている。

主要プロジェクト

甲府駅南口周辺地域においては、県庁舎耐震化、市新庁舎建設などの大きなプロジェクトが進められている。

これらは、甲府駅周辺のより良い景観づくりを先導していくことが期待される。


甲府駅南口周辺地域の主要なプロジェクト

プロジェクト名等	概要
中心市街地活性化	・市街地の整備改善、都市福利施設の整備、まちなか居住の推進、商業の活性化、公共交通機関の利便性増進などハード・ソフトの各事業を総合的かつ一体的に推進されている。
県庁耐震化等整備	・耐震基準を満たしていない県民会館、県民情報プラザ、第二南別館及び東別館の4庁舎を、新庁舎として集約建替が進められている。
甲府市新庁舎建設	・分かりやすい、使いやすい、安全、安心をコンセプトに、市庁舎の建替が進められている。
紅梅地区再開発事業	・紅梅北通り、紅梅南通り及びオリオンストリート（春日本通り）に囲まれた地区での市街地再開発事業で、平成22年10月にグランドオープンした。

また、甲府駅北口を中心に（一部、南口も含む）交通拠点の改善、交流拠点の形成、公共施設の整備、改善及び宅地の利用増進などを旨として、新都市拠点整備事業（土地区画整理事業、拠点形成事業）が行われており、北口駅前広場、よっちゃばれお祭り広場、甲府市歴史公園、中央消防署、自転車駐車場の整備のほか、甲府市藤村記念館の移築、甲州夢小路事業、甲府地方合同庁舎、NHK甲府放送局、新県立図書館施設の建設などが進められている。

(2) まちづくりに関する計画

山梨県都市計画マスタープラン（平成21年3月 山梨県）

目的等	<p>県が、現行都市計画区域を越えた広域的な観点から、今後の県の都市計画の方針を明確に示すもの。</p>	
やまなし都市づくりの基本方針	<p>都市づくりの基本理念を『都市機能集約型都市構造の実現』とし、具体的な都市づくりの方針を以下のとおり示している。 「美しく魅力あふれる都市づくり」は5本柱の一つとなっている。</p>	
	都市機能を集約した活力に満ちた都市づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1) 都市機能の集約化 2) 中心市街地の活性化 3) 多様な連携・交流の促進 4) 産業の振興
	美しく魅力あふれる都市づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1) 歴史・文化資源の活用 地域固有の歴史的・文化的遺産を活用した都市づくり 2) 美しく魅力あふれる景観づくり 景観法を活用した建築行為等のコントロール 沿道の屋外広告物等の規制・誘導 3) 都市の顔づくり 拠点地区等での魅力ある景観整備
	安全で安心して暮らせる都市づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1) 災害に強いまちづくり 2) 安全で安心な生活環境の形成 3) 誰もが利用しやすい都市施設づくり
	環境と共生する都市づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1) 環境負荷の低減 2) 自然環境の保全 3) 郊外部や農山村集落における田園環境の保全 4) 都市の緑化
	多様な主体の参加と協働による都市づくり	<ol style="list-style-type: none"> 1) 市町村計画や他部門との連携強化 2) 都市づくりにおける多様な主体の参画
目指すべき広域圏域都市構造	<p>目指すべき広域圏域都市構造において、甲府駅周辺は広域拠点と位置づけられ、都市機能の集約のほか、拠点にふさわしい都市空間の充実を図るものとされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢業務機能、高次医療、教育、文化、商業等の都市機能の集約 ・ 老朽化した既存の建物・都市基盤施設の更新 ・ 良好な景観の形成 ・ ユニバーサルデザインの推進 ・ ユビキタスネットワーク社会への対応等 <div style="display: flex; align-items: center;">  </div>	

第五次甲府市総合計画（平成 18 年 6 月 甲府市）

目的等	総合的かつ計画的な行政運営の指針となるものであり、時代の潮流や市民意識の変化に的確に対応しながら、まちづくりの目標を明らかにし、これを達成するための施策や事業を示すもの。「基本構想」と「実施計画」により構成され、「基本構想」では平成 27 年度（2015 年度）を目標年度としている。	
都市像	人がつどい 心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府	
基本目標と主要な施策	基本目標	主な施策の内容
	互いに支え合い健やかに暮らせるまち 福祉・健康への支援 -	子育て支援の充実 / 保育の充実 / 高齢者の健康・生きがいづくり / 高齢者・障害者の生活支援 / 障害者の自立と社会参加の促進 / 健康づくりの推進 / 救急医療体制の充実 / 国民健康保険の充実 / 介護保険の充実 など
	夢あふれ心豊かに人と文化が輝くまち 教育・文化の振興 -	幼児教育の充実 / 義務教育内容の充実 / 安全な教育環境の整備 / 学校施設、教材・教具の整備と充実 / 小学校適正規模化の推進 / 生涯学習の推進 / 生涯スポーツの推進 / 文化・芸術活動の振興 / 男女共同参画の推進 など
	次代に引き継ぐ快適で美しい安らぎのまち - 生活・自然環境の向上 -	地球温暖化対策など自然環境の保全 / 公園や緑地の創出と保全 / 住環境の整備や市内への定住促進 / 上・下水道の充実 / 河川や水路の改修整備 / ごみ減量と資源リサイクルの推進 / 災害に強いまちづくり / 火災予防や防火体制の充実 / 地域の防犯体制の支援 / 交通安全の推進 など
	にぎわいと豊かさを創り出す風格のあるまち - 産業の振興 -	商店街の活性化や賑わいの創出 / 中小企業への支援 / 優良農地の確保 / 農家経営の自立・安定 / 地産地消の推進 / 森林の保全や治山 / 資源を生かした観光のまちづくり / 勤労者の生活支援 / 雇用対策の推進 など
	魅力と活気のあるだれもが住みたい楽しいまち - 都市基盤の整備 -	甲府駅周辺地区などにおける魅力あるまちづくり / 計画的なまちづくりの推進 / 公共交通機関の利用促進 / 幹線道路や生活道路の整備 / 情報通信技術を活用した効率的な行政運営 など
景観形成に関する施策	実施計画に位置づけられた施策のうち、景観形成に関わるものは以下のとおり。	
	総合的な景観形成の推進	都市環境の美化を推進し、公共施設的美観の向上や広告物等の景観への調和に努める
	都市景観の形成	魅力的な都市景観の誘導に努める
	自然景観の保全・形成	緑地や自然景観の保全に努める
市民参加の景観づくり	市民参加による景観形成活動を促進し、住宅地の良好な景観の確保に努める	
甲府駅周辺に関する施策	実施計画に位置づけられた施策のうち、甲府駅周辺に関わるものは以下のとおり。	
	甲府駅周辺地区の整備	甲府駅周辺の大規模空地を活用し、新たな拠点施設の整備と企業立地促進に努める (甲府駅周辺土地区画整理事業 / 甲府駅周辺拠点形成事業 / シビックコア地区形成事業)

甲府市都市計画マスタープラン（平成 20 年 3 月 甲府市）

目的等	甲府市の都市整備に関わる施策の体系的な指針となるもの。	
都市像	人がつどい 心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府	
まちづくりの基本方針	<p>「成長と拡大を基調としたまちづくり」から「効率的で魅力あふれる持続可能なまちづくり」を目指すものとして、以下の4つの方針を設定している。</p> <p>人が集まり、人で賑わうまち 歩いて暮らせる便利で安心なまち 地域産業が持続的に成長・発展するまち 環境と共生する、うるおいのあるまち</p>	
将来都市構造	<p>J R 甲府駅及び舞鶴城公園を中心とした区域は県都にふさわしい高次都市機能を集積する「中心市街地ゾーン」の「中心市街地区域」として位置づけられている。</p>	<p> ゾーンの形成 中心市街地ゾーン 都市型居住ゾーン 緑地・公園ゾーン 景観形成ゾーン </p> <p> 拠点の配置 駅周辺 みどりの拠点 </p> <p> 線の形成 主要道路 都市計画線 水とみどりの線 </p>
甲府駅周辺（中心市街地）に関連する主な記述	土地利用の方針	<ul style="list-style-type: none"> 用途に見合った土地利用と高度利用の誘導 / 都市計画道路の整備 / 都心居住の推進 / 公共交通機関の確保 甲府駅周辺の土地区画整理 / 駅周辺の拠点形形成 / シビックコア地区の形成
	交通施設の方針	<ul style="list-style-type: none"> こうふ都心環状線の整備 / 景観に配慮した人に優しい道路づくり / 公共交通の基盤の確保 / 利用者の利便性や快適性に配慮した駅周辺整備
	みどりの方針	<ul style="list-style-type: none"> 公園・緑地の改修や整備 / 庁舎、公民館等での植栽や街路樹による緑化 / アドプト制度などを活用した維持管理
	河川の整備方針	<ul style="list-style-type: none"> 河川改修による良好な水辺空間の形成
	景観形成の方針	<ul style="list-style-type: none"> 甲府城址（舞鶴城公園）の保全・活用 / 県都にふさわしい趣ある都市景観の創出 / 歴史景観と都市景観の調和 来訪者をもてなす魅力ある都市の顔づくり / 鉄道軸及び道路軸における良好な車窓景観の形成

甲府市中心市街地活性化基本計画（平成 20 年 11 月 甲府市）

目的等	「中心市街地の活性化に関する法律」に基づく「中心市街地活性化基本計画」であり、平成 20 年 10 月 8 日付で認定申請を行い、平成 20 年 11 月 11 日、内閣総理大臣に認定された。				
計画区域	甲府市中心部 115ha				
テーマ	自分参加でつくる生き甲斐都市こうふ				
活性化の目標	<p>買い物の場として楽しめる中心市街地の再生</p> <p>歴史や文化にふれることができる中心市街地の再生</p> <p>定住の場所として選ばれる中心市街地の再生</p>				
具体的事業への取り組み	上記目標に基づき、市街地の整備改善、都市福利施設の整備、まちなか居住の推進、商業の活性化、公共交通機関の利便性増進、など各事業を総合的かつ一体的に推進している。				
<p>主要な想定事業の位置図</p> <p>図</p>	<p>甲府駅周辺土地区画整理事業 甲府駅周辺拠点形成事業 シビックコア地区整備事業 舞鶴跨線橋歩道整備事業</p> <p>新県立図書館の整備</p> <p>甲州夢小路事業 県庁舎耐震化等整備事業 紅梅北通り線道路改良事業</p> <p>オリオン通り四つ角再開発調査・検討事業 オリオン・スクエア整備事業 セントラルパーク設置調査・検討事業 古府中浅原橋線整備事業 桜町四丁目駐車場整備事業 和戸町竜王線整備事業</p> <p>舞鶴小学校</p> <p>紅梅地区再開発事業 宝石美術専門学校移転 市役所新庁舎の建設 甲府銀座ビル活用事業 コリド桜町のアーケード改善事業</p> <table border="1" data-bbox="367 1814 734 1971"> <tr> <td></td> <td>(前) 中心市街地区域 (約 110ha)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>追加区域 (約 5ha)</td> </tr> </table> <p>全域対象の事業 まちなか推進事業（ポケットパーク、植栽）</p>		(前) 中心市街地区域 (約 110ha)		追加区域 (約 5ha)
	(前) 中心市街地区域 (約 110ha)				
	追加区域 (約 5ha)				

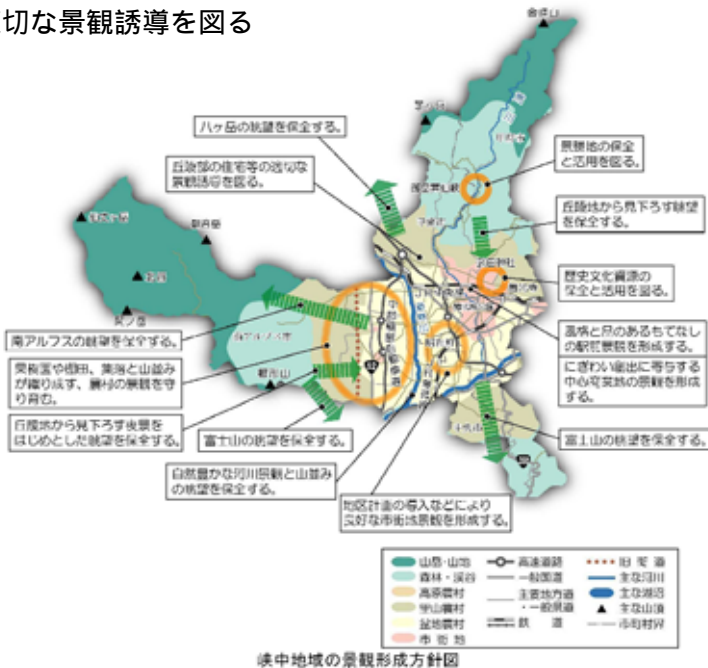
新都市拠点整備事業

目的等	甲府駅周辺を地方中核都市にふさわしい、利便性・安全性の高い交通拠点に改善するとともに、市民をはじめ観光で訪れる全ての人々の交流拠点として賑わいのあるまちづくりや公共施設の整備、改善及び宅地の利用増進など、健全な市街地形成を図り「魅力と活力のある誰もが住みたい楽しいまち」をつくるため、甲府駅北口を中心（一部、南口も含む）に土地区画整理事業及び拠点形成事業が行われている。		
施行面積	土地区画整理（21.9ha）／拠点形成（25.5ha）		
施工期間	土地区画整理（平成3年度～平成35年度）／拠点形成（平成15年度～平成21年度）		
事業内容	北口駅前広場	3,658 m ² 、 H20～21年度	駅前のターミナル機能を強化。よっちゃんお祭り広場と一体的に整備することにより、交流空間として高質化。
	よっちゃんお祭り広場	4,827 m ² 、 H19～21年度	市民や観光客の憩いの場であるとともに、多様な交流を目的とするイベントの開催も可能な都市空間を創出。
	甲府市歴史公園	6,039 m ² 、 H19.3完成	甲府城の山手門や山手渡櫓門を復元し、歴史的景観を後世に伝え、お祭り広場や舞鶴城公園との回遊性を向上。
	中央消防署	1,633 m ² 、 H19.2完成	中心部の防災機能を強化し、安全で安心な生活環境を確保。
	自転車駐輪場	784 m ² 、 H19.8完成	駅機能の利便性を向上のための、1,020台収容、鉄骨造2階建の駐輪場。
	甲府市藤村記念館	189 m ² 、 H19～21年度	国指定重要文化財である旧睦沢学校を武田神社境内より甲府駅北口に移築。
	甲州夢小路事業	3,224 m ² 、 H24年度完成	駅前広場、多目的広場、甲府市歴史公園と連携を図り快適性や偕楽性を附加するため、民間事業者による歴史観光型集客施設を創設。
	甲府駅周辺土地区画整理事業	21.9ha、 H3～35年度	甲府駅周辺の大規模空地（鉄道跡地等）を活用した土地基盤整備。
	甲府地方合同庁舎	H24.1完成予定	国の行政機関のうち9官署を集積し、利用者の利便性の向上と他の施設との機能連携による拠点性の向上。
	NHK甲府放送局	H23年度完成予定	地域の人達に親しまれる、地域文化の創造と情報発信の拠点となる放送局を目指す。
	新県立図書館	H24年度完成予定	新県立図書館、高度情報拠点
整備のイメージ	<p>甲府駅北口整備のイメージ</p>		

(3) 景観形成に関する計画

美しい県土づくりガイドライン (平成21年3月 山梨県)

目的等	県、各市町村、県民、事業者、NPOがそれぞれの立場で景観づくりを行っていく上で、基本となる考えを共有し、地域の個性や特性に応じた取り組みを推進するための手引書
対象範囲	県全域における、林野、農地、河川、道路、都市に関わる全てを対象
ガイドラインの構成	第1章 美しい県土づくりガイドラインとは 第2章 県土における景観の特性と課題 第3章 景観形成の基本方針 第4章 景観形成推進に向けて 第5章 公共事業に関する景観形成 第6章 景観計画策定の手引き
景観形成の基本理念	<ul style="list-style-type: none"> ・ かけがえのない景観を保全・継承する ・ 快適で魅力ある景観を創造する ・ 郷土の美しい景観を見つめる感性を育む
景観形成の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史の風景を活かし、やまなしの文化を育てる ・ 盆地地形を里の景色として大切にする ・ 大自然のパノラマを活かし、もてなしの場をつくる ・ 譲り合うところで、暮らしやすいまちをつくる ・ 生活や風土に根ざした身近な景観を誇りにする ・ 住む人自らが景観づくりの主役となる
甲府駅周辺の位置づけ	<p>甲府駅周辺が位置する峡中地域は「県土の中心にふさわしい活力あるもてなしの景観」を形成するものとされ、このなかで甲府駅周辺に関するは以下のように位置づけられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅周辺等の屋外広告物に対する設置位置や形態意匠の景観誘導により、<u>風格と品のあ</u>るもてなしの駅前景観を形成する ・ 低層部の商店の連続性に配慮した街並み形成や、デザイン看板の設置、歩道の修景等により、<u>にぎわい創出に寄与する中心商業地の景観を形成する</u> ・ 武田家ゆかりの歴史文化資源を保全し、観光資源としての活用を推進するとともに、隣接する建築物等の適切な景観誘導を図る



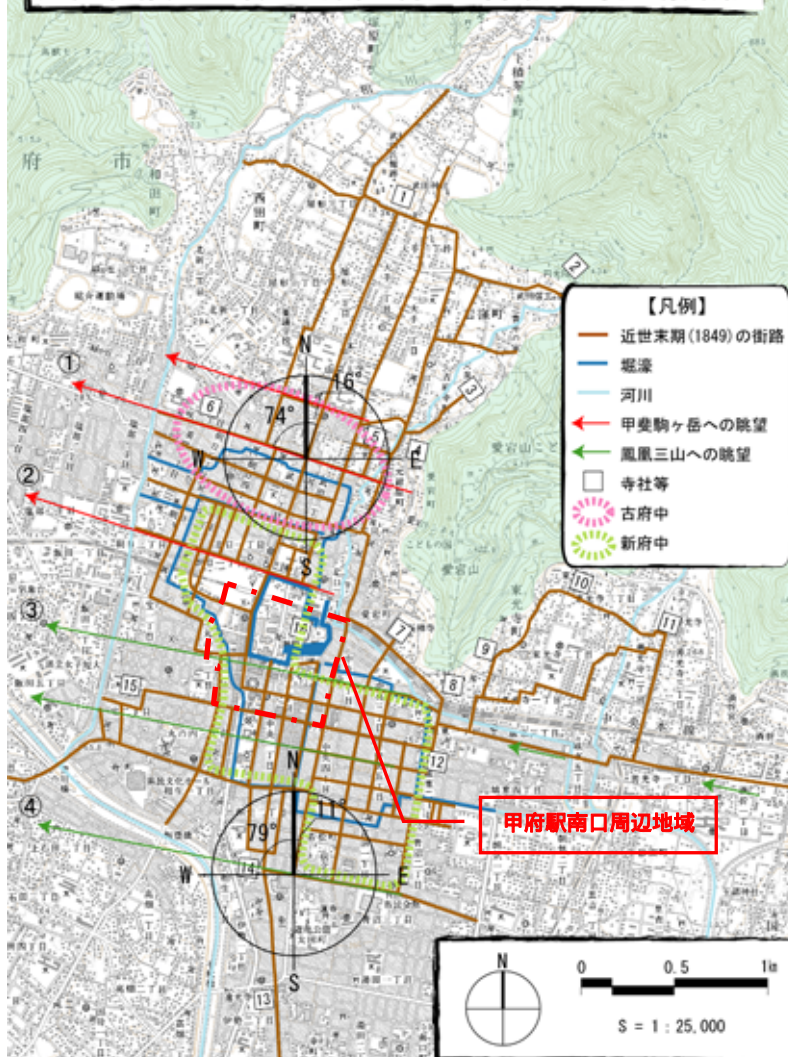
甲府市景観形成基本計画（平成 20 年 2 月 甲府市）

<p>目的等</p>	<p>甲府市における景観形成の総合的な指針であり、守るべき景観や創造すべき景観の基本的な方向性（ビジョン）を示すとともに、その実現に向けた方針を示すもの。</p>													
<p>対象範囲</p>	<p>甲府市全域</p>													
<p>基本的な考え方</p>	<p>こうふらしいい うつくしき ふるさと の景観づくり</p>													
<p>景観形成基本方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・盆地特有の眺望景観や豊かな自然景観を守り、後世に残す ・甲府独特の歴史景観と都市景観を創り、共に活かす ・来訪者をもてなす観光景観を守り、創る ・誇れる地域固有の日常景観を守り、創る <div style="text-align: center;"> </div>													
<p>都心ゾーンの景観形成基本方針</p>	<p>甲府駅周辺は「都心ゾーン」として位置づけられており、『甲府を象徴する「風格」と「華」のある景観形成』を誘導していくものとされている。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">歴史景観と都市景観の調和・共存</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・山梨県庁舎別館（旧館）など歴史的建造物の保全 ・歴史的建造物に隣接する建築物の景観誘導 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">甲府駅周辺の先導的・重点的景観形成</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡（舞鶴城公園）及び歴史公園周辺の景観誘導 ・ゾーン内の公園・広場の適切な維持管理 ・甲府駅北口地区の新しい顔となる象徴的な景観誘導 ・屋外広告物に対する景観誘導 ・四季を感じるみどりや花の設置 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">印象的な眺望景観の確保</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・山並みの眺望保全のための建築物（高さ、屋根等）屋外広告物等に対する景観誘導 ・甲府城跡の眺望軸線上にある建築物、屋外広告物等に対する景観誘導 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">景観軸である平和通りの風格ある景観形成</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の継続的な保全・維持管理 ・官公庁施設及びその周辺における緑化等、先導的・印象的な景観整備 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">中心商業地の賑わい創出に寄与する景観形成</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・路面舗装の修景や沿道の緑化等歩行空間の景観整備 ・休息できるポケットパーク等の確保 ・商店街の特徴あるデザイン看板等の設置誘導 </td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">景観軸であるJR中央本線甲府駅及び鉄道沿線における来訪者に配慮した景観形成</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・駅ホームの印象深く、気品のある修景整備 ・車窓からの眺望を阻害する建築物、工作物、屋外広告物等の景観誘導 </td> </tr> </table>		歴史景観と都市景観の調和・共存	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県庁舎別館（旧館）など歴史的建造物の保全 ・歴史的建造物に隣接する建築物の景観誘導 	甲府駅周辺の先導的・重点的景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡（舞鶴城公園）及び歴史公園周辺の景観誘導 ・ゾーン内の公園・広場の適切な維持管理 ・甲府駅北口地区の新しい顔となる象徴的な景観誘導 ・屋外広告物に対する景観誘導 ・四季を感じるみどりや花の設置 	印象的な眺望景観の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・山並みの眺望保全のための建築物（高さ、屋根等）屋外広告物等に対する景観誘導 ・甲府城跡の眺望軸線上にある建築物、屋外広告物等に対する景観誘導 	景観軸である平和通りの風格ある景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の継続的な保全・維持管理 ・官公庁施設及びその周辺における緑化等、先導的・印象的な景観整備 	中心商業地の賑わい創出に寄与する景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・路面舗装の修景や沿道の緑化等歩行空間の景観整備 ・休息できるポケットパーク等の確保 ・商店街の特徴あるデザイン看板等の設置誘導 	景観軸であるJR中央本線甲府駅及び鉄道沿線における来訪者に配慮した景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・駅ホームの印象深く、気品のある修景整備 ・車窓からの眺望を阻害する建築物、工作物、屋外広告物等の景観誘導
歴史景観と都市景観の調和・共存	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県庁舎別館（旧館）など歴史的建造物の保全 ・歴史的建造物に隣接する建築物の景観誘導 													
甲府駅周辺の先導的・重点的景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府城跡（舞鶴城公園）及び歴史公園周辺の景観誘導 ・ゾーン内の公園・広場の適切な維持管理 ・甲府駅北口地区の新しい顔となる象徴的な景観誘導 ・屋外広告物に対する景観誘導 ・四季を感じるみどりや花の設置 													
印象的な眺望景観の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・山並みの眺望保全のための建築物（高さ、屋根等）屋外広告物等に対する景観誘導 ・甲府城跡の眺望軸線上にある建築物、屋外広告物等に対する景観誘導 													
景観軸である平和通りの風格ある景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・街路樹の継続的な保全・維持管理 ・官公庁施設及びその周辺における緑化等、先導的・印象的な景観整備 													
中心商業地の賑わい創出に寄与する景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・路面舗装の修景や沿道の緑化等歩行空間の景観整備 ・休息できるポケットパーク等の確保 ・商店街の特徴あるデザイン看板等の設置誘導 													
景観軸であるJR中央本線甲府駅及び鉄道沿線における来訪者に配慮した景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・駅ホームの印象深く、気品のある修景整備 ・車窓からの眺望を阻害する建築物、工作物、屋外広告物等の景観誘導 													

歴史公園及び舞鶴城公園と甲府五山等の連携の指針（平成16年4月 甲府市）

目的等	甲府の歴史を代表する甲府城と信玄が制定した甲府五山周辺を調査し、歴史公園との連携を図りながら、歴史を感じられるまちづくりの実現に向けた整備や仕組みの方向性を示したもの。市民と行政が一体となって甲府の歴史を考え、現代の便利な生活を維持しつつ、真の豊かさが実感できるまちづくりを進めていくための指針。
基本コンセプト	歴史公園、甲府城、甲府五山等の連携は、“歩くこと”を基本とした歩行ネットワークで連結することとし、以下の基本コンセプトを設定している。 「快適で趣のある歩行空間 - 甲斐の歴史回廊」
連携の方針	歩行軸による連携（南北の歩行軸、東西の歩行軸） 自然環境と歴史資源の連携 都市景観と歴史資源の連携
歩行軸のデザイン指針	歩者共存道路（車のスピードコントロール） トータルデザインコンセプト （デザインを統一する、場所に応じてデザインを変える）
歴史を感じるまちの演出	道路・広場・路地の演出 緑化による演出 建築物による演出

近世末期(1849年)の町割と現代の街路から見た景観軸



(4) 観光振興に関する計画

甲府市観光振興基本計画(平成21年3月 甲府市)

目的等	甲府市総合計画で目指す都市像「人がつどい 心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府」と基本目標「にぎわいと豊かさを創りだす風格のあるまち」の実現に向け、総合的な観光振興策を示すもの。		
計画のキャッチフレーズ	自然と調和した都市観光 甲斐の府中490年の歴史 人がつどい、まちを巡り、滞在する新たな観光を目指して		
基本方針	ようこそ甲府へ ～地域資源を活用したもてなしのまちづくり～	地域資源の検証と活用 おもてなしの配慮 外国人旅行者への対応	
	甲府っていいよね! ～自然とまちを巡る、新たな滞在型観光の推進～	滞在型観光の推進 コンベンション誘致の推進	
甲府駅周辺や景観に関連する観光振興施策・事業	観光資源の魅力の発掘	甲府ブランドの確立	「武田信玄」、「宝石の街甲府」など地域固有の観光資源の活用
		都市学習の場の創出	新市庁舎や藤村記念館などにまちの歴史や地域資源を学べる場の設置
	観光資源の整備と活用	自然景観・歴史景観の保全	景観条例に基づき、自然景観・歴史景観の保全に関する取り組みの推進
		歴史資源の時代考証を踏まえた活用	藤村記念館、歴史公園、舞鶴城公園などの歴史的背景を踏まえた活用
		甲府駅周辺の整備	甲州夢小路の設置や藤村記念館の移築、南北通路の設置、多目的広場の整備など甲府駅周辺の拠点整備
	快適で安全に過ごせる環境整備	まちなかの緑化推進	フラワーポットの設置など花と緑による都市景観づくり
		まちのユニバーサルデザイン化への取り組み推進	案内表記の統一したピクトグラム化、観光施設のユニバーサルデザイン化など
	交通手段の充実	武田信玄公像の御身拭い	甲府駅南口の信玄公像の年1回の清掃作業(年末の風物詩)
		「レトボン」の活用	中心市街地の無料回遊バス「レトボン」の観光への活用検討
	お祭り、イベント企画の充実	公共交通の利便性の向上	観光地を結ぶ交通網、シャトルバスの導入など
		駐車場整備の検討および要望	観光施設および甲府駅周辺における駐車場整備の検討および要望
		新イベントの企画検討	甲府駅周辺整備に合わせて、歴史公園、多目的広場などを活用した新イベントの企画検討
	平成25年の国民文化祭に向けたイベント企画の検討	国民文化祭に向け、地域資源を活用したイベントの企画検討	
	「信玄公祭り」の企画充実	観光客がより一層楽しめるお祭りの企画検討	

2 - 2 . 地域の成り立ちと現況

(1) まちの歴史と景観

甲府の成り立ち

中世

甲府は中世、武田氏によってつくられた城下町で、永正 16 年(1519 年)に、武田信虎が石和から躑躅ヶ崎(甲府駅北側)に館を移し、ここを拠点として家臣団を周辺に町割りして城下町を創設したのが始まりである。以来、「甲府」- 甲斐府中の略 - の名が示すように、名実ともに甲府は甲斐国の政治、経済、文化の中心として発展してきた。

近世

武田氏の滅亡後、中世武田城下町の南方に甲府城が築城され、近世甲府城下町が新たに形成された。近世甲府城下町では柳沢吉保が甲府城主となった宝永元年(1704 年)以降に大規模な都市整備が行われ、現在の甲府市街地の基礎が形成された。甲府駅南口周辺地域はこの範囲に含まれる。

明治以降

明治 6 年には山梨県令藤村紫朗が甲府の町の改革を断行し、橋町にあった刑務所を深町に移し、ついでに城内外の堀を埋め立て、錦・桜町、紅梅、富士見町などの新しい町を作った。

明治 22 年には、旧甲府総町(錦町外 37 町)上府中総町(22 町)に甲府飯沼・稲門村を合併し市制を施行し、以来、4 次にかけて次々に合併し、市域を拡大してきた。

なお、昭和 20 年 7 月の甲府空襲は市域の 74% を焦土と化し、甲府の古き良き時代の面影は失われてしまったが、終戦直後には戦災復興局が設置され、市民一丸となって復興が進められた。

甲府の町割と景観

中世戦国期のランドスケープ

中世戦国期に形成されたとされる中世武田城下町は、相川扇状地の扇頂部に配置された躑躅ヶ崎館跡から、ほぼ二町間隔に 4 本の南北街路が等高線に直交するように扇状地裾野に向かって伸びている。これに三の堀内外の 3 本の東西街路が 90 度で交差し、この付近に町屋地区が形成されている。近世に形成された二の堀内の武家地においても、中世武田城下町の軸線が街区構成に採用されている。

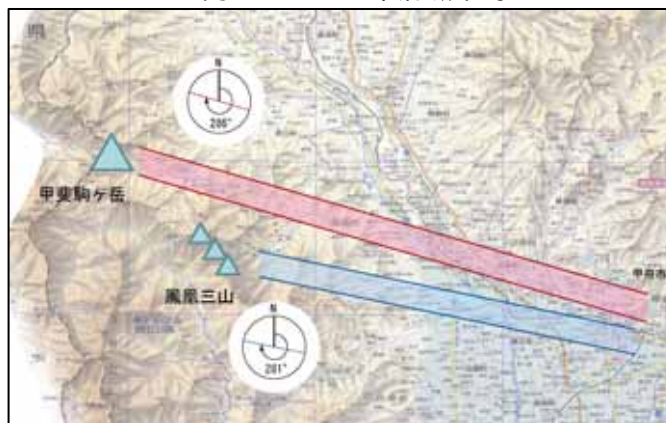
近世江戸期のランドスケープ

近世甲府城下町は、三の堀内に明確な格子状の街路形態を持つ。甲府城の前身である一条小山の南側一帯にあった広範囲な条里型地割がそのベースとなったとされる。また、甲州街道を軸とした独自の町割り形成の可能性もある。

市街地の 2 つの景観軸

中世武田城下町と近世甲府城下町における東西街路の僅か 5° の角度差が生み出す 2 つの景観軸によって、現在の甲府市街地は構成されている。

南アルプスと甲府城下町



古地図に見る対象地域の変遷

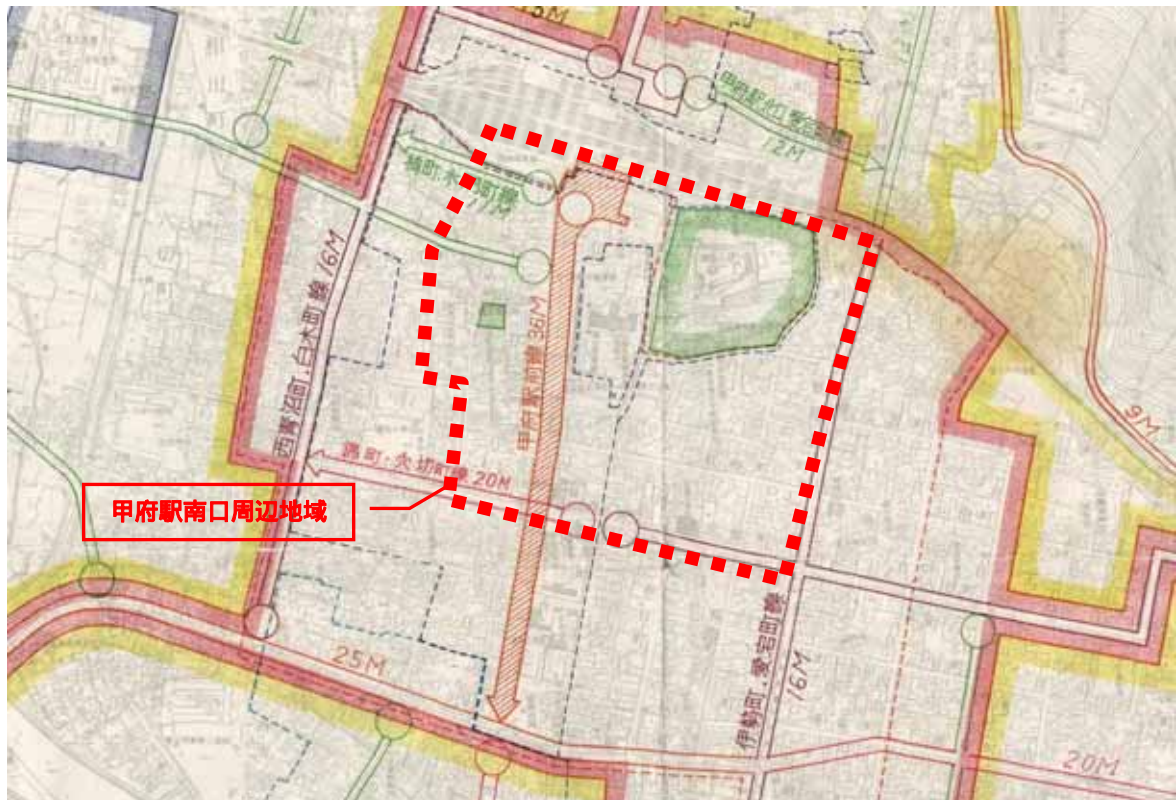
嘉永 2 年 (1849 年)の「甲府城及び甲府絵図」と昭和 34 年(1959 年)の「甲府都市計画図」を見ると、甲府駅南口周辺地域は甲府城とその周辺に広がる城下町であったことが分かる。

また、鉄道の整備により甲府城が南北に分断されたこと、道路の整備などにより堀がなくなっ
ていったことなどが見てとれる。

1849年「甲府城及び甲府絵図」



1959年「甲府市都市計画図」



写真で見る甲府駅南口駅前広場の変遷

甲府駅は、明治 36 年(1903 年)に開業した。昭和 30 年代はじめには県都の玄関としての形が整い、昭和 61 年の「かいじ国体」の開催にあわせ昭和 61 年に現在の駅前広場が完成した。



1. 明治 36 年 6 月、甲府駅の開業。巨大な祝賀アーチには、初代甲府市長・若尾逸平の「祝開通」の書が掲げられている。



2. 敗戦後、運行を再開した山梨交通電車。



3. 昭和 33 年の甲府駅上空からの眺め。戦後 13 年を経過し、県都の玄関としての形が整った。



4. 昭和 35 年、甲府駅前ロータリーに甲府市の名産水晶をイメージした大型の噴水が完成。



5. 昭和 61 年の「かいじ国体」の開催にあわせ昭和 60 年 10 月、現在の甲府駅ビルが完成。

対象地域の主な歴史的な建造物

甲府駅南口周辺地域においては、戦災により古き良き時代の面影の多くは失われてしまっているが、そのようななか地区の貴重な歴史的な資産としては甲府城、山梨県庁の議事堂や別館がある。

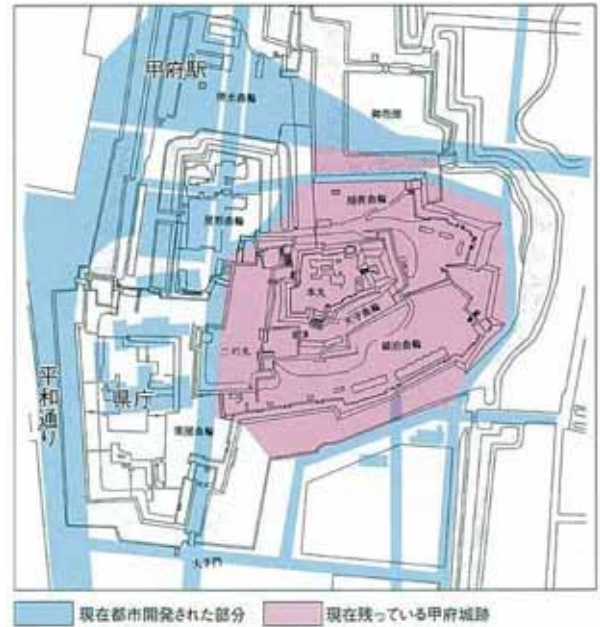
甲府城（舞鶴城公園）

豊臣秀吉の天下統一後、甥の羽柴秀勝と腹心の部下である加藤光泰らによって築城が始められ、浅野長政・幸長父子の手により完成した。慶長5年(1600年)の関ヶ原の戦い以降は再び徳川家の城となり、幕末まで城は存続した。

明治時代になると廃城となり、明治10年頃には城内の主な建物は取り壊され、勸業試験場として利用が始まり、明治30年には、中央線敷設に伴い屋形曲輪、清水曲輪の解体が決定され、甲府停車場（今の甲府駅）の建設地となった。明治37年に本丸周辺を舞鶴公園として開放、昭和5年には、甲府中学校の移転に伴い、県庁舎や県会議事堂が楽屋曲輪跡に移り、同時に西側、南側の堀は完全に埋められた。

平成4年以降発掘調査等が行われ、稲荷櫓や山手渡櫓門等が復元された。

甲府城の縄張りとその現在の状態



山梨県議会議事堂・委員会室棟、山梨県庁舎別館

山梨県議会議事堂は、昭和3年に建築された鉄筋コンクリート造の建物で、地上2階、地下1階、延床面積は4,167㎡である。昭和37年に東側部分の委員会室棟を増築している。

山梨県庁舎別館は、昭和5年に建築された鉄筋コンクリート造の建物で、地上4階、地下1階、延床面積は6,589㎡である。昭和28年に4階部分を増築している。

ともに県教育委員会編集の「山梨県の近代化遺産」において、質・規模・意匠のいずれの面からも貴重な遺構として報告されており、平成21年12月24日に山梨県指定文化財となった。



甲府城（舞鶴城公園）の概要

都市計画	公園	都市公園「舞鶴城公園」に指定されている。
	用途地域	舞鶴城公園は風致地区（5.5ha） 公園の周辺は商業地域（600/80、400/80）
整備状況	面積	6.1ha
	公園種別	特殊公園（風致公園）
	主要施設	石垣・堀・稲荷櫓・武徳殿・日本庭園・自由広場・公園駐車場(大型バス身障者用; 平常時閉鎖)・その他広場・曲輪・公園管理事務所 等
利用特性	利用者特性	年間利用者数：約 25 万人（資料：山梨県都市計画課） 県外からの観光利用が多く、これら利用者は滞在時間の短い典型的な立ち寄り型の利用となっている（資料：H19 舞鶴城公園利用実態調査）
	定期イベント	信玄公祭り(春)、甲府えびす講祭り(秋)
	甲府城の歴史	<p>1590(天正 18) 羽柴秀勝（豊臣秀吉の甥）が甲府城主となり、部下の加藤光泰らとともに築城を開始</p> <p>1593(文禄 2) 浅野長政・幸長が城主となり、城が完成</p> <p>1664(寛文 4) 半世紀ぶりの大修理</p> <p>1706(宝永 3) 城内の曲輪修復や殿舎の造営が行われる</p> <p>1727(享保 12) 甲府城大火（本丸御殿、銅門などを焼失）</p> <p>1868(慶応 4) 明治維新、板垣退助らが無血入城</p> <p>1873(明治 6) 廃城、内城のみが残される</p> <p>1876(明治 9) 内城全体に勸業試験場設置</p> <p>1877(明治 10) 鍛冶曲輪跡に葡萄酒醸造所を設置</p> <p>1897(明治 30) 清水曲輪跡に中央線甲府停車場を設置</p> <p>1900(明治 33) 楽屋曲輪跡に県立甲府中学校を建設</p> <p>1904(明治 37) 甲府城跡を舞鶴公園として開放</p> <p>1906(明治 39) 城内にて 1 府 9 県連合共進会を開催、遊亀橋架橋、稲荷曲輪跡に機山館を新築</p> <p>1922(大正 11) 本丸に謝恩碑建設</p> <p>1926(大正 15) 内城石垣の一部（楽屋曲輪）を解体、跡地に県庁を新築</p> <p>1953(昭和 28) 鍛冶曲輪跡に恩賜林記念館を新築</p> <p>1962(昭和 37) 公園として供用開始</p> <p>1968(昭和 43) 県指定史跡（史跡名称甲府城跡）となる</p> <p>1990(平成 2) 舞鶴城公園整備事業に着手</p> <p>2004(平成 16) 稲荷櫓完成</p> <p>2007(平成 19) 甲府市歴史公園・山手御門完成</p>

（資料：甲府市ホームページ）



(2) 対象地域の現況

人口の推移

甲府市の中心市街地の人口は、平成20年4月1日現在で5,804人となっており、市全体人口に占める割合は3.0%となっている。

その推移を見ると、平成18年までは減少していたが、平成19年以降はまちなか居住再生事業等に伴うマンションの立地などにより増加に転じている。

老年人口比率は平成20年4月1日現在で31.5%となっており、市全体の老年人口比率（平成17年国勢調査）22.2%と比べても、かなり高齢化が進行している状況がうかがえる。

対象地域と中心市街地との関係



中心市街地の人口の推移



中心市街地の年齢層別人口の推移



商業の動向

平成16年商業統計調査によると中心市街地の小売業の商店数442店で平成9年の643店に比べて3割以上減少し、これにあわせて年間商品販売額なども大きく減少している。

市全体に占める中心市街地のシェアも変化しており、平成9年から平成16年にかけて、商店数は20.9%から16.6%へ、年間商品販売額は25.8%から18.3%へとシェアを低下させている。

小売業商店数の推移



小売業の年間商品販売額の推移



歩行者通行量

人口の減少や商業活動の低下等にあわせて、中心市街地の歩行者数も減少傾向にあったが、平成 21 年から 22 年にかけては増加に転じている。

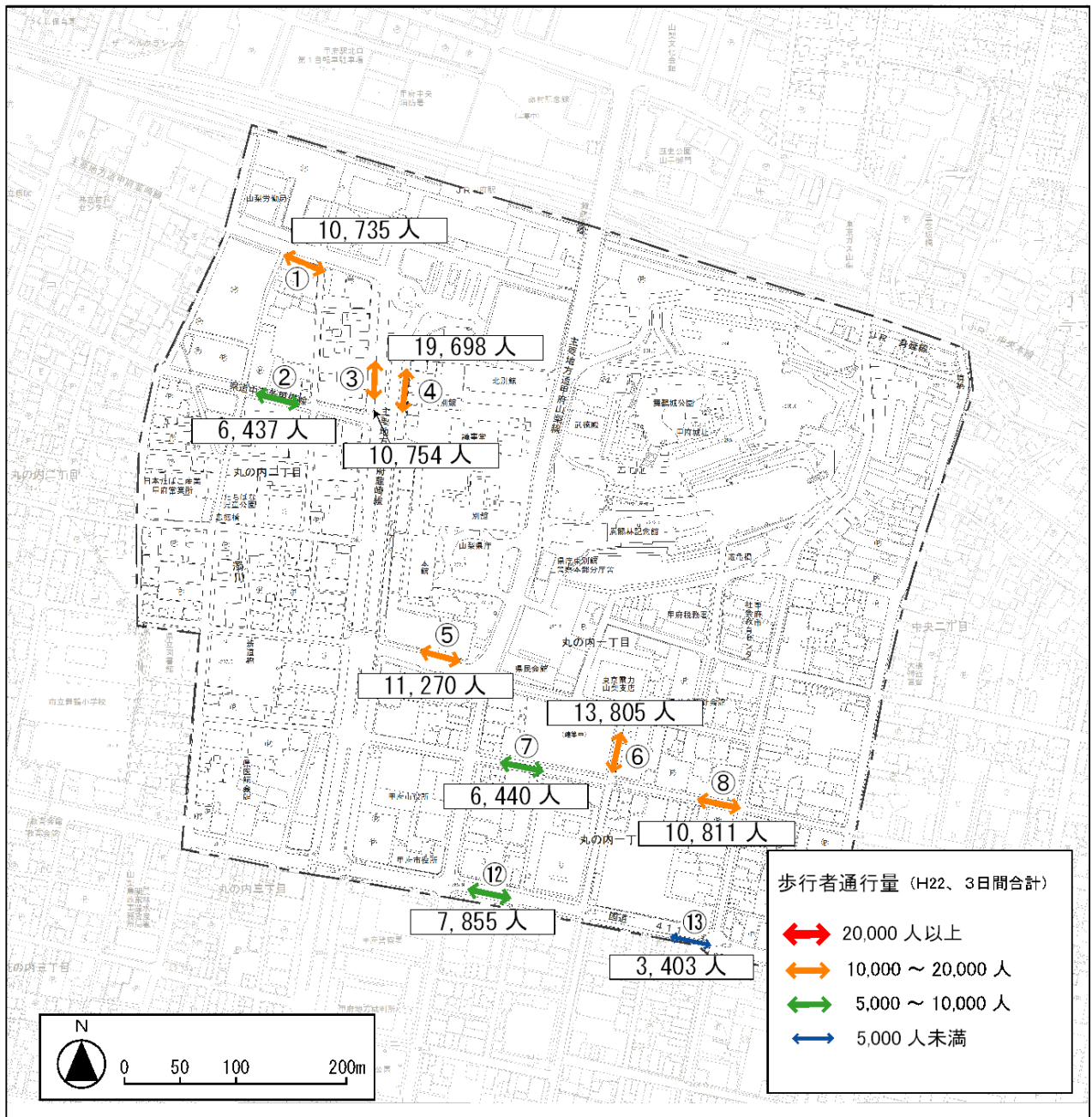
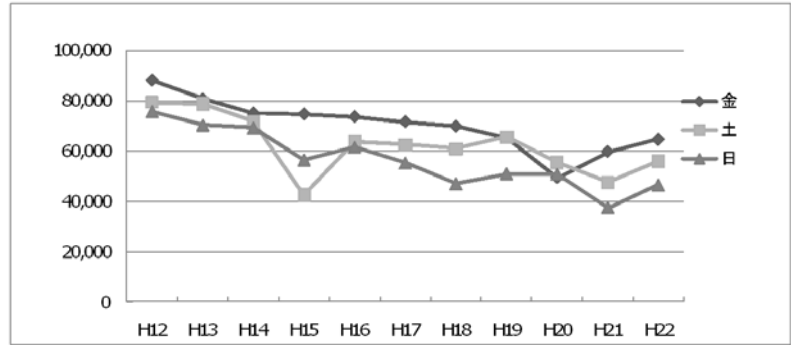
この増加は、紅梅地区再開発事業の完成、オリオン通りの改装及びB1グランプリをとった「甲府鳥もつ煮」の効果によるものと推察される。

平成 22 年で、最も歩行者数（金・土・日の3日間の合計値）が多いのは、平和通り東側（水琴酒堂前）で約 20 千人、次いで kokori オリオン通り口南の約 14 千人となっている。

歩行者交通量図（H22、金土日の3日間合計）(H22年度甲府市中心商店街歩行者交通量調査結果報告書より)

中心商店街の曜日別推移

(H22年度甲府市中心商店街歩行者交通量調査結果報告書より)



土地・建物の状況

対象地域には、商業用地が広く分布しており、まとまった商業集積は甲府駅周辺と南東部の岡島周辺に見られる。

平和通り東側沿道は県庁、市役所などの官公庁施設が集積している。平和通り西側は、区画道路や公園が整っているが、住宅、商業、業務施設等が混在し、大規模な青空駐車場などの低利用地も比較的多く見られる。

甲府城(舞鶴城公園)南側は住宅、商業、業務施設のほか、税務署、社会教育センターなど官公庁施設が分布している。

また、中心市街地におけるマンションの立地状況は右表のとおりであるが、10階階以上の高層マンションの立地が進んでいる。

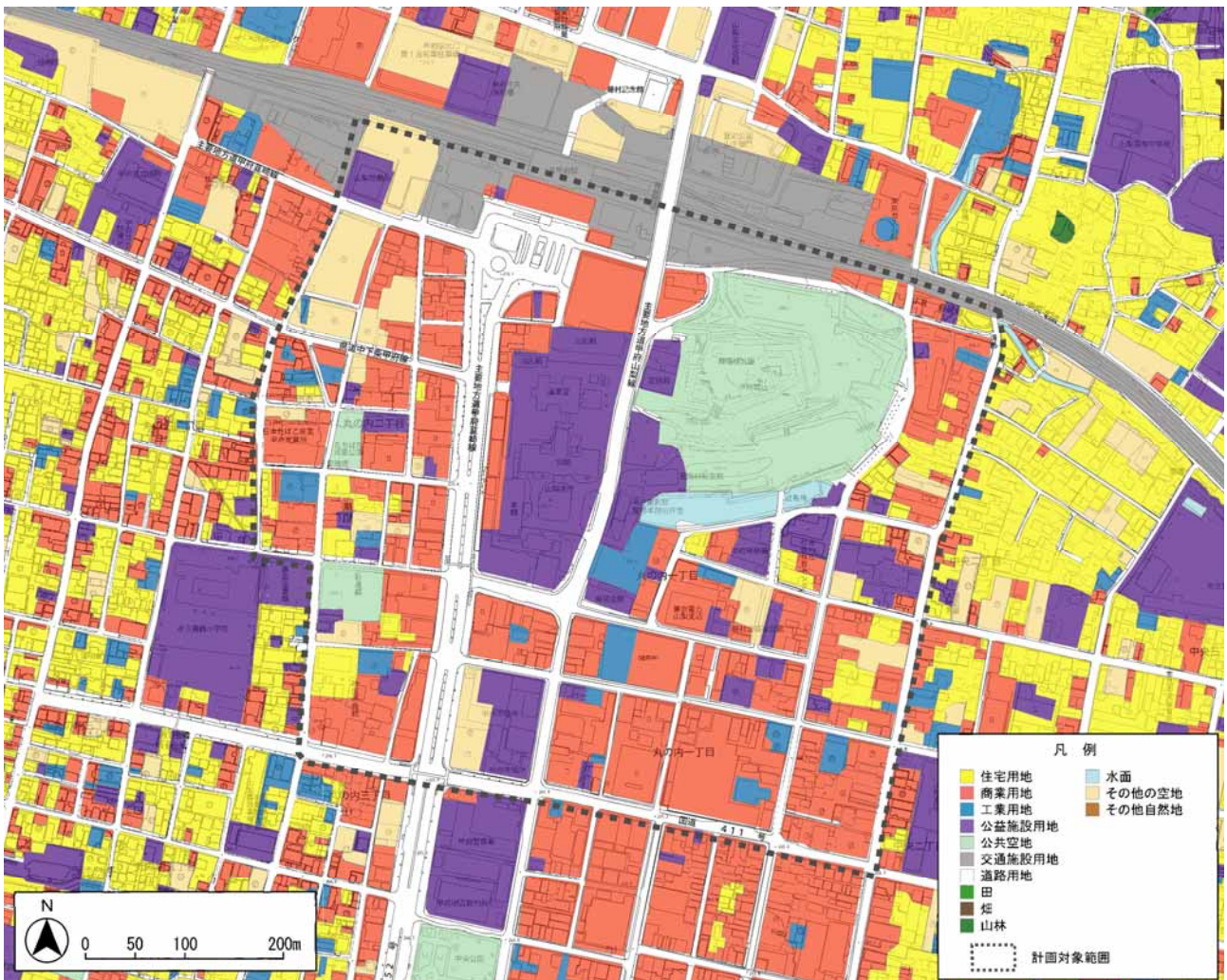
中心市街地におけるマンション立地状況
(甲府市中心市街地活性化基本計画より)

(単位:戸、㎡、階、階、人)

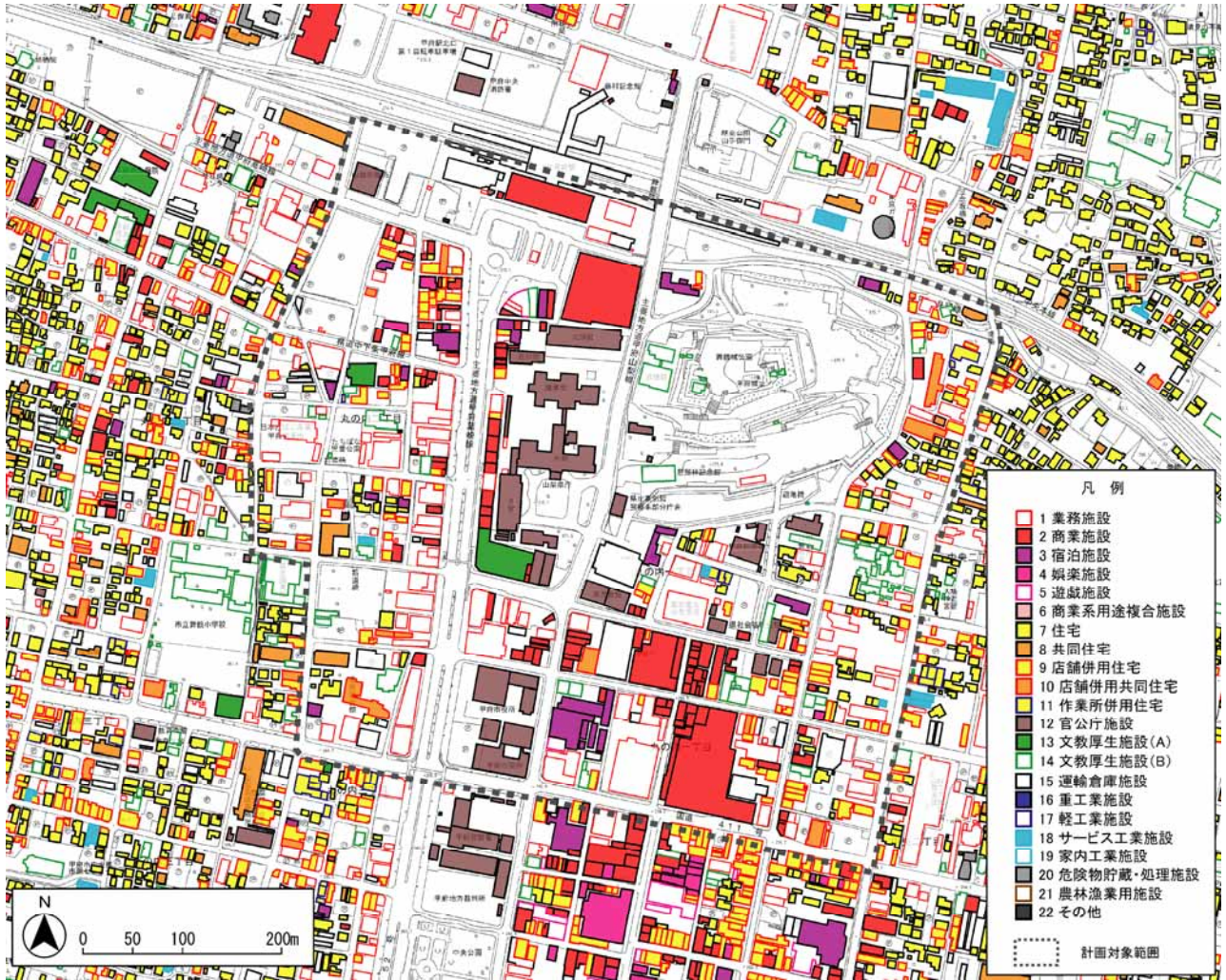
完成年度	戸数	延べ面積	敷地面積	階数	地階	入居者予測数
17	42	2,770	956	11	0	87
17	45	7,160	992	12	1	93
17	56	6,054	1,138	14	1	115
18	107	13,948	2,756	15	1	220
19	64	20,189	3,283	25	0	132
20	95	8,206	1,938	13	0	196

注) 入居者予測数については、平成17年国勢調査における1世帯当たり人員2.06人を戸数に乗じた値としている

土地利用現況図(平成19年度甲府都市計画基礎調査より作成)



建物用途別現況図（平成19年度甲府都市計画基礎調査より作成）



土地利用規制の状況

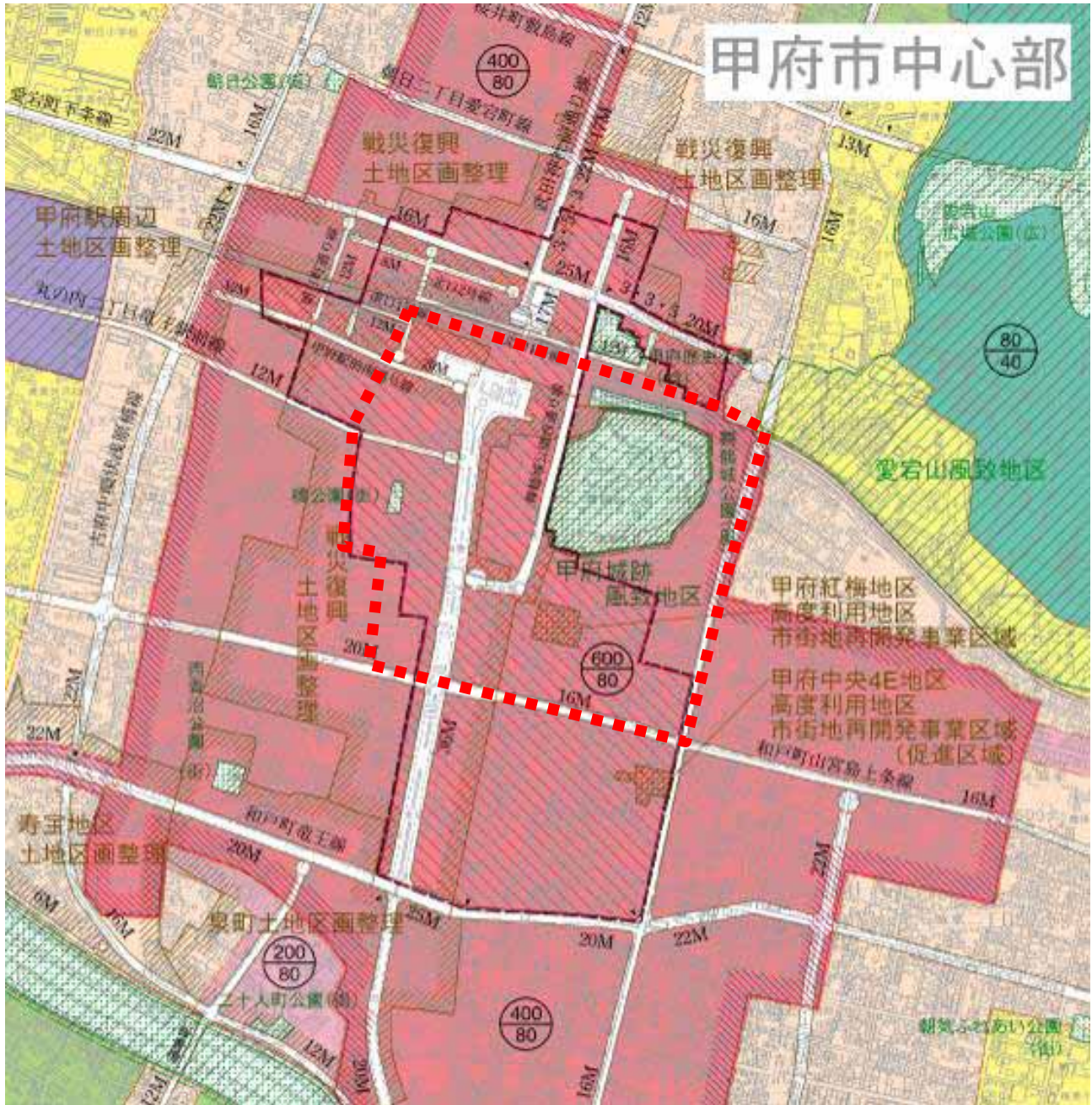
対象地域は、全域が商業地域に指定されている。

駅周辺から平和通り沿道及び城東通り沿道にかけてのエリアは防火地域に指定され、容積率は他のエリア（400%）よりも高い600%となっている。

舞鶴城公園は風致公園として都市計画決定されており、あわせて風致地区が指定されている。

平和通り、舞鶴通り、城東通りなどの主要道路は都市計画道路として都市計画決定されている。

都市計画図



甲府駅南口周辺の駐輪実態

平成 21 年 12 月に実施された実態調査によると、甲府駅南口周辺の駐輪需要は最大で約 1,600 台となっている。

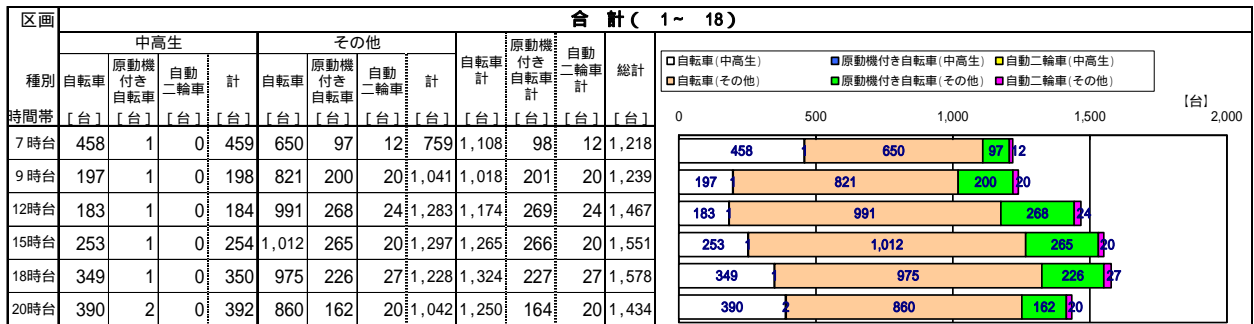
これに対して、南口周辺の駐輪場の収容可能台数は約 780 台であり、収容台数を大幅に上回る需要があることが分かる。

駐輪場で収容しきれない自転車やバイクは、必然的に歩道上などに放置されることとなり、歩行を障害、景観を阻害する要因ともなっている。

山梨県や甲府市では、放置自転車対策として、警告書貼付や撤去を定期的の実施している。



駐輪状況 (H21 実態調査より)



甲府駅南口周辺の駐輪場の収容可能台数

名称	収容可能台数	管理者
駅前広場駐輪場	300台	山梨県
跨線橋東市営駐輪場	325台	甲府市
舞鶴跨線橋下駐輪場	150台	甲府市
合計(東西)	775台	

道路管理者としての放置自転車の撤去の実績 (県道甲府葦崎線の甲府駅前～スクラブル交差点)

年度	実施回数	警告書(ビラ)	撤去台数	備考
H8	2	1,336	142	
H9	1	1,400	198	返還1台
H9	1	400	90	酒折駅前
H10	1		186	
H11	1	630	123	
H12	2	1,300	366	返還23台
H13	3	1,040	268	
H14	2	1,100	294	
H15	3	900	189	
H16	4	2,200	578	
H17	4	1,200	344	
H18	3	500	243	返還8台
H19	4	1,000	391	返還57台
H20	4	2,585	277	返還40台
H21	4	2,500	157	返還11台

2 - 3 . 公共施設の現況

本計画で対象としている公共施設に関して、景観の視点から、現況を把握、整理した。

(1) 景観構成別の現況

対象地域内の主要な道路及び広場について、以下の項目毎に現況を把握した。

歩道の舗装	ストリートファニチャ（線状に設置されているもの）
ストリートファニチャ（単独で設置されているもの）	街路樹（並木）
案内板	照明（夜間景観）

この結果、路線や区間ごとに様々なデザイン、色のものがあり、地域全体としての統一感があまり感じられないことが明らかとなった。また、老朽化により機能が低下し、景観的に好ましくなく、更新が必要と考えられるものも見られた。

歩道の舗装

歩道の舗装は、路線、区間によって様々な色、パターン、素材が使われている。同一路線であっても通りや交差点を隔てて舗装が異なるところも見られる。

ストリートファニチャ（線状に設置されているもの）

車止め、照明灯、ベンチなど、道路に線状に設置されているものについて把握した。

歩道の舗装ほどではないが、路線、区間によって様々なものが設置されている。

照明灯は全般的に茶系が多く、また視線に入りづらいこともあり、形状が異なってもあまり違和感がないが、車止めは色、形状、素材に様々なものがあり、舗装と同様に統一感を低下させる要因となっている。

ストリートファニチャ（単独で設置されているもの）

モニュメントや大規模な照明灯など単独で設置されているものについて把握した。

大きなモニュメントは駅前広場や平和通りで設されているが、全般的に設置年次の古いものが多く、老朽化が目立っている。

商店街では彫刻などが設置されているが周辺環境と必ずしもあっていないものも見受けられる。

街路樹（並木）

街路樹については、平和通りや駅前広場のケヤキが印象的であるが、シラカシ、ハナミズキ、ソメイヨシノなどが植えられている。

案内板

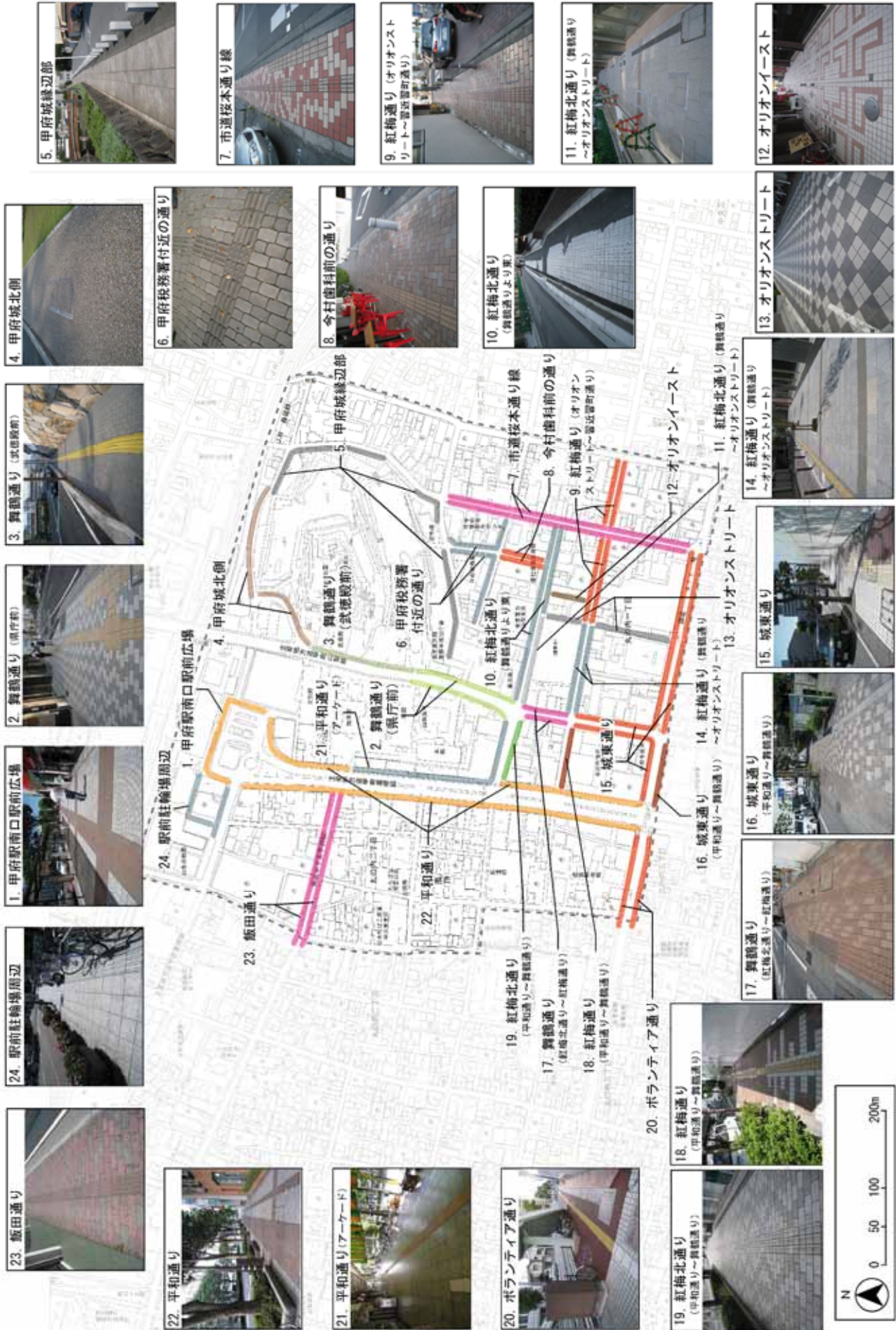
案内板は、南口駅前広場、平和通り、城東通りで多く設置されているが、それぞれ形状、色などがばらばらで統一感が感じられない。

特に南口駅前広場には数多くの案内板が設置されているが、同様のものが重複して設置されている状況も見られており、景観を乱す要因ともなっており、整理が必要と考えられる。

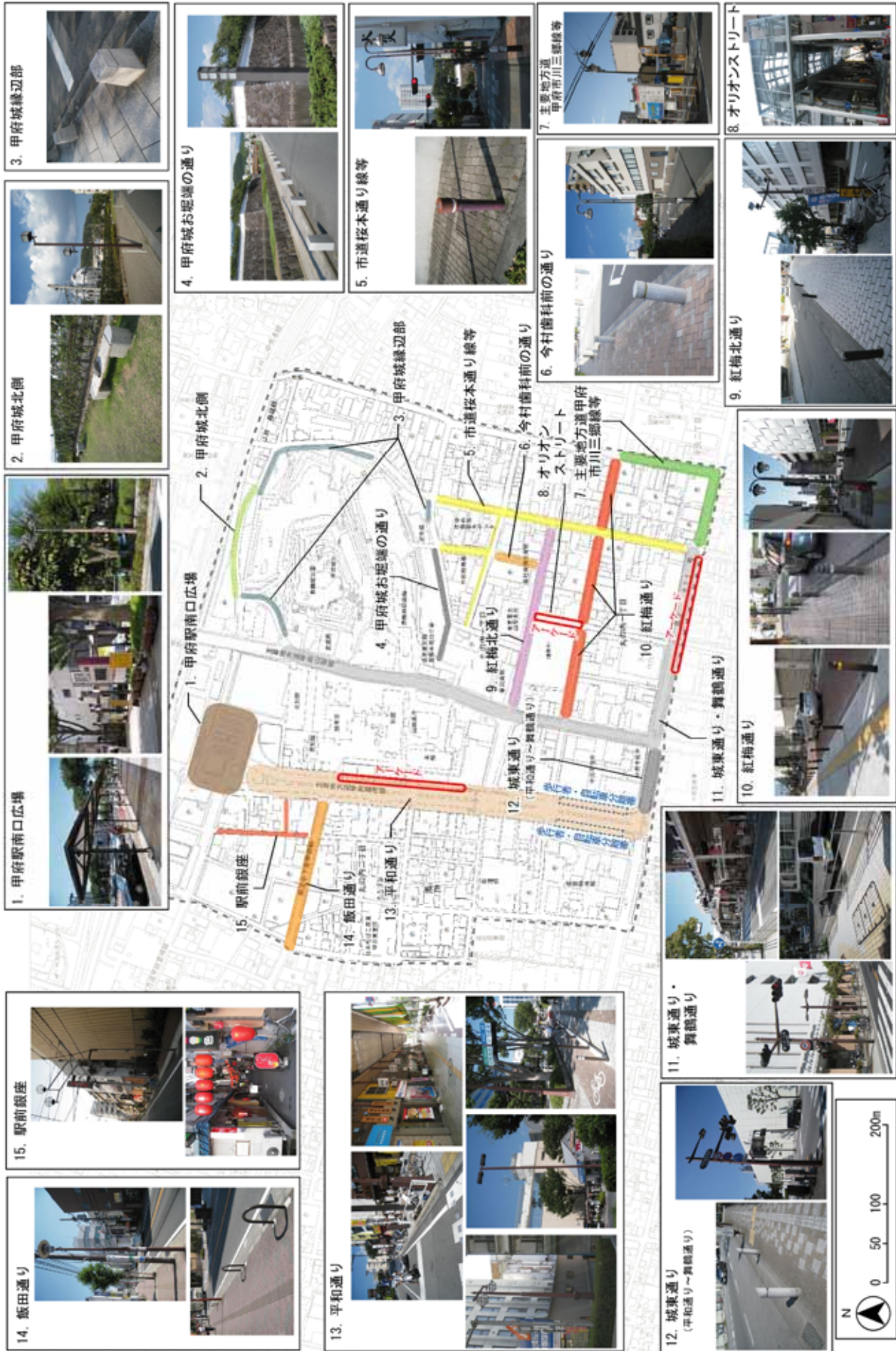
夜間景観（照明）

店舗が閉まっていることもあり全般的に通りが暗い印象があるが、甲府城周辺ではライトアップも行われており、印象的な夜間景観を呈している。

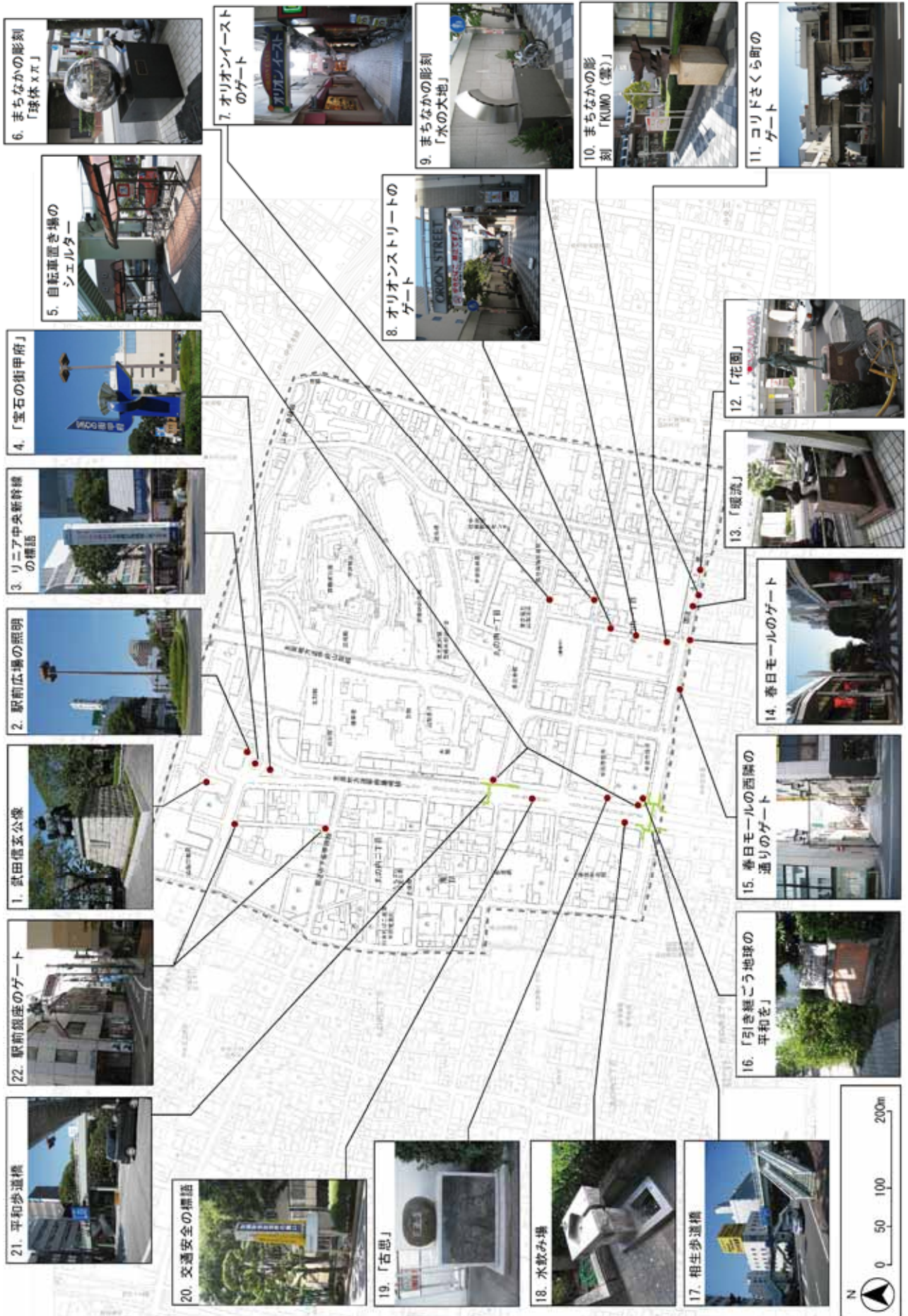
歩道の舗装



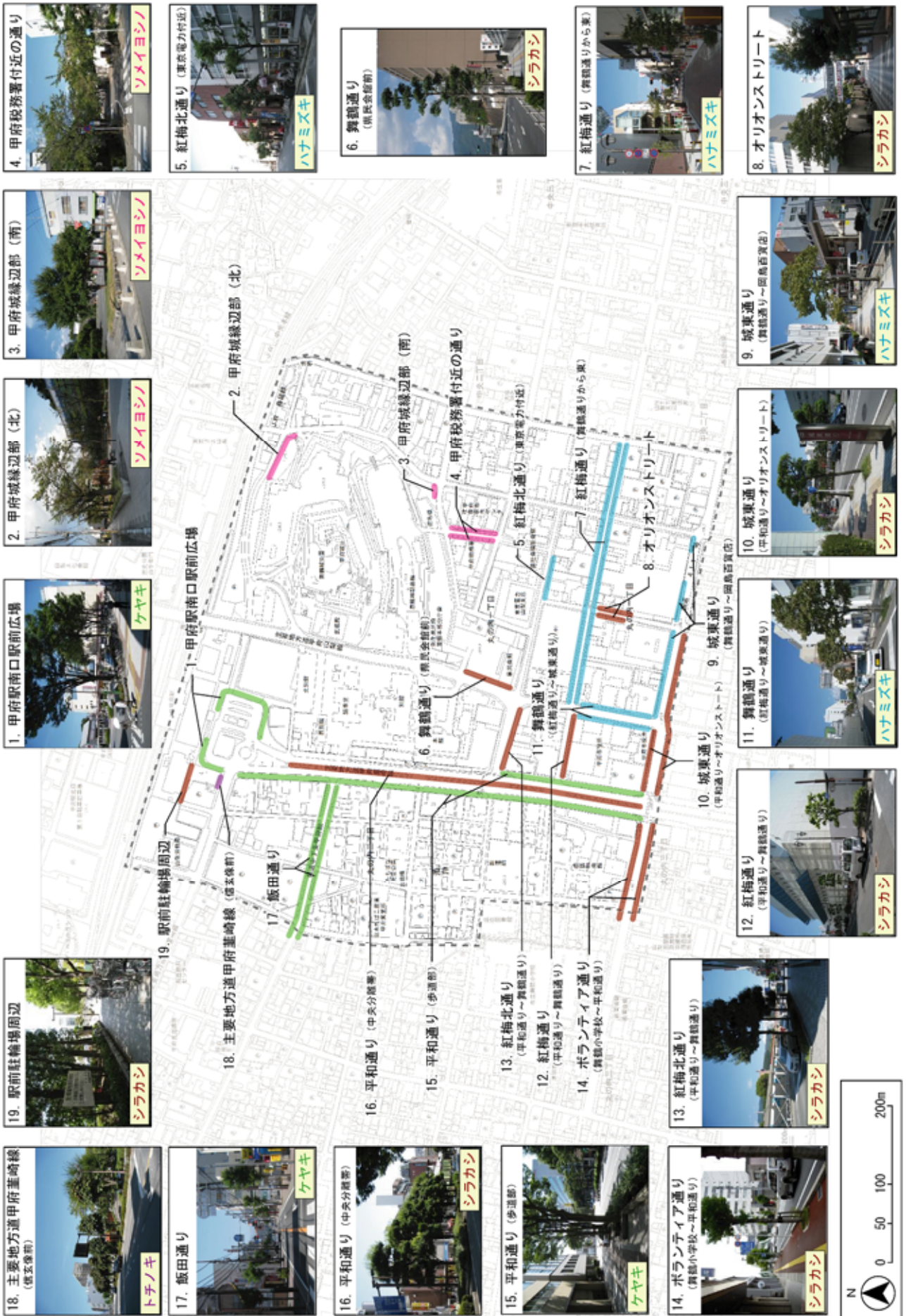
ストリートファニチャ（線状に設置されているもの）



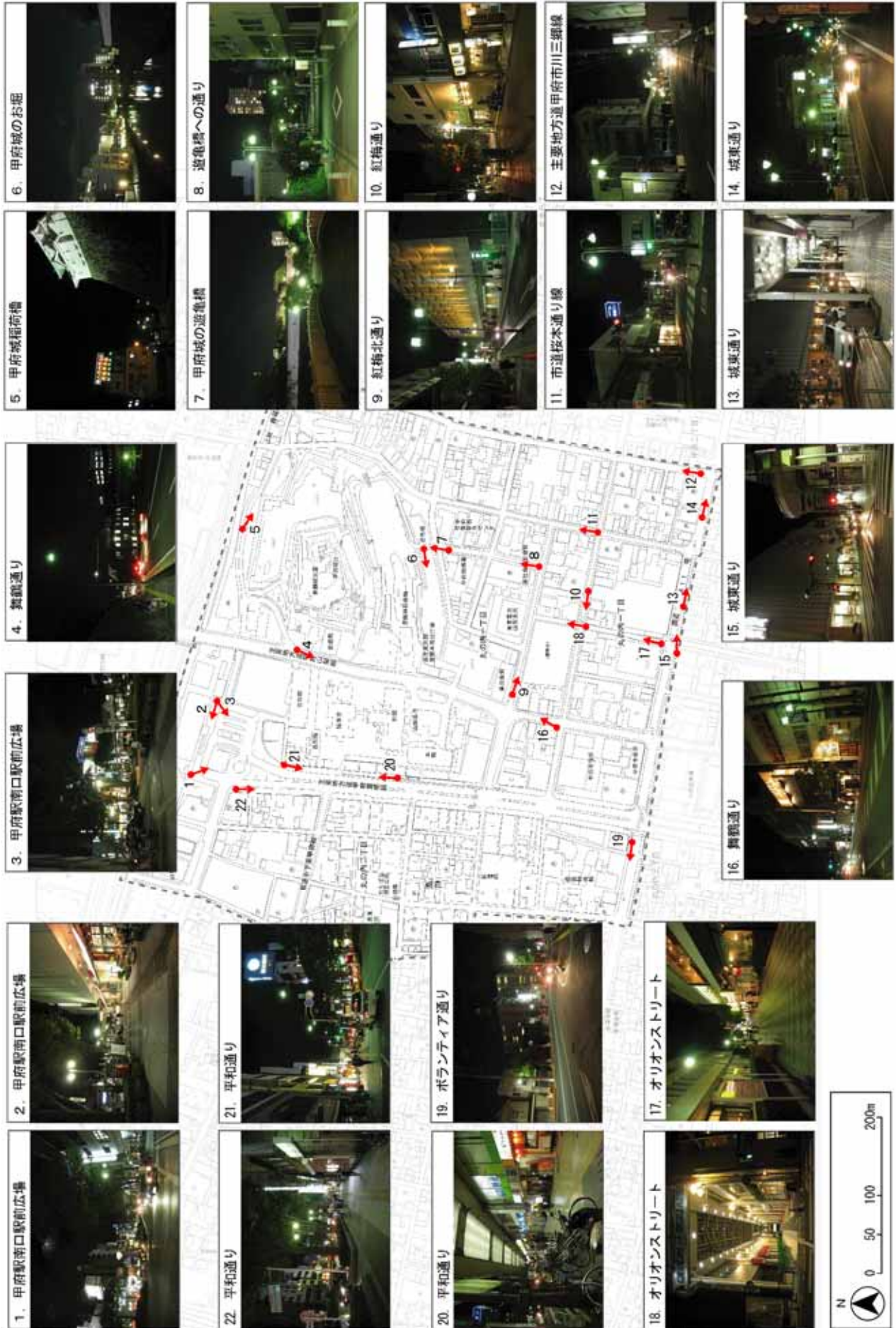
ストリートファニチャ（単独で設置されているもの）



街路樹（並木）



照明（夜間景観）



(2) 施設別の現況

ここでは、対象地域内の駅前広場及び主要な道路について、景観、機能・防災の両面から現況を把握、評価した。

施設別の評価の概要

：良い評価、　：悪い評価

施設名	景観面の評価	機能・防災面の評価
<p>甲府駅南口駅前広場</p> 	<p>タクシーが目立ち、ゆとりや潤いを感じられない。 広場周辺の樹木は緑豊かな空間形成に貢献している。 武田信玄公像は甲府駅南口のシンボルとなっている。 武田信玄公像は広場に降り立った時には視野に入りにくい。 様々なタイプ、デザインの案内板、サイン等が混在し、見通しを妨げるとともに、統一感を低下させている。 駅周辺の建物の屋外広告物が景観を乱している。 放置自転車が多く見られ、歩行や良好な景観形成を阻害している。 駅前から甲府城の存在が分かりにくい。</p>	<p>平和通りに向う歩行者動線が交通空間により分断されている。 バス乗降場へ行くには車道の横断が必要。バス待ちスペースも狭く使いづらい。 山交百貨店の北側及び南側の道路は歩行者と車両が輻輳し危険である。 山交百貨店前の歩道の傾斜が（縦断・横断ともに）きつく歩きづらく、タイルの目地も障がい者にとって支障となっている。 延焼遮断帯として十分な広がり有している。 災害時の防災拠点としての役割も期待される。</p>
<p>平和通り（主要地方道甲府韮崎線）</p> 	<p>ケヤキによる緑が印象的であり、大木が風格を醸し出している。 歩道舗装等も落ち着いており好感が持てる。 老朽化した横断防止柵、シェルター、モニュメント、放置自転車等が景観を阻害している。 アーケードのある部分とない部分で景観（イメージ）に差が見られる。 中央分離帯の植栽は緑豊かな空間形成に貢献。 中央分離帯は見通し低下や閉塞感、圧迫感をもたらしている。 県庁舎の入口が分かりづらい。</p>	<p>自転車専用通行スペース（一部）や滞留空間なども確保されており、ゆとりが感じられる。 アーケードは天候に左右されない歩行空間を提供している。 十分な幅員があり並木が連続して配置されているため延焼遮断機能が高く、緊急車両の通行も可能である。</p>
<p>舞鶴通り（主要地方道甲府山梨線）</p> 	<p>県庁敷地は緑豊かな景観形成に貢献している。 県庁東別館、山梨県民会館等は甲府城の眺望を阻害している。 甲府城の沿道は落ち着いた色彩の舗装となっているが、紅梅北通りから城東通りにかけては歩道が赤を基調とした舗装となっており、通りとしての統一感がない。</p>	<p>歩道幅員が狭く、ゆとりが感じられない。 段差が少ないため歩きやすい。 幅員が15m以上あるため、延焼遮断帯としてある程度の効果が期待できるとともに、緊急車両が通行できる。</p>
<p>城東通り（国道411号）</p> 	<p>沿道に店が多く賑わいを感じられる。 壁面後退した空間への植栽等、景観に配慮した建物が見られる。 歩道舗装、植栽が統一されていない部分がある。</p>	<p>市役所前を除いて計画幅員どおりの整備がなされておらず、歩行空間にゆとりがない。 段差が少ないため歩きやすい。 幅員が広い市役所前などは延焼遮断帯として効果が期待できる。 15m未満の区間は延焼遮断帯としての十分な効果は期待できない。</p>

施設別の評価の概要

：良い評価、 ：悪い評価

施設名	景観面の評価	機能・防災面の評価
<p>紅梅通り</p> 	<p>歩者共存の比較的良い空間が形成されている。 紅梅地区市街地再開発事業区域はセットバックにより開放的な空間づくりに貢献している。 歩道上に標識や地上機器等が乱立している箇所があり、景観や歩行を阻害している。</p>	<p>段差が少ないため歩きやすい。 8m以上の幅員があるため、災害時の避難路としての効果を期待できる（延焼遮断帯としては期待できない）。</p>
<p>紅梅北通り</p> 	<p>紅梅地区市街地再開発事業区域はセットバックにより開放的な空間づくりに貢献している。 歩道は自転車が多く駐輪されているため、雑然とした印象である。 甲府城への眺めが建築物等により阻害されている。</p>	<p>一方通行となっており利便性が低い。 段差が少ないため歩きやすい。 災害時の避難路として効果を期待できる。</p>
<p>市道橋東線・市道桜本通り線</p> 	<p>甲府城周辺ではお城と調和した落ち着いた着きのある歩道舗装や車止めが設置されている。 甲府城の後ろに建つマンションにより、お城が目立たなくなっている。</p>	<p>全体的に段差が少ないため、歩きやすい。 甲府城周辺の歩道が連続していない。 8m以上の幅員があるため、災害時の避難路としての効果を期待できる（延焼遮断帯としては期待できない）。</p>
<p>都市計画道路 古府中環状浅原橋線</p> 	<p>沿道に駐車場が点在しているため、連続した街並みになっていない（街並みがとぎれている）。 甲府城稻荷櫓への眺めが電線・電柱により阻害されている。</p>	<p>都市計画道路として整備されておらず、歩道もないため歩きづらい。 8m以上の幅員があるため、災害時の避難路としての効果を期待できる（延焼遮断帯としては期待できない）。</p>
<p>主要地方道甲府葦崎線</p> 	<p>武田信玄公像の広場周辺の歩道や植栽は、緑豊かな空間形成に貢献している。 電線・電柱、放置自転車等が通りの景観を殺伐としたものになっている。</p>	<p>歩道幅員が狭く、また整備されていない箇所もあり、歩行者にとって歩きづらい。 幅員が15m以上あるため、延焼遮断帯としてある程度の効果が期待できるとともに、緊急車両が通行できる。</p>
<p>飯田通り（主要地方道中下条甲府線）</p> 	<p>照明や車止め等のデザインは、県庁議事堂に向かう通りの景観にふさわしくない。 濁川は中心市街地における数少ない河川であるが、全く活かしていない。</p>	<p>歩道幅員が狭く、ゆとりが感じられない。 段差が少ないため歩きやすい。 8m以上の幅員があるため、災害時の避難路としての効果を期待できる（延焼遮断帯としては期待できない）。</p>

2 - 4 . 眺望の現況

(1) 甲府城からの眺め

甲府城は周囲の山並みを見渡すことができる絶好のポイントであるが、近年は、周囲に山並みの眺望を阻害する高層の建物も増えてきている。



甲府城から南側を望む



甲府城から北側を望む

(2) 甲府城の眺望

甲府城の周囲には建物が多く、建物に邪魔されずに眺めることのできる場所は必ずしも多くない。



スクランブル交差点から見た甲府城



線路北側から見た甲府城

(3) 主要道路からの山並み

主要道路からは山並みを眺めることができるが、樹木や電線・電柱により眺めが阻害されている場所もある。



平和通りから見える南側の山並み



飯田通りから見える西側の山並み

3. 県民、市民などの意向

3-1. アンケート結果の概要

(1) アンケートの実施概要

平成 22 年 8 月下旬から 9 月上旬にかけて、来訪者や地域の人々の対象地域のイメージや景観に関する問題意識や考え方を把握するため、下記のとおりアンケート調査を実施した。

回収状況は、「街頭聞き取りアンケート」が 340 票、「地元住民、地元事業所アンケート」が 565 票、「WEB アンケート」が 13 票、合計 918 票であった。

アンケート調査の実施概要

方法		対象	実施時期	回収数	
街頭聞き取り アンケート	観光客、買物客、 県外からの訪問客	平成 22 年 9 月 4 日(土) 9:00~17:00	駅前広場	99 票	
			平和通り	80 票	
			舞鶴通り	82 票	
			舞鶴城公園	22 票	
			岡島前	57 票	
			小計	340 票	
地元住民、地元事業所 アンケート	商店街、 地元事業所関係者 等	平成 22 年 8 月 25 日(水) ~9 月 10 日(金)	565 票		
WEB アンケート (回収は WEB と FAX)	市民等	平成 22 年 8 月 25 日(水) ~9 月 9 日(木)	13 票		
計			918 票		

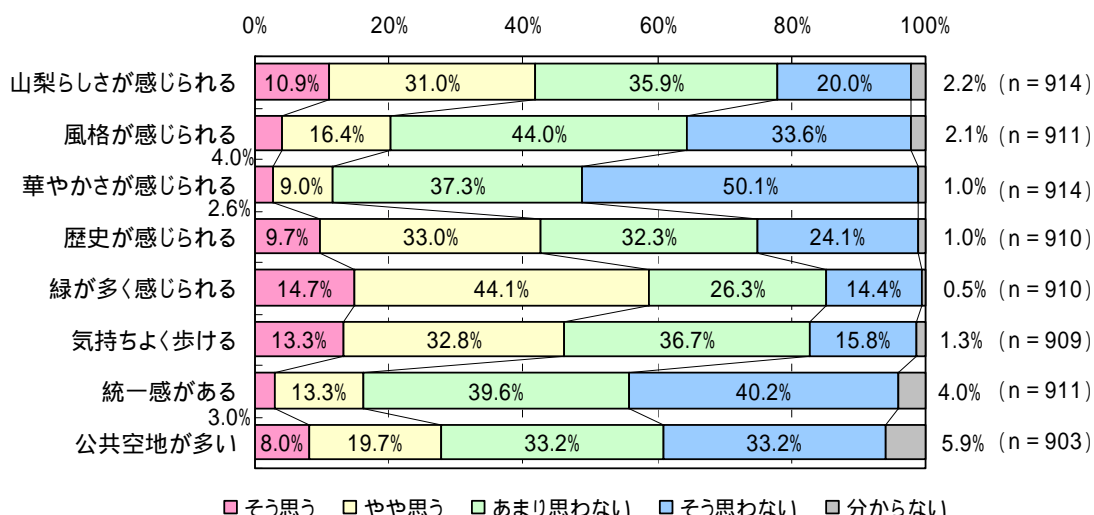
(2) 調査結果の概要

甲府駅南口周辺地域の印象

「思う」(そう思う+やや思う)の割合は、「緑が多く感じられる」(58.8%)が最も多く、次いで「気持ちよく歩ける」(46.1%)となっている。

「華やかさ」「統一感」「風格」については「思う」の割合が少なく、厳しい評価をしている。

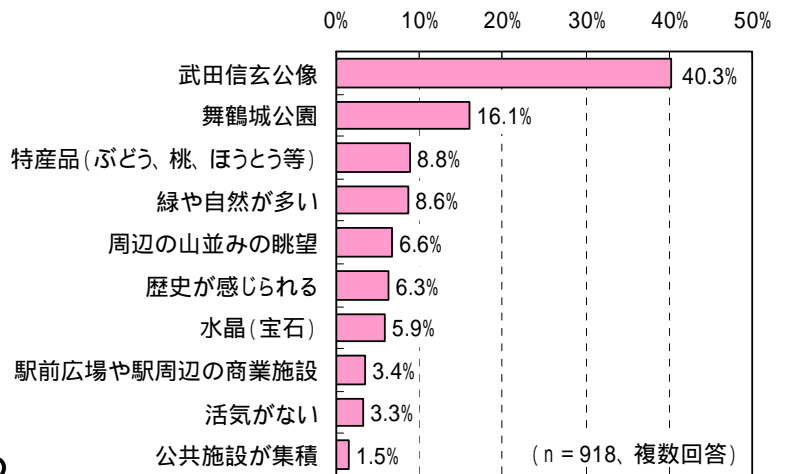
甲府駅南口周辺地域の印象(全体)



甲府（山梨）らしさ

甲府（山梨）らしさを感じるものの第1位は「武田信玄公像」（40.3%）となっており、第2位が「舞鶴城公園」（16.1%）となっている。

甲府（山梨）らしさ上位10（全体）

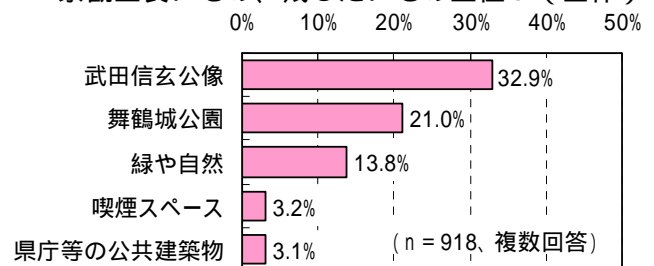


景観上良いもの、残したいもの

景観上良いもの、残したいものは「武田信玄公像」「舞鶴城公園」「緑や自然」の順となっている。

その理由としては、「武田信玄公像」については「甲府（山梨）の象徴である」、また「舞鶴城公園」については「歴史がある」などとなっている。

景観上良いもの、残したいもの上位5（全体）

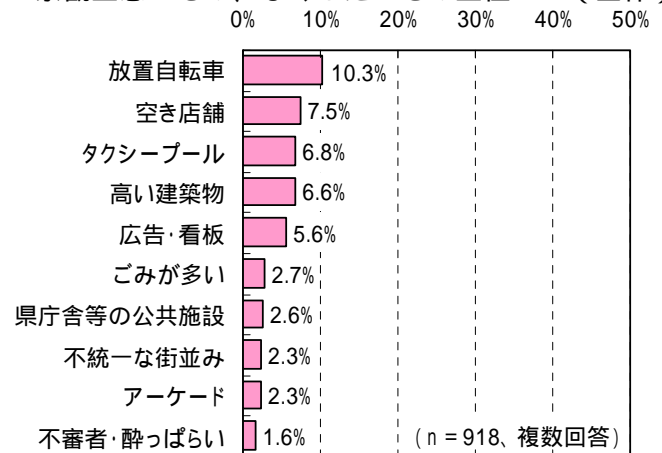


景観上悪いもの、なくしたいもの

景観上悪いもの、なくしたいものは、「放置自転車」「空き店舗」「タクシープール」「高い建築物」の順となっている。

街頭アンケートと地元アンケートで傾向が異なっており、上位3位で比較すると、街頭アンケートでは「空き店舗」「不統一な街並み」「広告・看板」となっているが、地元アンケートでは「放置自転車」「タクシープール」「高い建築物」となっている。

景観上悪いもの、なくしたいもの上位10（全体）

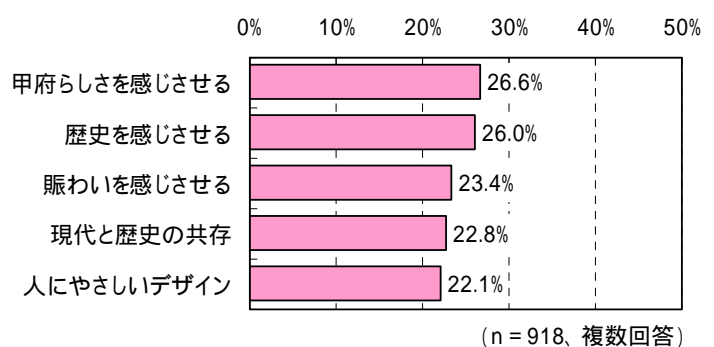


景観づくりの方向

景観づくりの方向については、「甲府らしさを感じさせる」「歴史を感じさせる」「賑わいを感じさせる」の順となっている。

街頭アンケート、地元アンケートともに上位5位については回答率に大きな差はなく、「自然」「歴史」「賑わい」「人へのやさしさ」などをキーワードに、甲府らしさを感じさせる空間づくりが求められていると考えることができる。

景観づくりの方向上位5（全体）



3 - 2 . 若者ワークショップ結果の概要

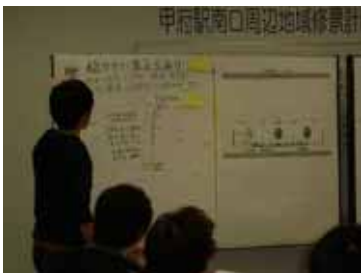
(1) 若者ワークショップの実施概要

感受性豊かで、将来のまちづくりの主角となる若者の意見を計画に反映するため、平成 22 年 10 月 30 日に山梨大学、山梨県立大学、甲府工業高等学校の学生によるワークショップを実施した。

若者ワークショップの実施概要

項目	内容等	
目的	・ アンケートでは把握しにくい若者の意見の把握 / 将来、まちづくりの主角となる若者の意見の計画への反映 / 若者の豊かな感受性による景観課題の抽出や斬新なアイデアの計画への反映	
参加者	・ 県内の学生で、まちづくり、景観づくりに興味、素養のある者 (山梨大学、山梨県立大学、甲府工業高等学校)	
事前準備	・ 第 2 回検討委員会資料の配布及びまち歩きにより地域の状況を把握 (10/13,16)	
ワークショップ	概要	・ まち歩きの結果を踏まえ、景観上の課題や修景整備のあり方について検討
	日時/場所	・ 平成 22 年 10 月 30 日 (土) 午後 1 時 ~ 5 時 / 甲府市中央公民館
	内容	・ 開会挨拶 / 参加者紹介 / WS 概要説明 / 検討箇所と検討条件の確認 ・ グループ作業 (景観上の課題の確認 / 修景メニューの検討 / 課題図の作成 / 修景整備方針図の作成 / イメージスケッチの作成) ・ 検討結果の発表 / 意見交換と総括 / 閉会

1 班



2 班



若者
ワークショップ
の様子

4 班

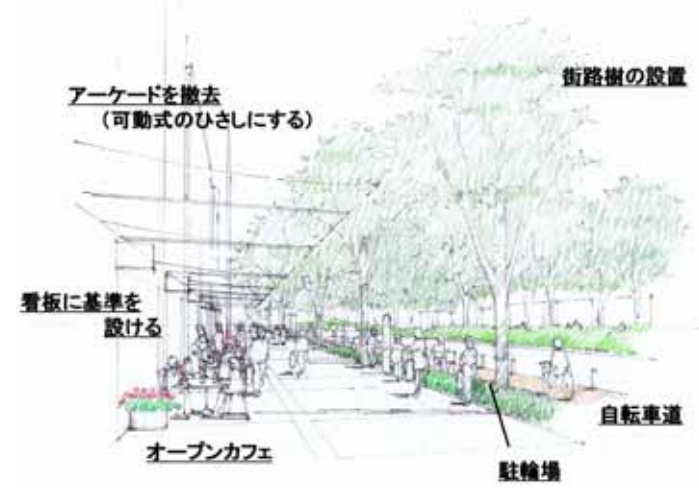


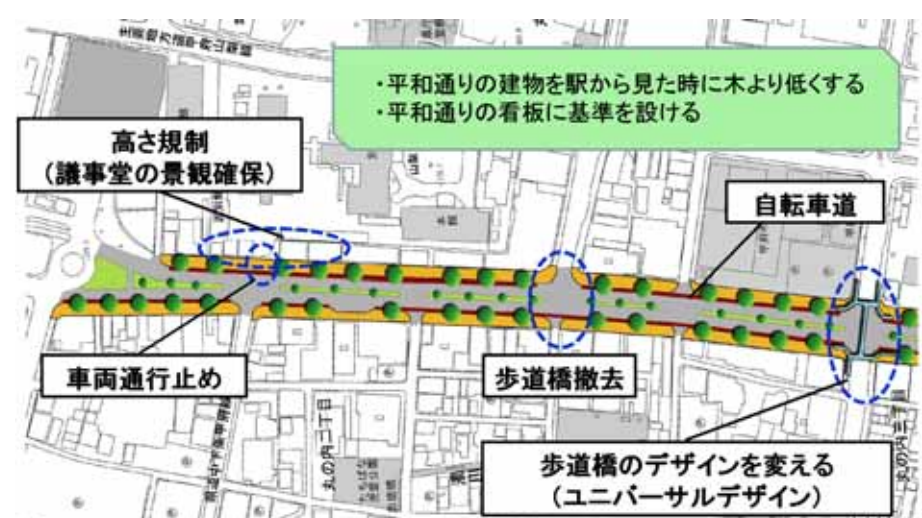


3 班



(2) 若者ワークショップの成果の概要

平和通り (1班)

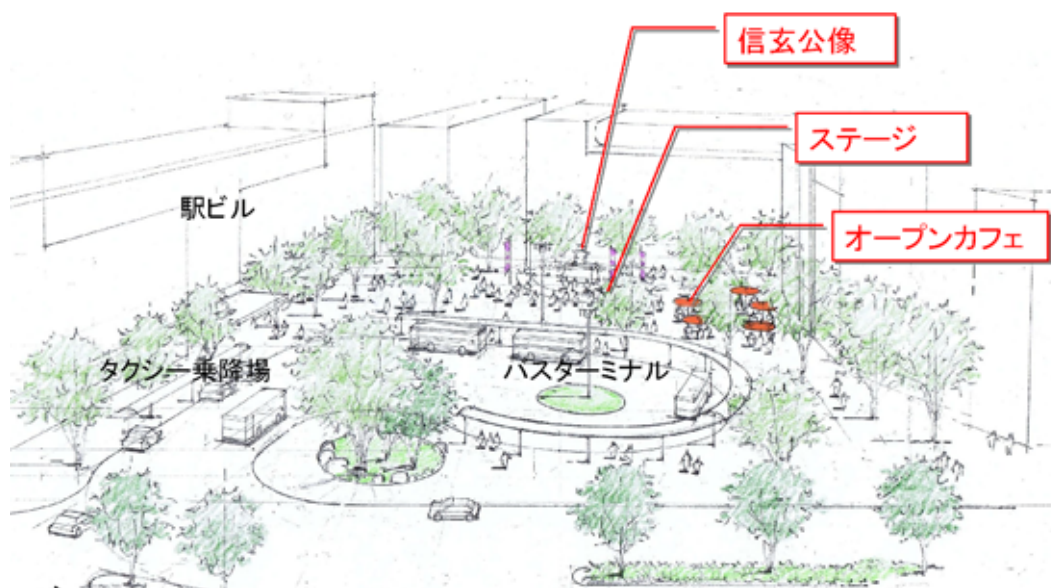
<p>修景の テーマ</p>	<p>穏やかに集える通り</p>
<p>キーワード</p>	<p>歴史・文化・にぎわい・風格・落ち着き・自然・環境・山梨県らしさ・開放感・憩い</p>
<p>基本的な 考え方と イメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アーケードを撤去し、可動式のひさしとし、街路樹を植える ・車道の3車線のうち1車線を自転車通行空間及び駐輪場とする ・平和通りの歩道橋は撤去、改修する ・建物は高さ規制をする(駅から見たときに木より低くする) ・看板に基準を設ける ・議事堂部分は前面の建物の高さを規制するとともに、車両通行止めにする  <p>アーケードを撤去 (可動式のひさしにする)</p> <p>街路樹の設置</p> <p>看板に基準を設ける</p> <p>オープンカフェ</p> <p>駐輪場</p> <p>自転車道</p>  <p>現況</p> <p>7.3m 歩道 8.0m 車道 2.5m 中央分離帯 9.5m 車道 7.3m 歩道</p> <p>36.6m</p>  <p>アーケードを撤去 (可動式のひさしにする)</p> <p>街路樹の設置</p> <p>駐輪場</p> <p>オープンカフェ</p> <p>自転車道</p> <p>将来</p>  <p>高さ規制 (議事堂の景観確保)</p> <p>車両通行止め</p> <p>歩道橋撤去</p> <p>歩道橋のデザインを変える (ユニバーサルデザイン)</p> <p>自転車道</p> <p>平和通りの建物を駅から見たときに木より低くする</p> <p>平和通りの看板に基準を設ける</p>

駅前広場周辺（2班）

修景の
テーマ

機能的で人が集まる憩いの空間

- ・ 歩行者のための空間と車のための空間を明確に分離
- ・ 歩行者のための空間は東側（山交百貨店側）に集約し、バス、タクシー等の交通空間は西側に集約
- ・ 駅から平和通りへの人の流れを直線的に確保
- ・ 休憩、イベント、オープンカフェ等の溜まりの空間を確保
- ・ 信玄公像を移設し、ステージなども設置
- ・ 山交百貨店北側道路は、歩行者優先道路化



基本的な
考え方と
イメージ



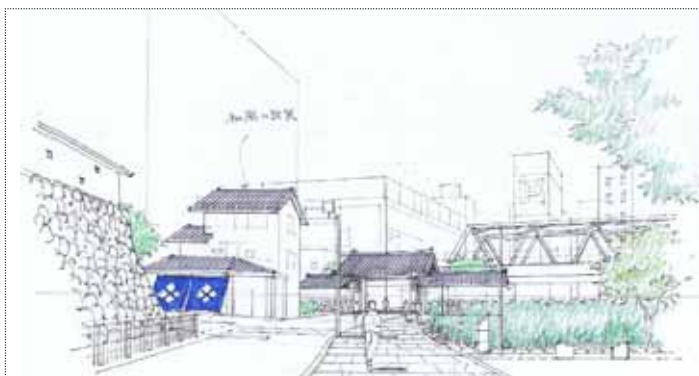
舞鶴城公園北側（3班）

歴史と自然への導き

観光客と甲府市民を対象とし、“駅北口地区との一体感”や“舞鶴城公園周辺の回遊性”を向上させることにより、賑わいの創出を図る

修景の
テーマ

- ・ 視点場の創出 = 舞鶴城と盆地の山並み（富士山等）を見渡せる視点場の整備
- ・ 駅北口との一体感の醸成 = 同一の整備方針による整備 / アクセス道路の強化、新設
- ・ 惹きつけのデザイン = 舞鶴城へのアプローチが容易に認識できる誘導施設の整備
- ・ 回遊への誘導（公園北側道路） = 舞鶴城への視界を遮る障害物の除去 / 景観と調和した駐輪場の整備
- ・ 回遊への誘導（公園東側道路） = 安全な歩道の整備 / 周辺街区と併せた景観形成



基本的な
考え方と
イメージ



舞鶴通り・舞鶴城公園南側（4班）

舞鶴通り

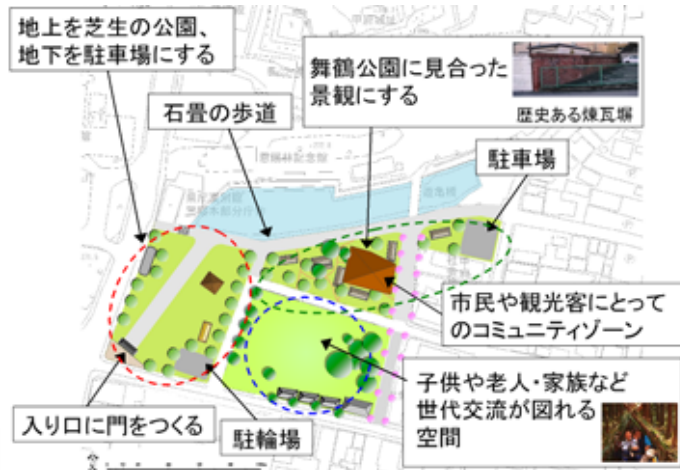
- ・舞鶴城や県庁の雰囲気にあった「街並みづくり」と「道路の整備」
- ・県庁敷地は「通り道」として活用
- ・県民会館跡地は、地上を芝生の広場とし、地下を駐車場とする
- ・舞鶴城は天守閣などのシンボルを作る



基本的な考え方とイメージ

舞鶴城公園南側

- ・県民会館跡地は、地上を芝生の公園、地下を駐車場とする
- ・お堀沿いは石畳の歩道とし、市民や観光客にとってのコミュニティゾーンとする
- ・子供や老人、家族など世代交流が図れる空間とする



3 - 3 . まちづくり団体からの提案の概要

平成 22 年 11 月 11 日に開催した意見交換会においては、学生ワークショップの結果発表とともに、まちづくり団体からの提案が行われた。




まちづくり団体からの提案の概要は以下のとおりである。




甲府駅南口周辺地域の整備について（山梨経済同友会） ～ 甲府駅南口周辺地域への意見～

テーマ	自 然（美しい山並み） 歴 史（特に徳川時代の城下町）		
提案等	1 .南口駅前 ロータリ ーの整備 について	提案	タクシープール、バスターミナルを移設し、歩行者が回遊可能な新たな広場として整備
		具体的な利用 方法案	噴水や花壇の設置 観光案内所の設置（JR改札前からの移設） 山梨をイメージさせるモニュメントの設置 周囲の山々を展望できる仕掛けを作る（展望デッキなど）
	2 .建物の看板や観光 案内標識 等について	提案	<ul style="list-style-type: none"> 山梨の玄関口として相応しい看板等の整備 統一性のあるトーンでの整備 観光案内標識等については外国語表示を充実 景観を阻害する看板等に対して改善を要請
		具体的なコン セプト案	「徳川時代の城下町」のイメージで統一・整備
	3 .平和通り 東側商店 街の整備 について	コンセプト	・観光客、県民にとって親しみやすい場所に
		提案	観光売店、茶店などの設置（舞鶴城公園内） 甲府駅南口から公園までの案内表示の整備 JR甲府駅に新たな改札口（舞鶴城口）を設置 県民会館や税務署跡地の有効活用

「甲府城周辺まち並景観整備事業」企画提案書（新世紀甲府城下町研究会）

<p>現状と課題</p>	<p>甲府のまちづくりのラストチャンス 山梨県防災新館、甲府市庁舎建設 リニア中央新幹線開業予定 H25国民文化祭開催 - 国内最大級文化イベント 市民、行政レベルでのまちづくりの気運</p>	<p>⇒ 官民連携したまちづくり意識の醸成の必要性</p>	
<p>課題解決の方向性</p>	<p>2010年、柳沢吉里が甲府城へ入城して300年、これを契機に... 甲府城を甲府のランドマークとして位置づけ、『小江戸甲府』を再現し、まちに賑わいを取り戻す</p>		
<p>企画提案</p>	<p>PLAN 1 お城フロントまち並整備プロジェクト</p>	<p>甲府税務署移転後跡地一帯に、小江戸の城下町を彷彿とさせる蔵、町屋、長屋門などを整備し、若者が集い、観光客が集まる都市型観光の拠点として「歩きたくなるまち」を演出。</p>	 <p>お城フロントまち並整備プロジェクト</p>
<p>PLAN 2 八番街修景プロジェクト</p>	<p>ファンシーロード八番街は甲府の玄関口であり、ミニ東京化ではなく、甲府の個性を前面に出し、歴史を感じさせるまち並みの整備、水辺や日よけ、葡萄棚などを整備・修景し、うるおいのある空間を創出。</p>	 <p>八番街修景プロジェクト</p>	
<p>PLAN 3 甲府城百花爛漫プロジェクト</p>	<p>甲府城の北側に「お花畑」が存在していたことにちなみ、草花で城の魅力を演出し、人が集い、歩きたくなる空間として整備し、内外に情報発信。植栽や管理は、近隣の小・中学校生や老人クラブなどが主体となって行うことによって、地域の誇りづくりに結び付ける。</p>	 <p>甲府城百花爛漫プロジェクト</p>	
<p>PLAN 4 鎮守の森の復興</p>	<p>都市の風格のポイントは水と緑で、甲府盆地には古来からクス・カシ・シイなどの鎮守の森がたくさん存在した。この鎮守の森を復興し、甲府城から一望すると大阪城にも匹敵するといわれる甲府城の輪郭をイメージできるよう整備。</p>		
<p>PLAN 5 「通り名」の復活</p>	<p>ハード整備と同時に昔から地域にある「通り」「坂」「橋」の名称については、戦前の名称を復活させ、物語性などソフトの面から歴史を感じさせるまちづくりを推進。</p>		
<p>期待される効果</p>	<p>(1) 散策したくなるまちづくりが進み、新たなビジネスチャンスが広がる (2) 『歩いて楽しい甲府城下町』づくりの実現 (3) 『小江戸甲府』の地域イメージが定着し、地域住民が誇りを感じるまち、愛着を感じるまちとなり、壊れかけている地域コミュニティの再生につながる</p>		

甲府駅南口のまちづくり（甲府駅南口のまちづくり研究会）

1. まちづくりコンセプトの提案	南口広場の整備の必要性	都市間競争に対応した玄関口の整備 / 駅北口の整備と不均衡な状況 / 駅利用者2/3は南口 / 県下最大の交通結節点 / 交通ネットワークの中核施設 / 持続社会の構築に必要な中核施設 / コンパクト社会を目指す上で必要な対応
	南口のまちづくりのコンセプト	<ol style="list-style-type: none"> 魅力的で物語性のある交流の拠点づくり 産業経済や教育文化の拠点づくり 魅力的な観光連携の拠点づくり 食文化やショッピングなどの交流の拠点づくり 持続社会に対応した交通の拠点づくり
2. 山梨の顔づくりに関する提案	山梨の自然を生かした顔づくり	<ol style="list-style-type: none"> 森の国の象徴として、平和通りの櫛並木と一体性を保つための植栽を計画 水の国の象徴として、三分一湧水（複製）を核として、川の流れを計画。名水をイメージして噴水やミストを計画
	山梨の歴史を生かした顔づくり	<ol style="list-style-type: none"> 武田武士団のモニュメント 武田二十四将の馬印の配置  <p>武田信玄公武士団</p> <p>武田24将馬印</p>
	山梨の資源を生かした顔づくり	<ol style="list-style-type: none"> 音による山梨らしさ（身延山久遠寺の梵鐘 / 昇仙峡の仙ガ滝の瀑声 / 山梨を代表する野鳥） 映像による山梨らしさ（富士川町のダイヤモンド富士 / 忍野八海の風景 / 青木ヶ原樹海の風景） 夜の玄関口の表情づくりによる山梨らしさ（照明デザインによる情景づくり） 
3. 都市的景観の保全に関する提案	地区計画等の導入の検討	<ul style="list-style-type: none"> 県都甲府の駅南口一帯は山梨を代表する洗練された都市空間を長い歴史のなかで築いてきた 持続社会を目指すうえでコンパクトで効率的な都市の形成を図ることは極めて重要な都市づくりの基本理念である 商業活動や業務活動の拠点地区としての環境整備を官民の連携で図る

3 - 4 .「修景の方向性（素案）」に対する意見の概要

(1) 意見収集の方法

「甲府駅南口周辺地域の修景の方向性（素案）」について、様々な立場や視点から広く意見を聞くために、平成 23 年 1 月 13 日から 2 月 10 日にかけて、県や市のホームページ及び商工会議所などを通じて素案に対する意見募集をアンケート形式で行った。この結果、136 名から回答があった。

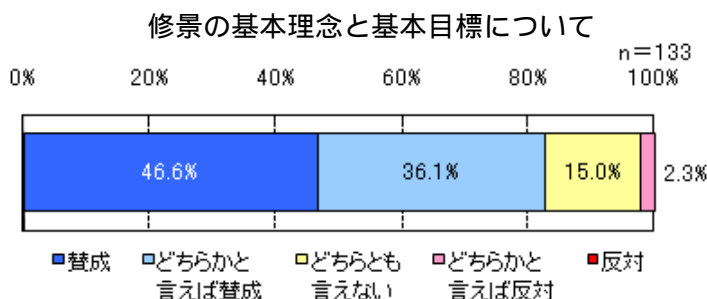
(2) 調査結果の概要

修景の基本理念と基本目標

修景の基本理念と基本目標については、「賛成」46.6%、「どちらかと言えば賛成」36.1%と、肯定的に考える人が 8 割以上を占めている。

自由意見について見ると、「明確なコンセプト」「賑わいや集客性の重視」などを求める意見のほか、「公共と民間との分担、一体的取り組み」や「北口との連携」が必要との意見などが寄せられている。

また、使い勝手の良い空間づくりに関しては、使い勝手より、やさしさ、美しさを重視すべきとの意見などが寄せられている。

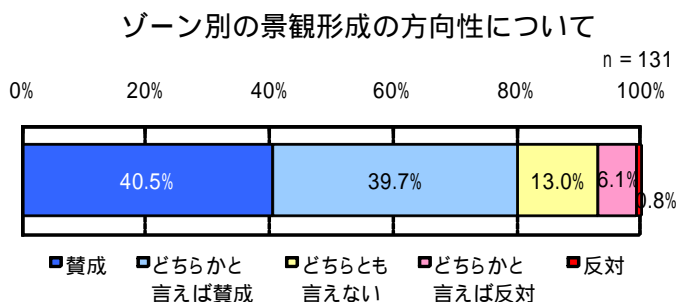


ゾーン別の景観形成の方向性

ゾーン別の景観形成の方向性については、「賛成」40.5%、「どちらかと言えば賛成」39.7%と、肯定的に考える人が 8 割以上を占めている。

「反対」「どちらかと言えば反対」は 6.9% (6.1 + 0.8) となっているが、自由意見では「ゾーンにとらわれると一体感がなくなる」などの意見もあり、ゾーン区分の意義や妥当性を疑問視する人がいる。

その他の意見としては、「賑わいの中心商業ゾーンが駅から遠い」「潤いの住居・業務複合ゾーンは、低未利用地の更新等、新たなストックの創出が必要」というような土地利用(ランドデザイン)に関する意見なども見られる。



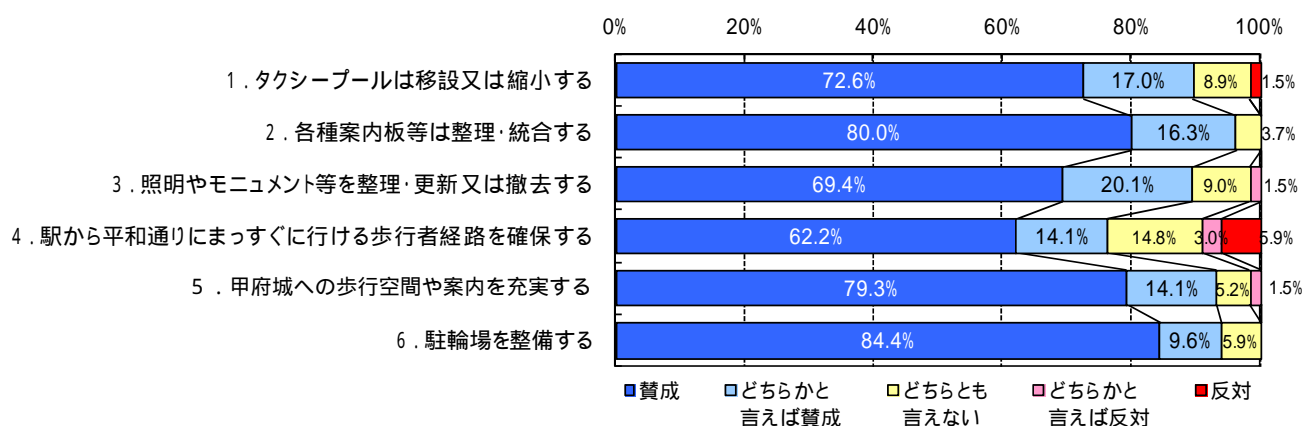
駅前広場の再整備イメージ

駅前広場の再整備について、項目ごとに肯定的に考える人（賛成 + どちらかと言えば賛成）の割合を見ると、「タクシールールは移設又は縮小」が 89.6%、「各種案内板等は整理・統合」が 96.3%、「照明やモニュメント等を整理・更新又は撤去」が 89.5%、「駅から平和通りに行ける歩行者経路を確保」が 76.3%、「甲府城への歩行空間や案内を充実」が 93.4%、「駐輪場を整備」が 94.0%となっており、大部分の人が提案に対して肯定的であることがわかる。

なお、「駅から平和通りに行ける歩行者経路を確保」については「反対」(5.9%)の割合が比較

的高いが、自由意見からは広場周辺の店舗への影響を考慮して反対している人が多いことがうかがえる。

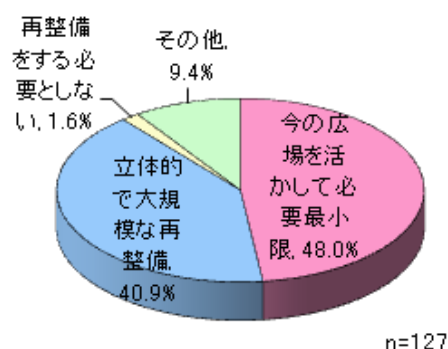
駅前広場の再整備について



駅前広場の再整備のあり方については、「必要最小限の平面的な整備」が48.0%、「立体的で大規模な整備」が40.9%となり、意見が分かれています。

自由意見では、「タクシープールの移設・縮小」に賛同する意見や「歩行者優先の駅前広場づくり」を支持する意見が多く寄せられている。また、「駅から平和通りに行ける歩行者経路を確保」や「ペDESTリアンデッキの整備」に関する意見も比較的多いが、これらは賛否が分かれています。

駅前広場の再整備のあり方について

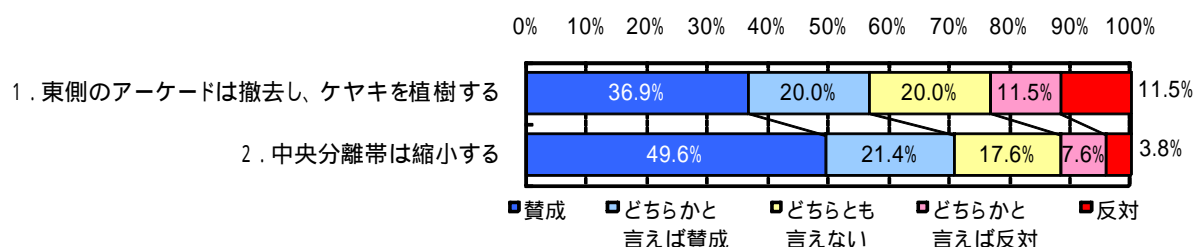


平和通りの再整備イメージ

平和通りの再整備について、項目ごとに肯定的に考える人（賛成＋どちらかと言えば賛成）の割合を見ると、「東側のアーケードは撤去し、ケヤキを植樹」が56.9%、「中央分離帯は縮小」が71.0%となっている。

「アーケードの撤去、ケヤキの植樹」については否定的に考える人（反対＋どちらかと言えば反対）も23.0%とかなり多く、賛成、反対の意見が分かれています。「賛成」する理由は「緑豊かになる」「木陰ができる」「風格が出る」などであり、一方「反対」する理由は「鳥の糞」「落葉」「雨・雪」などであることが、自由意見から読みとれる。

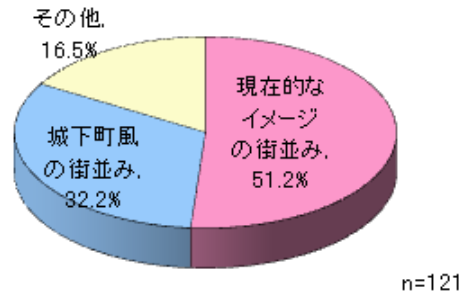
平和通りの再整備について



平和通りの街並みづくりの方向性については、「現代的なイメージの街並み」が51.2%、「城下町風の街並み」が32.2%となっている。

ただし、自由意見からは「城下町風の街並みが望ましい」としつつも「現状」や「地権者」のことを考えると難しいと考えている人も少なからずいることが推察される。

平和通りの街並みづくりのあり方について

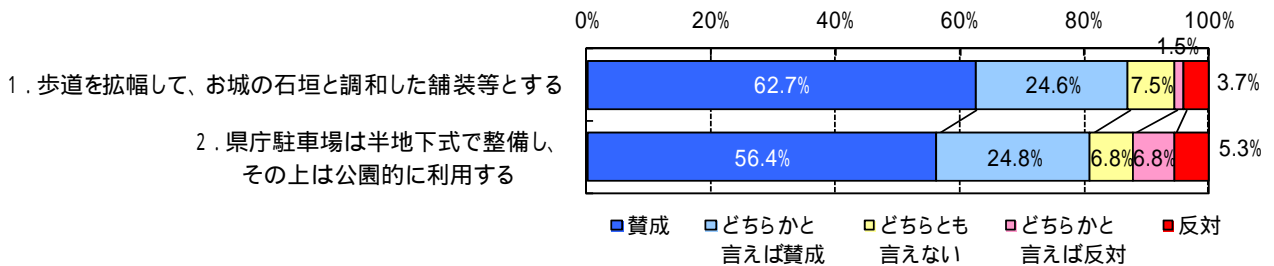


舞鶴通りの再整備イメージ

舞鶴通りの再整備について、項目ごとに肯定的に考える人（賛成＋どちらかと言えば賛成）の割合を見ると、「歩道を拡幅して、お城の石垣との調和に配慮した舗装や柵、照明などとする」が87.3%、「県民会館跡地等は、県庁駐車場は半地下式で整備し、その上は公園的に利用する」が81.2%となっている。

自由意見では、県民会館跡地等に関しては公園的な利用に対する反対意見はないが、駐車場については「地下式にすべき」「大型バス駐車場に」などの意見が寄せられている。

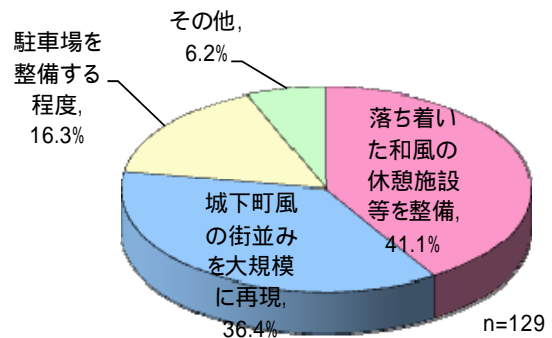
舞鶴通りの再整備のアイデアについて



税務署跡地等を活用した甲府城南側の整備のあり方については、「落ち着いた和風の休憩施設等を整備」が41.1%、「城下町風の街並みを大規模に再現」が36.4%、「駐車場を整備する程度」が16.3%と意見が分かれています。

自由意見では、甲府城南側の整備に関しては、施設整備、街並みづくり、回遊ネットワーク、舞鶴城公園のあり方など、様々な視点から多様な意見が寄せられている。

甲府城南側の整備のあり方について

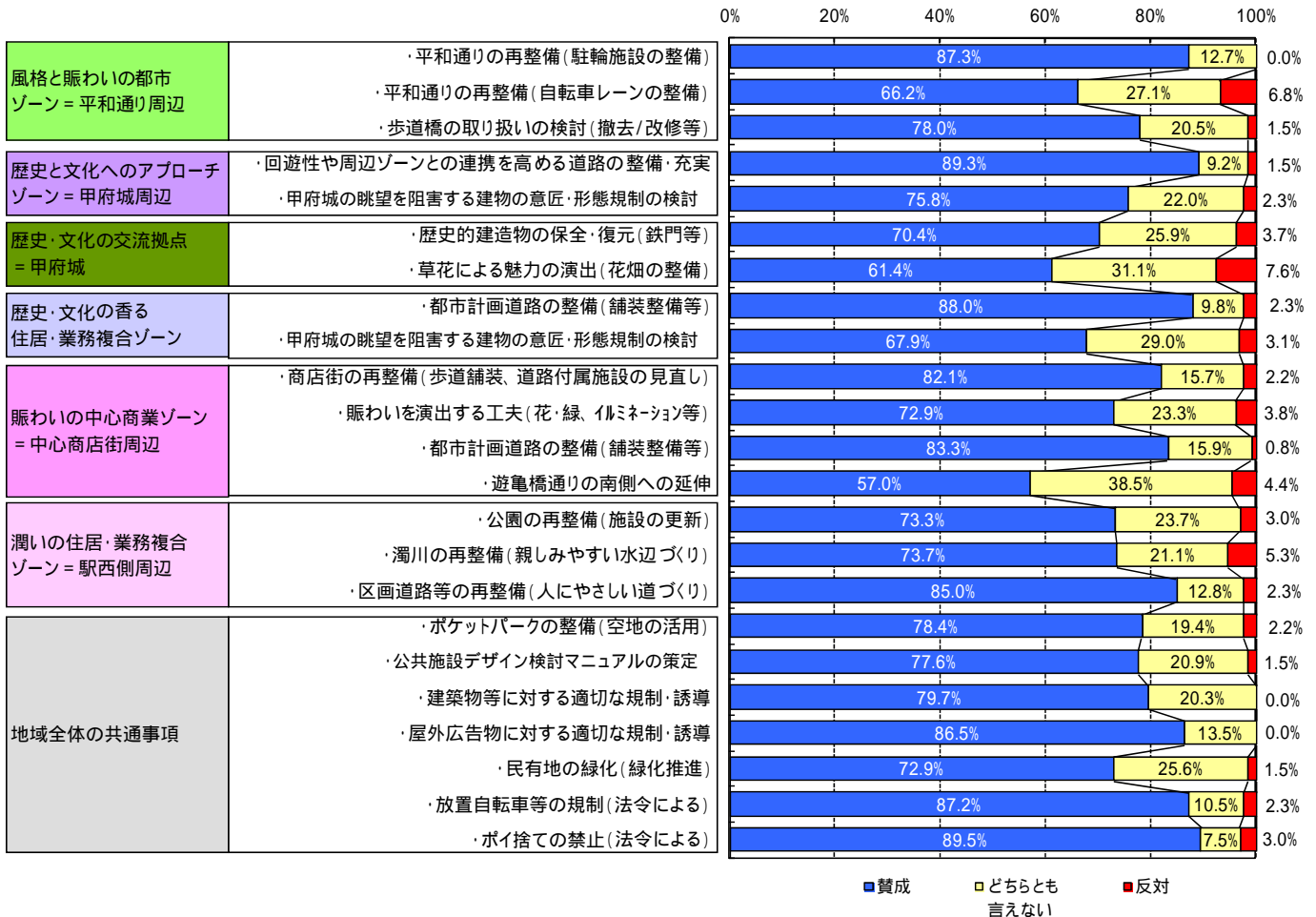


その他修景メニュー

その他の修景メニューに関する賛否は以下に示すとおりである。

「賛成」の割合が低いものは、「遊亀橋通りの南側への延伸」(57.0%)、「草花による魅力の演出」(61.4%)、「平和通りの再整備(自転車レーンの整備)」(66.2%)などとなっている。

その他修景メニューについて



自由意見では、様々な意見があり、施策(メニュー)の実現、建物・看板の景観誘導、自転車に関する意見などが比較的多く寄せられている。

施策の実現に関しては、「整備優先順位をつけるべき」「公共施設の改修時期を考慮すべき」「施策を絞って集中投資すべき」などの意見が寄せられている。

建物・看板の景観誘導に関しては、「民間ビルも含めて改修施策を考える」「建物の色彩や高さの規制を行う」「屋上看板はないほうがよい」等の意見が寄せられている。

4 . 甲府駅南口周辺地域の景観上の課題

現況調査、アンケート調査、若者ワークショップの結果及びまちづくり団体からの提案などを踏まえ、地域全体に関するものと空間（施設）固有のものに分けて、地域の景観上の課題を整理した。

甲府駅南口周辺地域の景観上の課題（地域全体に共通するもの）

：活かすべきもの、 改善すべきもの

区分	景観上の課題
公共空間、 民有空間に 共通する もの	統一感 ：舗装、照明灯、車止め、街路樹、案内板、サインなどが場所ごとにバラバラであるため、全体的に統一感が感じられない。特に商店街では、個々に個性を演出しようとしてきたことからその傾向が強く見られる。良好な景観形成に向け、統一感を向上させる取り組みが必要である。
	緑 ：緑は地域を印象づける重要な要素となっており、特に駅前広場、平和通り、甲府城では緑豊かなイメージが強い。このような緑を活かしつつ、地域全体で緑豊かな空間づくりをすることが必要である。
	眺望 ：山並みを見せるべきとする意見も多いが、地域で山並みを眺められる場所は必ずしも多くない。また地域のシンボルである甲府城を見せることも重要である。今後は、山並みや甲府城などを見せるための方策を検討していく必要がある。
	夜間景観 ：全体的に暗い印象がある。賑わいづくりや地域のイメージアップのため甲府城をはじめとした地域資源や修景ポイントでのライトアップなども検討する必要がある。
主に 公共空間に 関するもの	電線類 ：電線類については地中化が比較的進んでいるが、甲府城周辺や未整備の都市計画道路では電線や電柱が残っている箇所もある。景観上重要な道路については、引き続き電線類の地中化や電柱の撤去を進めていく必要がある。
	放置自転車 ：駅前広場や主要道路の歩道上に見られる放置自転車については、多くの人が問題であると認識している。快適な歩行、良好な景観形成の両面から、放置自転車に対する積極的な対応が必要である。
主に 民有空間に 関するもの	広告・看板 ：無秩序に設置された広告・看板が景観を阻害しており、特に駅周辺ではその傾向が強い。広告・看板の規制の必要性は多くの人が認識をしており、良好な景観形成に向け積極的な対応が必要である。
	建築物 ：良好な景観形成を実現するためには、公共空間の修景とともに建物の適切な規制・誘導が重要であり、アンケートでも多くの人がそれを指摘している。良好な景観形成に向け、建物の規制・誘導のあり方を検討していく必要がある。

甲府駅南口周辺地域の景観上の課題（空間別）

：活かすべきもの、 改善すべきもの

区分	景観上の課題
駅前広場 周辺	<p>広場周辺の樹木：広場周辺の樹木は、緑豊かな空間形成に貢献しており、今後もこれらの樹木を活かした空間づくりが必要である。</p> <p>武田信玄公像：武田信玄公像は山梨らしさを象徴する南口のシンボルと言える。駅正面からは存在が分かりづらいことから設置位置の検討も必要である。</p> <p>タクシープールなどの交通空間：タクシープールは、駅前広場のイメージを低下させる大きな要因となっている。このほか、バス乗降場の使い勝手の悪さ、歩行者横断部における車両との交錯などの問題も見られることから、施設配置のあり方を検討する必要がある。</p> <p>歩行空間、滞留空間：平和通り方向に向かう人が迂回を強いられること、歩道の傾斜、放置自転車の存在、休憩などをする滞留空間が少ないことが問題と言える。このため、交通空間と一体的に、歩行空間や滞留空間のあり方を検討する必要がある。</p> <p>案内板、サイン、屋外広告物等：駅前広場周辺に見られる様々な案内板、サイン、屋外広告物等は、統一感のなさや雑多な印象を与えている。風格の感じられる、すっきりとした街並みを作っていくためには、これらの整理が必要である。</p> <p>放置自転車：放置自転車は歩行や景観を阻害しておりアンケートでも多くの指摘がなされている。快適な歩行、良好な景観形成の両面から積極的な対応が必要である。</p> <p>甲府城のアピール：駅から明確な歩行者動線がなく、案内も良くないため、存在が分かりにくい。甲府城をアピールし誘導する方策を検討する必要がある。</p>
平和通り 周辺	<p>街路樹：沿道のケヤキは緑豊かな空間形成や風格の演出に貢献している。今後もこの緑を保全し、街並みづくりに活かしていく必要がある。</p> <p>老朽化した施設：風格のある通りづくりに相応しくない老朽化したガードレール、シエルター、モニュメント等は更新、撤去などを検討する必要がある。</p> <p>アーケード：施設の老朽化が平和通りの景観に影響を及ぼしており、また耐震性も懸念されるため、取り扱いを検討する必要がある。</p> <p>中央分離帯：中央分離帯の植栽は、緑豊かな空間づくりに貢献しているものの、見通しの低下や閉塞感をもたらすという側面もあり、アーケードを含めた道路幅員全体で中央分離帯の取り扱いについて検討する必要がある。</p> <p>県庁敷地、市役所敷地：県庁敷地及び市庁舎敷地については、庁舎建替え等にあわせて、通りに開かれた分かりやすい空間づくりが必要である。</p> <p>放置自転車：植栽帯の間に放置自転車が多く見られるが、この部分は通りにゆとりをもたらす重要な空間でもあることから、放置自転車の対策を検討する必要がある。</p>
県庁	<p>ゆとりある敷地：防災新館の整備にあわせて創出される空間的なゆとりを活かして、外に対して開かれた緑豊かな空間づくりや甲府城の眺望などに特に配慮する必要がある。</p> <p>歴史的建造物：文化的な価値の高い別館及び議事堂は、防災新館の整備にあわせ改修・保全されることになるが、これらを活かした空間づくりが必要である。</p>
市役所	<p>ゆとりある敷地：市庁舎の建て替えにあわせて創出される空間的なゆとりを活かして、外に対して開かれた緑豊かな空間づくりに配慮する必要がある。</p>

甲府駅南口周辺地域の景観上の課題（空間別）

：活かすべきもの、 改善すべきもの

区分	景観上の課題
舞鶴通り 周辺	<p>甲府城、県庁敷地：甲府城の眺望を阻害している県民会館や県庁東別館は防災新館の整備にあわせて撤去される予定であり、これをきっかけに眺望に配慮した公園と一体的な空間づくりを検討する必要がある。</p> <p>歩行空間：歩道が狭くゆとりが感じられなく、アンケートでも歩行環境の評価はあまり高くない。甲府城や県庁敷地を活かした空間整備を検討するなかで、歩行空間の充実を検討する必要がある。</p>
甲府城（舞鶴城公園） 周辺	<p>甲府城：甲府城は山梨らしさを感じさせる貴重な景観資源であり、引き続き、歴史的建造物の復元や周辺の修景整備を進めていく必要がある。</p> <p>税務署敷地等：甲府城の眺望を阻害している甲府税務署は移転する予定であり、これをきっかけに眺望に配慮した一体的な空間づくりを検討する必要がある。</p> <p>眺望や景観を阻害するもの：甲府城をより良く見せるため、周囲にある景観や眺望を阻害する建物などについての扱いを検討する必要がある。</p> <p>駅からの案内、アクセス：甲府駅から甲府城に至るルートの分かりにくさを解消するための方策を検討する必要がある。</p> <p>歩行空間：甲府城周辺の道路や未整備の都市計画道路は、良好な景観形成、安全で快適な歩行空間の確保、防災機能の向上などの観点から、拡幅を検討する必要がある。</p>
中心商店街 周辺	<p>統一感：商店街では、個々に個性を演出しようとしてきたこともあり、全体的に統一感が感じられない。商店街ごとの個性をうまく生かしながら、一定の統一感が感じられる街並みづくりを検討する必要がある。</p> <p>歩行空間：城東通りの都市計画道路の未整備区間については、良好な景観形成、安全で快適な歩行空間の確保、防災機能の向上などの観点から、拡幅を検討する必要がある。</p> <p>通行規制：一方通行規制が行われている区間については、利便性、歩行の安全性・快適性、回遊性及び交通の円滑化などの観点から、通行規制のあり方を検討する必要がある。</p>
駅西側周辺	<p>公園、水路：地区にある公園や水路（濁川）は地区にとって貴重な資源であり、良好な景観づくりの観点からも、これらを活かした空間づくりを検討する必要がある（老朽化した施設のリニューアルなど）。</p> <p>道路：区画道路等については、良好な景観形成及び安全で快適な歩行空間の確保の観点から、リニューアルを検討する必要がある。</p> <p>土地利用：賑わいのある空間づくりのため、土地の有効・高度利用の促進を検討する必要がある（商業施設、都市型住宅の誘導など）。</p>

5 . 甲府駅周辺地域の位置づけと景観形成の方向

(1) 上位計画における位置づけ

山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり

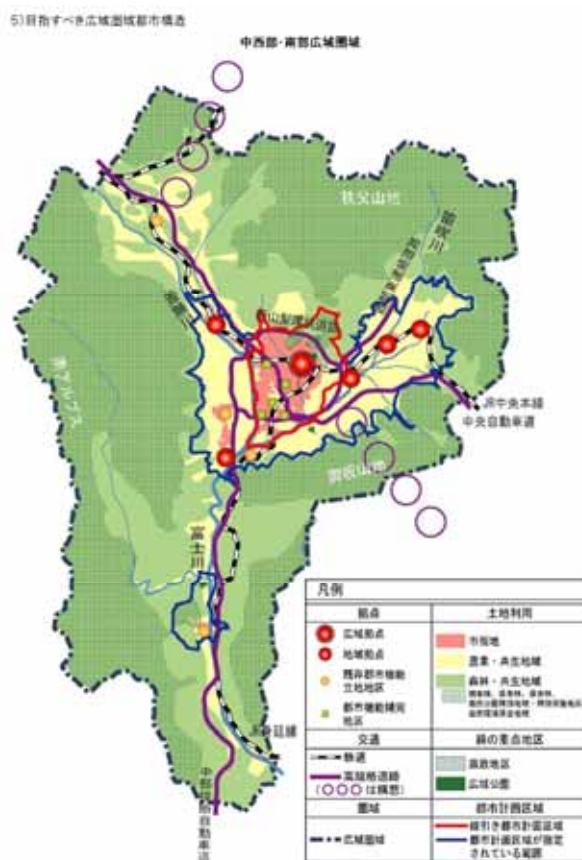
拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリア

「山梨県都市計画マスタープラン(平成21年3月 山梨県)」において、甲府駅周辺地域は「広域拠点」として位置づけられており、本県の自立的発展のため、中枢業務機能、高次医療、教育、文化、商業等の都市機能の集約を図るとともに、老朽化した既存の建物の更新、良好な景観形成、ユニバーサルデザインの推進、ユビキタスネットワーク社会への対応等により広域拠点にふさわしい都市空間の質的向上を図るものとされている。

「甲府市都市計画マスタープラン(平成20年3月 甲府市)」において、甲府駅周辺地域は「都市拠点」として位置づけられており、県都にふさわしい高次都市機能を集積することとされている。

このように、甲府駅周辺地域は、山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり、拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリアであると言える。

また、このような位置づけのもと、南口周辺地域では現在、「甲府市中心市街地活性化基本計画」(平成20年11月 甲府市)に基づき、“買い物の場として楽しめる”“歴史や文化にふれることができる”“定住の場として選ばれる”中心市街地の再生に向けた各種取り組みが展開されている。



(2) 上位計画における景観形成の方向

「美しい県土づくりガイドライン(平成21年3月 山梨県)」において、甲府駅周辺地域は、「風格と品のあるもてなしの駅前景観を形成する」とともに「にぎわい創出に寄与する中心市街地の景観を形成する」とされている。

また「甲府市景観形成基本計画」(平成20年2月 甲府市)において、甲府駅周辺地域は、歴史景観と都市景観の調和・共存などを図りながら、『甲府を象徴する「風格」と「華」のある景観形成』を誘導していくものとされている。

このように、山梨県及び甲府市の玄関口であり中心地である甲府駅周辺地域においては、“風格”“品”“華”などをキーワードに、来訪者に対するもてなしと市街地の賑わいづくりの視点からの景観づくりが求められていると言える。

また、「甲府市中心市街地活性化基本計画」(平成20年11月 甲府市)では、活性化の目標の一つとして「歴史や文化にふれることのできる中心市街地の再生」を掲げており、景観形成においても“歴史”“文化”は重要なキーワードであると考えられる。

6 . 甲府駅南口周辺地域の修景計画の基本理念と基本目標

上位計画における甲府駅周辺地域の位置づけや景観形成の方向性及び甲府駅南口周辺地域のまちの成り立ち、アンケート結果、現況調査結果などを踏まえ、甲府駅南口周辺地域における修景計画の基本理念と基本目標を以下のとおり設定する。

上位計画における甲府駅周辺地域の位置づけ

山梨県及び甲府市にとって、都市づくりの重要拠点であり拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図るべきエリア

上位計画における甲府駅周辺地域の景観形成の方向性

美しい県土づくりガイドライン

- ・ 風格と品のあるもてなしの駅前景観
- ・ にぎわい創出に寄与する中心市街地景観

甲府市景観形成基本計画

- ・ 甲府を象徴する「風格」と「華」のある景観形成

甲府市中心市街地活性化基本計画

- ・ 歴史や文化にふれることができる中心市街地の再生

修景計画の基本理念

風格ある歴史景観と都市景観が調和した
居心地が良い、賑わいのある空間づくり
～歴史・文化と緑あふれる賑わい回廊づくり～

修景計画の基本目標

歴史・文化が感じられる空間づくり
緑豊かでゆとりが感じられる空間づくり
時を越えて賑わい（華）を感じられる空間づくり
やさしさと強さのある空間づくり

甲府駅南口周辺地域の成り立ち

- ・ 様々な歴史・文化が塗り重ねられてきた
- ・ 戦災により戦前の建物の多くは失われた
- ・ 残存する歴史・文化資源は甲府城、県庁議事堂、県庁別館など
- ・ 戦災復興により新しいまちづくりが行われ、県都としての機能集積が進んだ

アンケート結果

景観づくりの方向等

- ・ 甲府らしさを感じさせる (26.6%)
- ・ 歴史を感じさせる (26.0%)
- ・ 賑わいを感じさせる (23.4%)
- ・ 現代と歴史の共存 (22.8%)
- ・ 人にやさしいデザイン (22.1%)

景観上の良いもの

- ・ 武田信玄公像 / 甲府城 / 緑や自然

景観上の悪いもの

- ・ 放置自転車 / 空き店舗 / タクシーブール / 高い建物 / 広告・看板など

現況調査等による景観上の課題

活かすべきもの

- ・ 緑(街路樹) / 武田信玄公像 / 歴史的建造物

改善すべきもの

- ・ 統一感のなさ / 放置自転車 / 広告・看板 / 建築物 / 眺望 / バリアフリーなど
- ・ 駅前広場 / 平和通り / 舞鶴通り / 甲府城など

6 - 1 . 修景計画の基本理念

風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり

～歴史・文化と緑あふれる賑わい回廊づくり～

甲府は、中世、武田氏によってつくられた城下町であり、支配者や時代の移り変わりとともに様々な歴史・文化が塗り重ねられてきたまちであるが、戦災の影響もあって戦前の建造物はほとんど残っていないのが現状である。

甲府駅南口周辺地域においても、大部分が戦後に作られた街並みとなっており、現存する歴史・文化資源は甲府城、県庁議事堂、県庁別館などに限定される。新しいまちの中にあって、これらは往時の面影をしのぶ貴重な存在であり、これらを活かしたまちづくり、景観づくりを進めていくことが求められている。同時に、駅前から平和通りにかけてのケヤキの緑、甲府城のまとまりのある緑、甲府盆地を取り巻く山々の緑は、甲府駅を訪れる人に山梨らしさを印象づける重要な要素である。

また、甲府駅南口周辺地域は都市づくりの重要拠点でもあり、既存の都市機能の集積を活かし、拠点にふさわしい都市機能の充実と空間整備を図ることが求められている。

このようなことから、甲府駅南口周辺地域においては、現存する歴史・文化資源及び緑を保全・活用しつつ、都市づくりの重要拠点にふさわしい都市機能の充実や空間整備を行い、歴史景観と都市景観が調和した空間づくりを目指していくこととする。

ここで言う歴史景観と都市景観が調和した空間とは、歴史的な色合いが濃い部分と戦後の都市的色合いが濃い部分を適切にゾーニングし、それぞれのエリアの特徴を際立たせていくことをイメージするものであり、時代に即した山梨らしい景観づくりを目指すものである。

具体的には、駅前広場、平和通り、県庁、市役所など公共空間はもちろん、商店街などでも積極的に緑の保全と育成を行い、歴史・文化と緑が身近に感じられ、歩いて楽しい回遊性の高い空間づくりを目指すものである。

歴史景観と都市景観が調和した空間、そこは、地域の人々が誇りを持って、快適に暮らせる、働き、学べる空間である。

また、来訪者にとっても、来て良かった、また来てみたい、住んでみたいと思える空間である。

誰にとっても居心地が良い空間であり、そこに様々が人が集い、様々な出会いや交流があり、賑わいや新たな文化が生まれることが期待される空間である。

美しく賑わいの感じられる空間、そこは、様々な人が交流し、新たな活力を生み出す空間である。

景観形成の視点（ねらい）

住む人
にとって

まちに誇りを持てる
快適に暮らせる
住み続けたいくなる

働く人・学
ぶ人にとって

気持ち良く働け・学べる
休日も来たいくなる
住みたいくなる

訪れる人
にとって

感動や新しい発見がある
また来てみたいと思う
住みたいと思える

商う人
にとって

まちがきれいになり、
人が増え、交流することで、
新たな活力が生まれる

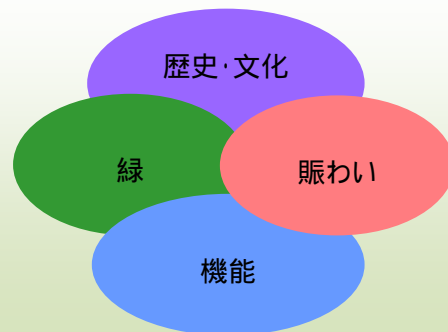
これらの空間づくりは、公共空間と民有空間が一体となって実現できるものであり、それには行政、事業者、住民が相互に連携・協力して、はじめて達成できるものである。



6 - 2 . 修景計画の基本目標

『風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり ~ 歴史・文化と緑あふれる賑わい回廊づくり ~』を実現するために、本計画では「歴史・文化」「緑」「賑わい」「機能」に着目し、修景計画の基本目標を以下とおり設定する。

基本理念の実現に必要な要素



修景計画の基本目標

歴史・文化が感じられる空間づくり

- ・・・ 中世、近世、近代など様々な歴史・文化が垣間見える空間
- ・・・ 甲府城が見え、近くに感じられ、行きたくなる空間
- ・・・ 県議会議事堂などの歴史的建造物を見せる開放的な空間
- ・・・ 武田信玄公像、信玄公祭りなどを通じて過去に思いをはせる空間

緑豊かでゆとりが感じられる空間づくり

- ・・・ 甲府城（舞鶴城公園）や県庁敷地を活かした広がりのある緑豊かな空間
- ・・・ ケヤキをはじめとするまちの緑が豊かに感じられる空間
- ・・・ 富士山や南アルプスをはじめとする甲府盆地を囲む山々の緑が見える空間

時を越えて賑わい（華）を感じられる空間づくり

- ・・・ 未来を見通して新たな賑わいを生み出す空間
- ・・・ 四季折々の表情を楽しめる空間
- ・・・ 朝、昼、夜の豊かな表情のある空間
- ・・・ 一定の統一感のもとで個性が宝石のようにきらりと光る空間

やさしさと強さのある空間づくり

- ・・・ 回遊性が高い、歩いて楽しい空間
- ・・・ ユニバーサルデザインに配慮したやさしい空間
- ・・・ 災害に対する強さを兼ね備えた空間
- ・・・ 維持・管理がしやすく使いやすい空間

歴史・文化が感じられる空間づくり

代表的な歴史・文化的資源としては、武田信玄公像、甲府城のほか山梨県議会議事堂、山梨県庁舎別館などがあるが、これらを保全・活用するとともに回遊ネットワークの充実などを行い、様々な歴史・文化が垣間見え、感じられる空間づくりを進める。

駅前広場西側に設置されている武田信玄公像については、多くの人が山梨らしさを感じさせるものとして評価しているものの、駅前から目立たないとの指摘もあり、よりアピールできる空間づくりのあり方などを検討する。

甲府城については駅に近接しているものの、駅から分かりにくい、行きにくい、周辺の建物が眺望を阻害しているなどの指摘がある。このような指摘も踏まえ、甲府城が見え、近くに感じられ、行きたくなる空間づくりを進める。

県の近代化遺産として価値の高い山梨県議会議事堂及び県庁舎別館は、街並みのアクセントとなり、多くの人に見てもらえるように、防災新館建設にあわせ県庁敷地の開放的な空間づくりを進める。

また各種施設・空間の整備にあたっては、信玄公祭などのイベントの開催に配慮するとともに、北口とも連携を図りながら歴史・文化に関する情報発信を進める。



駅前広場西側にある武田信玄公像



甲府城（舞鶴城公園）



県議会議事堂

緑豊かでゆとりが感じられる空間づくり

アンケートによると甲府駅南口周辺地域では、多くの人が「緑が多い」「気持ち良く歩ける」と感じており、また景観を良くするためには「緑を増やすこと」が必要と考えていることが分かる。つまり、多くの人が、平和通りや駅前広場における緑の豊かさやゆとりを評価し、景観づくりにおける重要性を認識している。

緑の豊かさや空間的なゆとりは、甲府駅南口周辺地域の強みの一つであると言え、この強みをさらに伸ばしながら景観づくりを進めていくこととする。

ゆとりと広がりがあり、まちの緑が豊かに感じられる空間づくりを行うため、オープン県庁敷地整備計画と連携を深める。また、道路、広場等の公共空間はもちろん、店舗、住宅、駐車場など民有空間も含めて、緑化などを積極的に進める。

また、盆地特有の山並みも山梨の特徴であり、主要なポイントにおいては山並みの緑を楽しむような空間づくりを進める。



緑豊かな平和通り



緑豊かな駅前広場

時を越えて賑わい（華）を感じられる空間づくり

様々な歴史・文化が塗り重ねられてできた甲府のまちの特性を踏まえ、城下町時代の栄華などに思いをはせつつも、現代の居住者、通勤・通学者、買物客及び観光客などの多様なニーズを適切に受け止め、未来を見通し新たな賑わいを生み出す空間づくりを行う。

それは、古さと新しさが共存、融合する空間であり、四季折々の多様な表情を見（魅）せる空間であり、日々刻々と変わる人やまちの表情を楽しめる空間であり、また一定の統一感のなかでも個性が宝石のようにきらりと光る空間である。

店舗、事務所などの協力を得ながら、花木、色、陰影、光、音などを効果的に活用し、賑わいの舞台となる空間を演出する。

また、賑わいを感じられる空間づくりには、民間事業者の協力が不可欠であり、リニア中央新幹線の新駅との連携なども視野に入れ、大型バスの駐車場の充実や回遊性を高める空間づくりを進めながら、土地の有効・高度利用と民間による新たな集客施設、商業施設等を誘導する。



やさしさと強さのある空間づくり

居心地が良い、賑わいのある空間づくりのためには、景観的な美しさとともに、使いやすく、防災性が高く、維持・管理しやすい空間づくりが不可欠である。

このため、段差などがなく、分かりやすい、誰もが使いやすいユニバーサルデザインの空間づくりを進めるとともに、歩行空間や案内が充実した回遊性の高い、歩いて楽しい空間づくりを進める。

駅前広場、平和通り、甲府城（舞鶴城公園）、県庁、市役所などは、地震や火災などの災害時の避難、救援、復旧活動等に重要な役割を果たすことが期待されることから、景観整備とともに、防災機能の強化に資する空間づくりを進める。

また、経年変化に強く、補修・改善、清掃などに配慮した、維持・管理のしやすい空間づくりを行う。

7 . 甲府駅南口周辺地域の景観形成の骨格

7 - 1 . ゾーン区分

『風格ある歴史景観と都市景観が調和した居心地が良い、賑わいのある空間づくり ~ 歴史・文化と緑あふれる賑わい回廊づくり~』を実現するため、歴史的な色合い、都市的な色合いにより適切にゾーニングし、それぞれのエリアの特徴を際立たせる景観づくりを進める。

現状の建物、土地利用、基盤整備の状況、歴史・文化資源の分布状況及びこれらに基づく景観特性などを総合的に勘案して、甲府駅南口周辺地域を以下の6つのゾーンに区分し、ゾーンごとにそれぞれの特性にあった空間づくりを進める。

- おもてなし駅前ゾーン
- 風格と賑わいの都市ゾーン
- 歴史と文化へのアプローチゾーン
- 歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン
- 賑わいの商業ゾーン
- 潤いの住居・業務複合ゾーン

7 - 2 . 拠点と景観形成軸

各ゾーンの景観形成をリード(誘導)するとともに、ゾーン間の結びつきを強める空間として、拠点及び景観形成軸として設定する。

景観形成軸は線的に景観形成をリード(誘導)する空間であり、主要な道路を中心に設定する。

景観形成軸上では、公共空間と民有空間が一体となってゾーンにふさわしい景観づくりを積極的に進める。また、ゾーンとゾーンをつなぐ空間として、特性の異なるゾーン間に一定の連続性や統一感を確保するよう配慮する。

景観形成軸は主要な動線軸でもあり、景観形成軸を中心にゾーン及び拠点を適切に結ぶ歩行者ネットワークの充実を進める。

修景の基本目標とゾーン、拠点の関係

(:重要、 :配慮する)

ゾーン	潤いの住居・業務複合ゾーン	おもてなし駅前ゾーン		歴史と文化のアプローチゾーン		風格と賑わいの都市ゾーン		賑わいの商業ゾーン	歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン
		交通・交流拠点	歴史・文化交流拠点	行政・交流拠点(県庁)	行政・交流拠点(市役所)				
修景の基本目標									
歴史・文化が感じられる空間									
緑豊かでゆとりが感じられる空間									
時を越えて賑わい(華)を感じられる空間									
やさしさと強さのある空間									

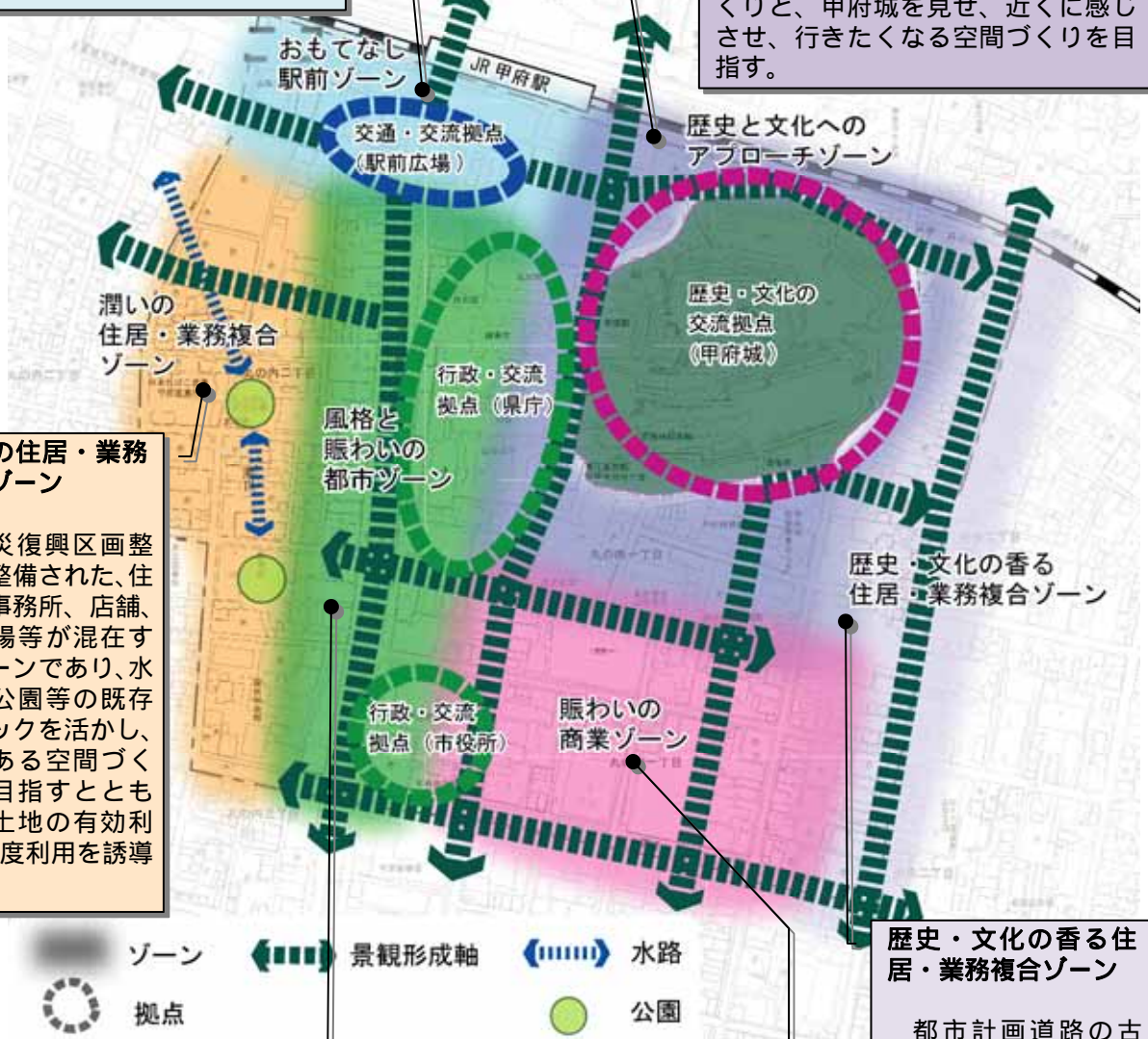
甲府駅南口周辺地域の景観形成方針図

おもてなし駅前ゾーン

県都の玄関口として、訪れる人をもてなすための重要なゾーンであり、緑や信玄公像を活かし、もてなしの心と山梨らしさが感じられる空間づくりを目指す。

歴史と文化へのアプローチゾーン

駅周辺、平和通り周辺、商店街周辺などの都市的な空間と甲府城などの歴史・文化的資源とをつなぐゾーンであり、公共施設敷地を活かし、緑豊かでゆとりが感じられる空間づくりと、甲府城を見せ、近くに感じさせ、行きたくなる空間づくりを目指す。



潤いの住居・業務複合ゾーン

戦災復興区画整理で整備された、住宅、事務所、店舗、駐車場等が混在するゾーンであり、水路や公園等の既存ストックを活かし、潤いある空間づくりを目指すとともに、土地の有効利用・高度利用を誘導する。

歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン

都市計画道路の古府中環状浅原橋線沿道の住宅、事務所、店舗等が混在するゾーンであり、隣接する歴史と文化へのアプローチゾーンとの調和に配慮し、歴史・文化が感じられる落ち着いた空間づくりを目指す。

風格と賑わいの都市ゾーン

ゆとりある緑豊かな道路空間と高度な機能集積が風格を醸し出す、県都の都市づくりを先導するゾーンであり、県庁、市役所の建て替えをきっかけに、より一層の風格が感じられる空間づくりを目指す。

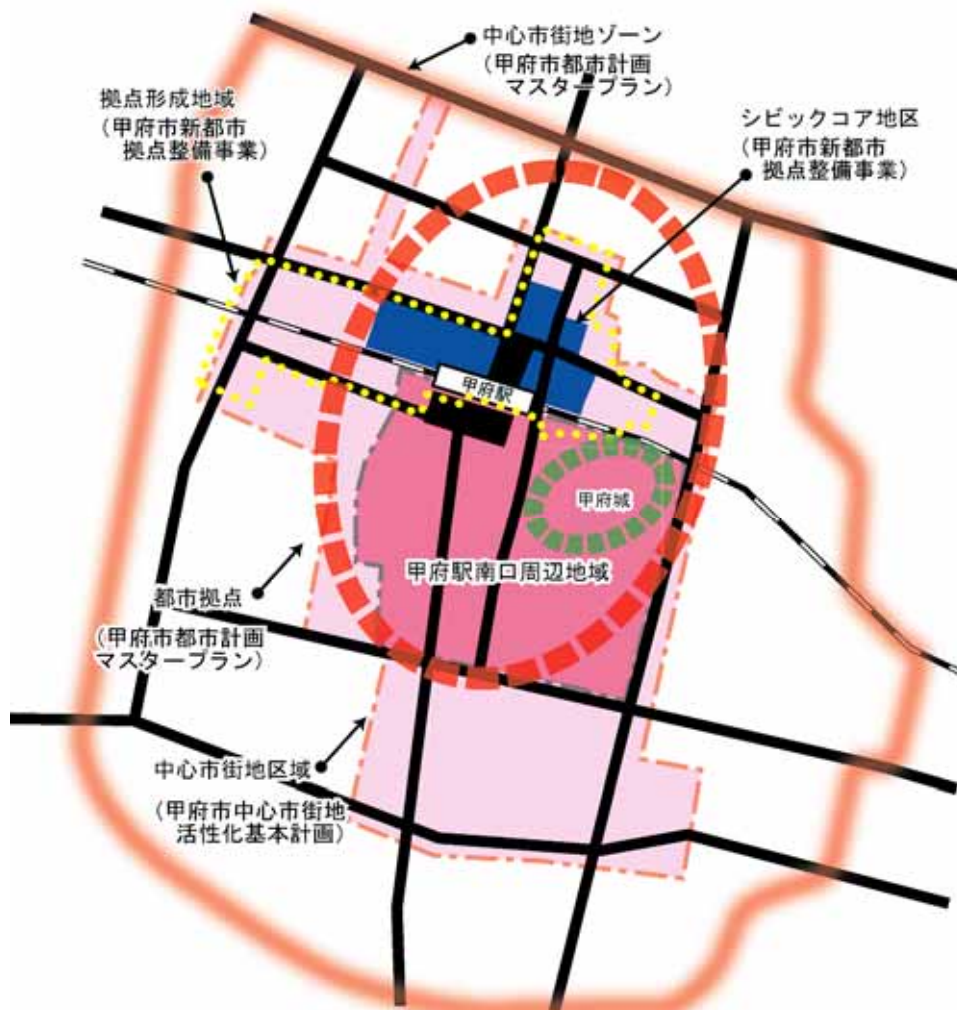
賑わいの商業ゾーン

甲府市の中心的な商業地で、個性的な通りや店舗の集積を活かし、賑わいの再生が求められるゾーンであり、誰もが快適に買物や飲食を楽しめる、賑わいの感じられる空間づくりを目指す。

甲府駅南口周辺地域の歩行者ネットワーク形成方針図



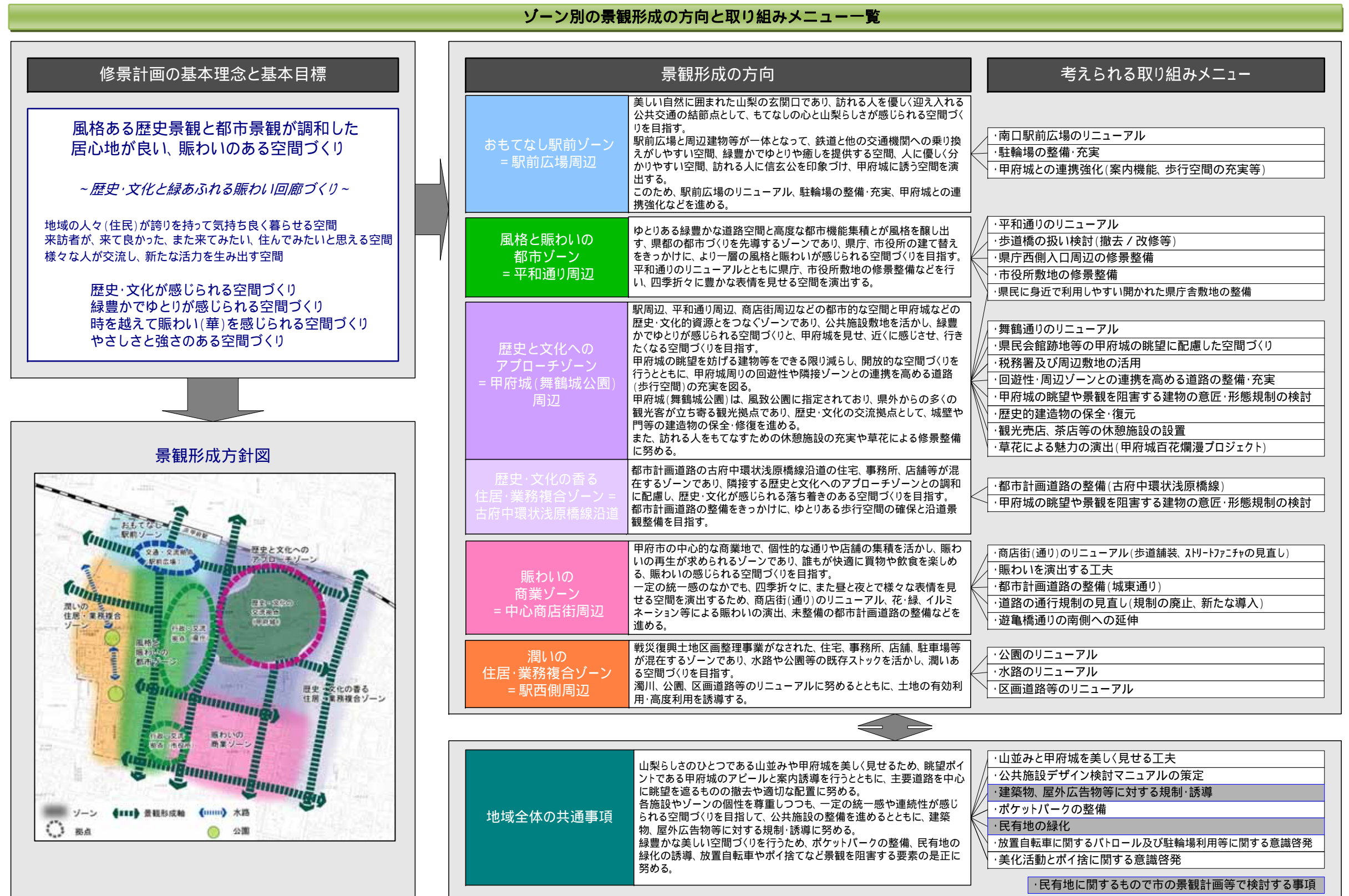
甲府駅南口周辺地域と隣接地域との関係



8. ゾーン別景観形成の方向と具体的な取り組み

8-1. ゾーン別景観形成の方向と取り組みメニュー

各ゾーンの景観形成の方向とそれを実現するための取り組みメニューは以下に示すとおりである。



8 - 2 . ゾーン別景観形成の方向と具体的な取り組み

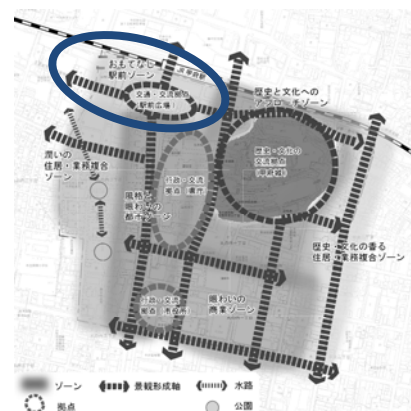
8 - 2 - 1 . おもてなし駅前ゾーン

(1) 景観形成の方向

美しい自然に囲まれた山梨の玄関口であり、訪れる人を優しく迎え入れる公共交通の結節点として、もてなしの心と山梨らしさを感じられる空間づくりを目指す。

駅前広場と周辺建物等が一体となって、鉄道と他の交通機関への乗り換えがしやすい空間、緑豊かでゆとりや癒しを提供する空間、人に優しく分かりやすい空間、訪れる人に信玄公を印象づけ、甲府城に誘う空間を演出する。

このため、駅前広場のリニューアル、駐輪場の整備・充実、甲府城との連携強化などを進める。



(2) 修景メニュー

南口駅前広場のリニューアル

南口駅前広場は、タクシー、バス等の車両交通優先の空間となっており、歩行者にとっては駅から平和通りに行きづらい、車との輻輳が多く見られるなど、必ずしも使い勝手の良い空間ではなく、景観的に見ても好ましくない。また、武田信玄公像は山梨らしさを象徴するものとして評価されているものの、駅前から目立たないとの指摘もある。

このため、南口駅前広場については、歩行者優先の空間づくり、信玄公像を活かしたシンボル性の高い空間づくりを目指し、リニューアルを行う。



タクシーが目立ち、ゆとりや潤いを感じられない南口駅前広場

駐輪場の整備・充実

南口駅前広場周辺には、放置自転車が多く見られ、歩行や良好な景観形成の妨げとなっており、放置自転車対策を求める声が多く聞かれる。

このため、放置自転車のないすっきりした空間の実現を目指し、放置自転車に対する規制強化や駐輪場の整備・充実を進めるとともに、北口等とも連携しレンタサイクルの導入を検討する。



放置自転車が多くの歩行や景観を阻害している

甲府城との連携強化（案内機能、歩行空間の充実等）

甲府城は、駅周辺における重要な観光資源であるが、駅から分かりにくいとの指摘がある。

訪れる人に甲府城の存在を気づいてもらい、行きたいと思わせるため、甲府城への案内や歩行空間の充実などに努める。



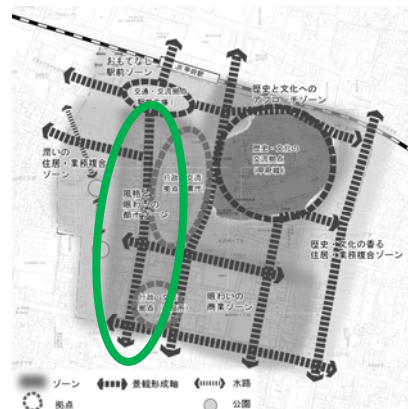
駅前から甲府城の存在がわかりにくい

8 - 2 - 2 . 風格と賑わいの都市ゾーン

(1) 景観形成の方向

ゆとりある緑豊かな道路空間と高度な都市機能集積とが風格を醸し出す、県都の都市づくりを先導するゾーンであり、県庁、市役所の建て替えをきっかけに、より一層の風格と賑わいが感じられる空間づくりを目指す。

平和通りのリニューアルとともに県庁、市役所敷地の修景整備などを行い、四季折々に豊かな表情を見せる空間を演出する。



(2) 修景メニュー

平和通りのリニューアル

平和通りは、ゆとりある道路空間と長い時を経て大きく育ったケヤキの緑、そして沿道の高度な機能集積が県都のシンボル道路にふさわしい風格を醸し出している。

しかし一方で、東側の老朽化したアーケードは景観や開放感を損ねており、また中央分離帯の樹木のため、見通しが良くないとの指摘もある。

平和通りについては、県庁や市役所の建て替えをきっかけに、まちの緑がさらに豊かに感じられ、季節ごとに様々な表情を見せ、ここを舞台に様々な人が行き交い、集う、賑わいの感じられる空間づくりを行う。

具体的には、アーケードの撤去の検討を含め、道路の断面構成の見直し、老朽化した道路施設の撤去・改善等によるリニューアルを行う。



街路樹（ケヤキ）の緑が印象的な平和通り



アーケードは老朽化し、日よけシートは汚れが目立つ

歩道橋の扱い検討（撤去 / 改修等）

平和通りには、市役所前と県庁前に歩道橋があるが、見通しや眺望を阻害するとともに、エレベータ等がないため高齢者や障がい者にとって使いづらい施設になっている。

見通しや眺望の確保及びユニバーサルデザインの視点から、歩道橋の撤去や改修を検討する。



市役所前の歩道橋

県庁西口入口周辺の修景整備

現在の県庁西口入口は平和通りに対して開かれた空間となっておらず、歴史的に価値のある議事堂も通りからはあまり目立っていない状況にある。

今後は、議事堂を活かしつつ、県庁敷地の整備にあわせて、平和通りと一体となった緑豊かな開放的な空間づくりを進める。



県庁西口入口周辺

市役所敷地の修景整備

市役所庁舎については、現在、建替えが進められている。
建替えにあわせて、平和通りや周辺街路と一体となった緑豊かで開放的な空間づくりを進める。



市役所完成予想図

8 - 2 - 3 . 歴史と文化へのアプローチゾーン

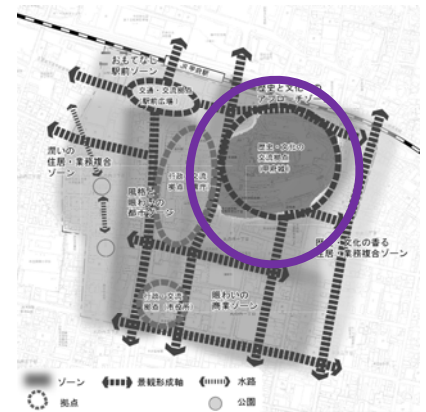
(1) 景観形成の方向

駅周辺、平和通り周辺、商店街周辺などの都市的な空間と甲府城などの歴史・文化的資源とをつなぐゾーンであり、公共施設敷地を活かし、緑豊かでゆとりが感じられる空間づくりと、甲府城を見せ、近くに感じさせ、行きたくなる空間づくりを目指す。

甲府城の眺望を妨げる建物等をできる限り減らし、開放的な空間づくりを行うとともに、甲府城周りの回遊性や隣接ゾーンとの連携を高める道路（歩行空間）の充実を図る。

甲府城（舞鶴城公園）は、風致公園に指定されており、県外からの多くの観光客が立ち寄る観光拠点であり、歴史・文化の交流拠点として、城壁や門等の建造物の保全・修復を進める。

また、訪れる人をもてなすための休憩施設の充実や草花による修景整備に努める。



(2) 修景メニュー

県民に身近で利用しやすい開かれた県庁舎敷地の整備

舞鶴通り西側の県庁敷地については、緑豊かな開放的な空間づくりを行うとともに、平和通りと舞鶴通りを結ぶ歩行者用通路を確保する。

舞鶴通りのリニューアル

舞鶴通りについては、歩道が狭く歩きづらいため、拡幅が予定されており、道の拡幅にあわせて、沿道と調和した舗装などを行う。



歩道が狭く、ゆとりが感じられない舞鶴通り

県民会館跡地等の甲府城の眺望に配慮した空間づくり

舞鶴通り東側の県庁東別館、山梨県民会館の跡地については、歴史的価値の高い文化財包蔵地であり、これらの保全に努めながら、スクランブル交差点周辺からの眺望を遮らない開放的な空間づくりを進める。

また、鉄道からの良好な眺望を確保し、鉄道利用者に甲府城の存在をアピールできるように検討する。



甲府城方向の眺望を阻害している県庁東別館

税務署及び周辺敷地の活用

甲府城南側については、税務署、社会教育センターなどの公的施設があるが、景観的には必ずしも甲府城と調和していない。

税務署については移転が計画されており、移転にあわせて、甲府城と調和した休憩施設等の整備に努める。

また、税務署周辺についても一体的な空間づくりを検討する。



税務署北側のお堀沿いの道路

回遊性や周辺ゾーンとの連携を高める道路の整備・充実

甲府城周辺においては、公共施設敷地を活かし休憩スペース等の充実を図るとともに、甲府城の雰囲気を楽しみながら安全に歩ける回遊道路の整備・充実に努める。



甲府城東側の道路。電柱が歩行空間を狭めている

甲府城の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討

甲府城周辺においては、甲府城の眺望を阻害する建物や景観と調和しない建物なども見られている。

このため、眺望を確保し、景観に調和した建物を適切に誘導するため建物の意匠・形態の規制を検討する。

歴史的建造物の保全・復元

甲府城は平成5年から平成16年まで約10年をかけて大規模な補修を行った。

現在は、その時に改修しなかった石積みを対象として、保全のための改修を行っている。

平成15年に稲荷櫓を復元し、櫓門、鉄門の復元整備なども進められている。

今後も引き続き、石積みの改修や門の復元整備などを進める。



鉄門復元想定図（南側からの図）
（山梨県HPより）

観光売店、茶店等の休憩施設の設置

現在の甲府城周辺には、来訪者がゆっくりくつろげる空間や楽しめる空間がない、との意見が多く寄せられている。

観光拠点として、訪れる人をもてなすための観光売店や茶店等の休憩施設の設置を検討するとともに、各施設のバリアフリー化を検討する。

草花による魅力の演出（甲府城百花爛漫プロジェクト）

観光拠点として、訪れる人が四季折々に草花を楽しめる空間の整備を進める。

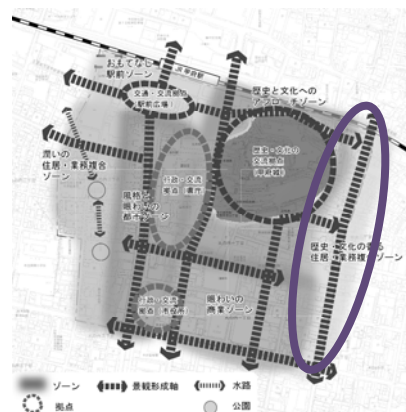


8 - 2 - 4 . 歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン

(1) 景観形成の方向

都市計画道路の古府中環状浅原橋線沿道の住宅、事務所、店舗等が混在するゾーンであり、隣接する歴史と文化へのアプローチゾーンとの調和に配慮し、歴史・文化が感じられる落ち着いた空間づくりを目指す。

都市計画道路の整備をきっかけに、ゆとりある歩行空間の確保と沿道景観整備を目指す。



(2) 修景メニュー

都市計画道路の整備（古府中環状浅原橋線）

駅北側とを連絡する都市計画道路の古府中環状浅原橋線は未整備であり歩道も緑もなく、沿道は殺風景なイメージがある。

長期的な視点から、都市計画道路の整備を進め、ゆとりある歩行空間の確保、電線類の地中化などを行うとともに、沿道の景観整備などの誘導に努める。



都市計画道路が未整備であり、歩道や緑もなく、殺風景

甲府城の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討

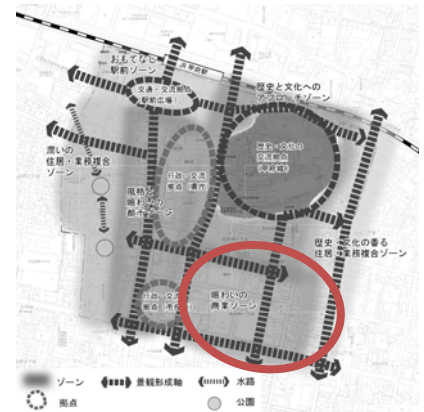
都市計画道路の整備にあわせて、甲府城の眺望を確保し、景観に調和した建物を適切に誘導するため建物の意匠・形態の規制を検討する。

8 - 2 - 5 . 賑わいの商業ゾーン

(1) 景観形成の方向

甲府市の中心的な商業地で、個性的な通りや店舗の集積を活かし、賑わいの再生が求められるゾーンであり、誰もが快適に買物や飲食を楽しめる、賑わいの感じられる空間づくりを目指す。

一定の統一感のなかでも、四季折々に、また昼と夜とで様々な表情を見せる空間を演出するため、商店街（通り）のリニューアル、花・緑、イルミネーション等による賑わいの演出、未整備の都市計画道路の整備などを進める。



(2) 修景メニュー

商店街（通り）のリニューアル（歩道舗装、ストリートファニチャーの見直し）

各商店街（通り）では、個性豊かな道づくりが行われているものの、通りによって照明灯、車止めのデザイン・色や街路樹などがバラバラで統一感が感じられない。

ゾーン全体の統一性、道路空間と建物（店）とのバランス、ユニバーサルデザインなどを意識し、各商店街（通り）のリニューアルを検討する。



市街地再開発事業によりゆとりある歩行空間が確保された紅梅通り



道路の左右で歩道の舗装等のデザインが異なる城東通り



歩行者優先の道づくりをしているオリオンストリート

賑わいを演出する工夫

賑わいや潤いを演出するため、通りに面した部分への植栽やライトアップなどを行っているお店もある。

賑わいのある空間づくりに向け、花や緑による演出、祭りやイベントにおける装飾、夜間のイルミネーション、ライトアップ等を検討する。



壁面を後退させ前面に緑を配置した景観に配慮した建物

都市計画道路の整備（城東通り）

城東通り東側の岡島百貨店周辺は都市計画道路として未整備であり、歩道が整備されていない区間もある。

車両交通の円滑化とゆとりある歩行空間を確保するため、都市計画道路の整備（歩道整備、電線類の地中化等）に努める。



歩道が整備されておらず歩行者が安心して歩きづらい区間

道路の通行規制の見直し（規制の廃止、新たな導入）

紅梅北通りなどでは、車両の通行規制により不要な通過交通が抑制され歩行者の安全性が確保されているが、その一方で、車両の利便性が損なわれているとの指摘もある。

歩行者の安全性と車両の利便性等のバランスを考慮しつつ、道路の通行規制の見直し等を検討する。



一方通規制が行われている紅梅北通り

遊亀橋通りの南側への延伸

中心商店街と甲府城周辺との連絡を強化し、人の行き来を活発にするため、遊亀橋通りの南側（商店街）方向への延伸に努める。



遊亀橋通り（甲府城跡方向を望む）

8 - 2 - 6 . 潤いの住居・業務複合ゾーン

(1) 景観形成の方向

戦災復興土地区画整理事業がなされた、住宅、事務所、店舗、駐車場等が混在するゾーンであり、水路や公園等の既存ストックを活かし、潤いある空間づくりを目指す。

濁川、公園、区画道路等のリニューアルに努めるとともに、土地の有効利用・高度利用を誘導する。

(2) 修景メニュー

公園のリニューアル

殺風景なイメージが強いゾーン内において、橋公園と県立図書館前の緑地は緑豊かな空間を提供しているが、橋公園ではフェンス、遊具、トイレ等の老朽化が見られている。

このため、橋公園については、老朽化した施設の更新を検討する。



県立図書館前の緑豊かな緑地



施設の老朽化が見られる橋公園

水路のリニューアル

かつて堀であった濁川は、ゾーンの貴重な景観資源と言えるが、十分活かされていない。

親しみやすい水辺空間となるよう、公園との一体的な整備も視野に入れ、リニューアルを検討する。



橋公園南側の濁川

区画道路等のリニューアル

戦災復興土地区画整理事業がなされたエリアであり区画道路が整っているが、歩道や緑がない道路が多く、沿道には駐車場も多いため、殺風景なイメージが強い。

景観に配慮した人にやさしい道づくりを目指し、道路のリニューアルを検討する。特に、景観上重要な道路については電線類の地中化等を検討する。



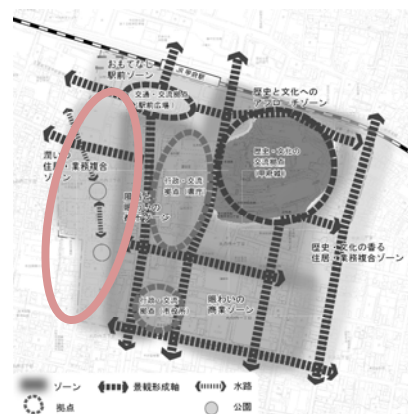
比較的幅の広い区画道路



このような整備も考えられる



松本市中町地区の歩車共存道路



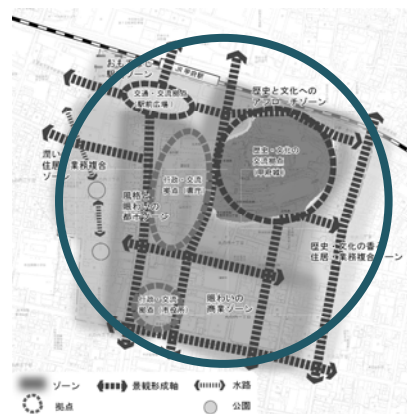
8 - 2 - 7 . 地域全体の共通事項

(1) 景観形成の方向

山梨らしさのひとつである山並みや甲府城を美しく見せるため、眺望ポイントである甲府城のアピールと案内誘導を行うとともに、主要道路を中心に眺望を遮るものの撤去や適切な配置に努める。

各施設やゾーンの個性を尊重しつつも、一定の統一感や連続性が感じられる空間づくりを目指して、公共施設の整備を進めるとともに、建築物、屋外広告物等に対する規制・誘導に努める。

緑豊かな美しい空間づくりを行うため、ポケットパークの整備、民有地の緑化の誘導、放置自転車やポイ捨てなど景観を阻害する要素の是正に努める。



(2) 修景メニュー

山並みと甲府城を美しく見せる工夫

甲府駅や主要なポイントで甲府城における眺望の良さをアピールするとともに、甲府城への案内・誘導の充実に努める。

主要な道路においては、美しい山並みと甲府城を見せるために、電線類の地中化や案内板等の配置の工夫（大きさ、位置等）を進めるとともに、建築物の壁面後退や高さ規制を検討する。

公共施設デザイン検討マニュアルの策定

対象地域内の道路では路線や区間によって、舗装、照明灯、車止め、街路樹、案内板、サインに様々なものが使われており、これが地域全体としての統一感を低下させている要因ともなっている。

このため、公共施設デザイン検討マニュアルを策定して、統一感のある空間づくりに努める。

建築物、屋外広告物等に対する規制・誘導

沿道の建築物や屋外広告物についても、全般的に統一感があまり感じられず、特に駅周辺は看板やのぼりが多く、雑然とした印象があり、また屋上看板は山並みの眺望を阻害している。

建築物や屋外広告物についても、一定のルールのもとで、適切な規制・誘導を検討する。

ポケットパークの整備

緑豊かでゆとりが感じられる空間づくりに向け、道路整備等により発生する残地や商店街内の未利用地などを活用したポケットパークの整備に努める。

民有地の緑化

緑豊かでゆとりが感じられる空間づくりのためには民有地における取り組みも重要である。

民有地でも通りに沿って緑を配して潤いや安らぎを演出している建物も見られるが、今後もこのような取り組みを誘導する。

放置自転車に関するパトロール及び駐輪場利用等に関する意識啓発

放置自転車を減らすため、放置自転車に関するパトロールや駐輪場の利用促進及び店舗・事業所における駐輪スペースの確保に向けた意識啓発活動などを継続的に行うよう努める。

美化活動とポイ捨てに関する意識啓発

ポイ捨てなども景観を損ねている大きな要因となっており、多くの人々からその問題を指摘されている。

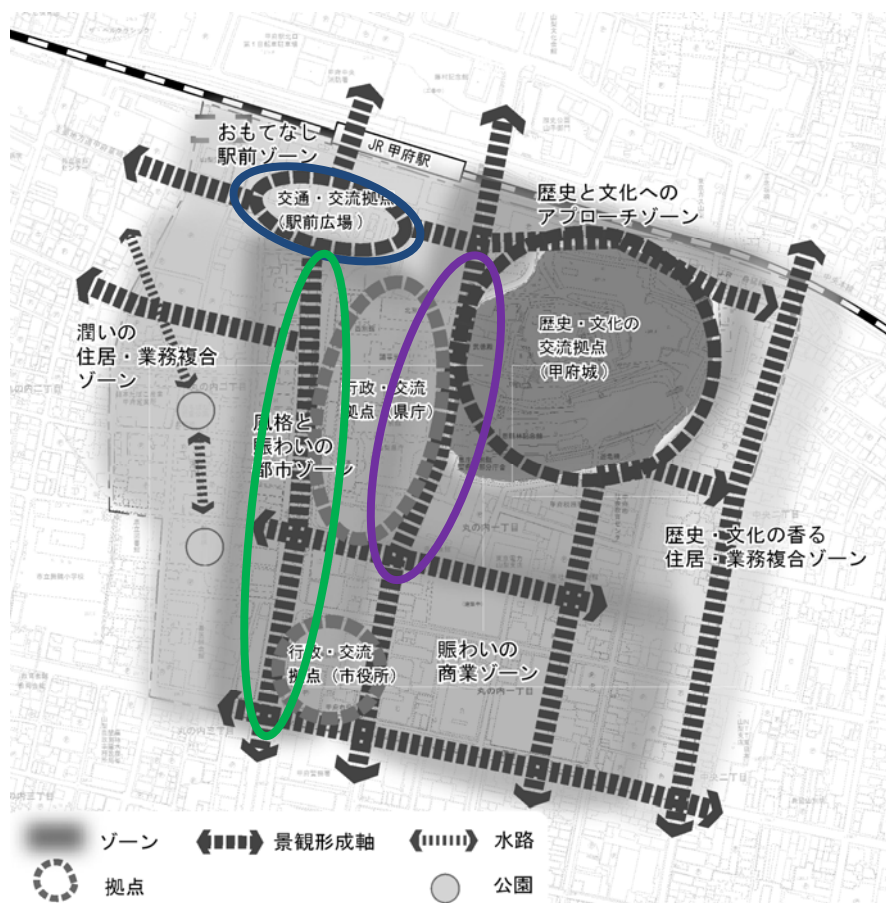
商店街や自治会などとも連携・協力して美化活動を積極的に進めるとともに、ポイ捨てに関する意識啓発活動などに努める。

9 . 主要地点の修景イメージ

前章で掲げた修景メニューは全て、甲府駅南口周辺地域において実施していくことが望まれるものであるが、これらを一時期に実施することは困難である。

修景事業は、文章による表現では読む人により受け取るイメージが千差万別である。目指すべき姿をより多くの方々と共有する必要があるため、ここでは修景整備を実施することで景観上大きな効果が期待される以下の地点について、修景イメージを示すこととする。

駅前広場
 平和通り
 舞鶴通り沿道



9 - 1 . 駅前広場のリニューアルのイメージ

(1) コンセプト：歩行者にやさしい山梨らしさが感じられる広場づくり

南口駅前広場は、鉄道からの他の交通機関への乗り換えがしやすく、歩行者にやさしい、既存の緑や信玄公像を活かし、緑豊かで山梨らしいシンボル性の高い空間づくりを目指す。

効率的な空間利用を実現するため、交通空間の再配置、ロータリーの見直し等を行い、歩行者空間や修景（環境）空間の拡充を行う。

信玄公祭などに配慮した空間づくりを行うとともに、訪れる人に甲府城の存在をアピールでき、行きたいと思わせるための工夫を行う。

(2) リニューアルの考え方

歩行優先の空間づくり

- ・ 駅から平和通りへ向かう明確な歩行者動線を確保するため、バス待合所周辺を改良し歩行空間を拡充する。
- ・ 車との交差部は歩行者の安全性を確保するためイメージハンプ（歩道と同様の舗装）や立体横断施設などの工夫を検討する。
- ・ ユニバーサルデザインに配慮し、段差や勾配がきつい箇所の改善を行う。

タクシープールの移設と安全で分かりやすい交通動線の実現

- ・ 客待ちタクシー - が連なる雑然とした雰囲気を解消するため、タクシー配車はショットガン方式（*）とし、広場内のタクシープールを移設する。タクシー乗車場に関しては、高齢化の進行等に伴い近距離利用の需要も増えていることから、近距離専用の乗車場を検討する。
- ・ 分かりやすく、安全な交通の流れを確保するため、山交百貨店北側道路は現状の交互通行のまま、ロータリーを見直すとともに、バスとタクシー・一般車との動線の分離を検討する。

（*）ショットガン方式：タクシープールを別の場所に設置し、乗り場に必要台数が向かう方式

平和通りと一体となった緑豊かな美しい空間づくり

- ・ 平和通りと一体となった緑豊かな空間を演出するため、歩行空間などに植栽を行う。
- ・ 老朽化したハイポール照明、宝石をかたどったシンボル塔などを撤去し、洗練されたデザインの照明、シェルター、ベンチ、サイン等を設置するとともに、山梨らしさを演出するモニュメント等の設置を検討する。
- ・ 必要性が低く景観的に好ましくない案内板やサインは整理、撤去に努める。

信玄公像、甲府城等の歴史・文化を活かした空間づくり

- ・ 駅前広場内に信玄公祭の出陣式などイベントスペースとして活用できる空間を確保する（イベントに支障となる構造物等は設置しない）。
- ・ 信玄公像は、駅に降り立った人から目立つように、設置空間のあり方を検討する。
- ・ 訪れる人に甲府城の存在をアピールし、行きたいと思わせるため、甲府城への案内や歩行空間の充実などに努める。

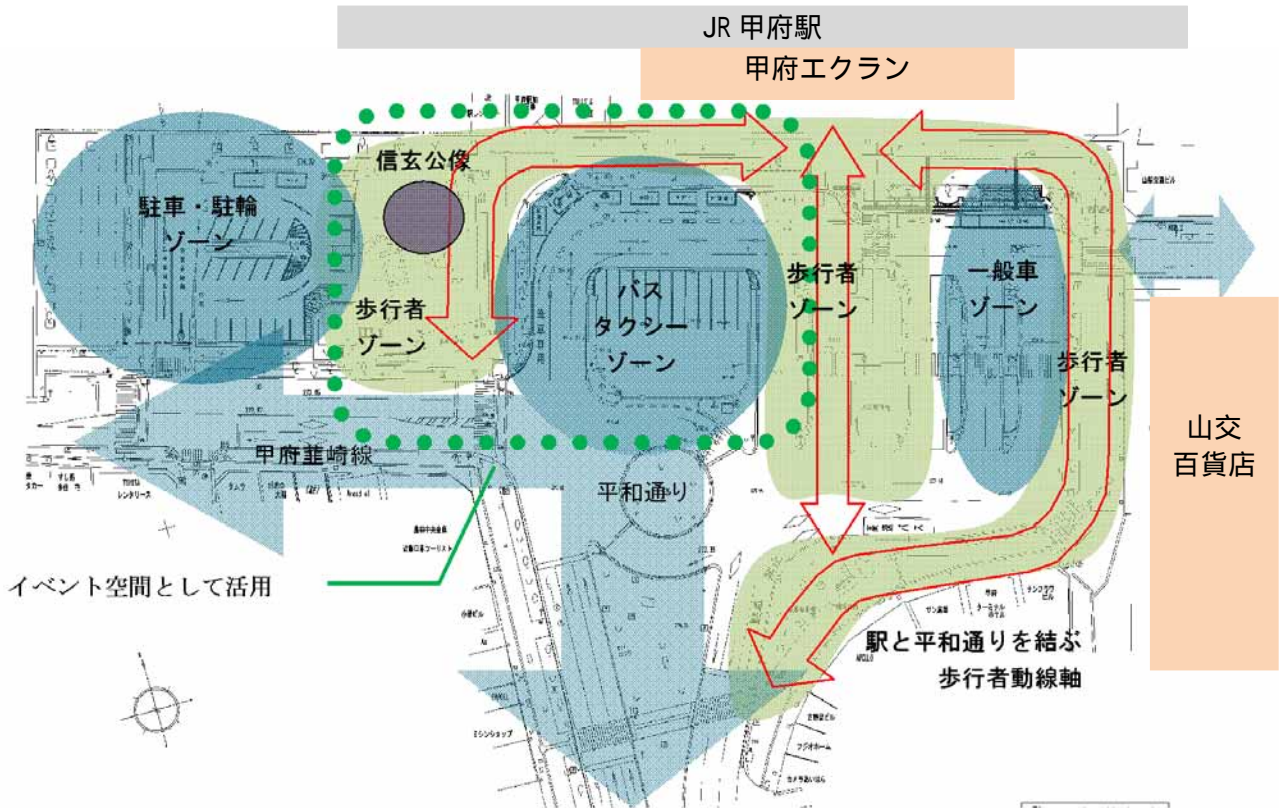
駐車場・駐輪場の整備

- ・ 放置自転車をなくすため、広場西側に駐輪場と送迎用駐車場を一体的に整備する。

- ・整備にあたっては、南アルプスの眺望や信玄公像広場との一体性に配慮する。
- ・駐車場に関しては、目的（送迎用）に即した利用を誘導するため料金徴収（一定時間は無料）を前提とする。

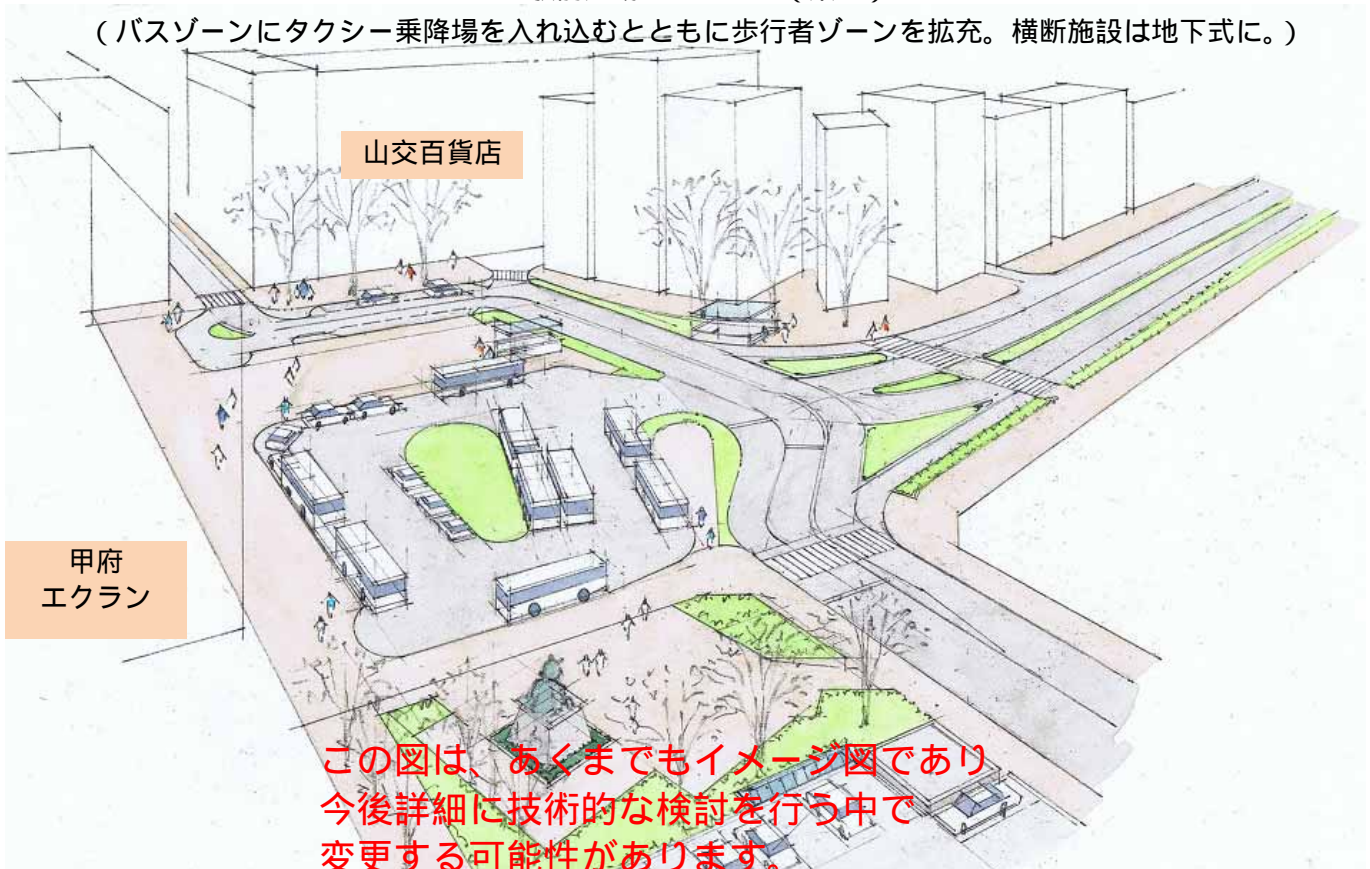
駅前広場のゾーニング図（案1）

（バスゾーンにタクシー乗降場を入れ込むとともに歩行者ゾーンを拡充。横断施設は地下式に。）



駅前広場のイメージ（案1）

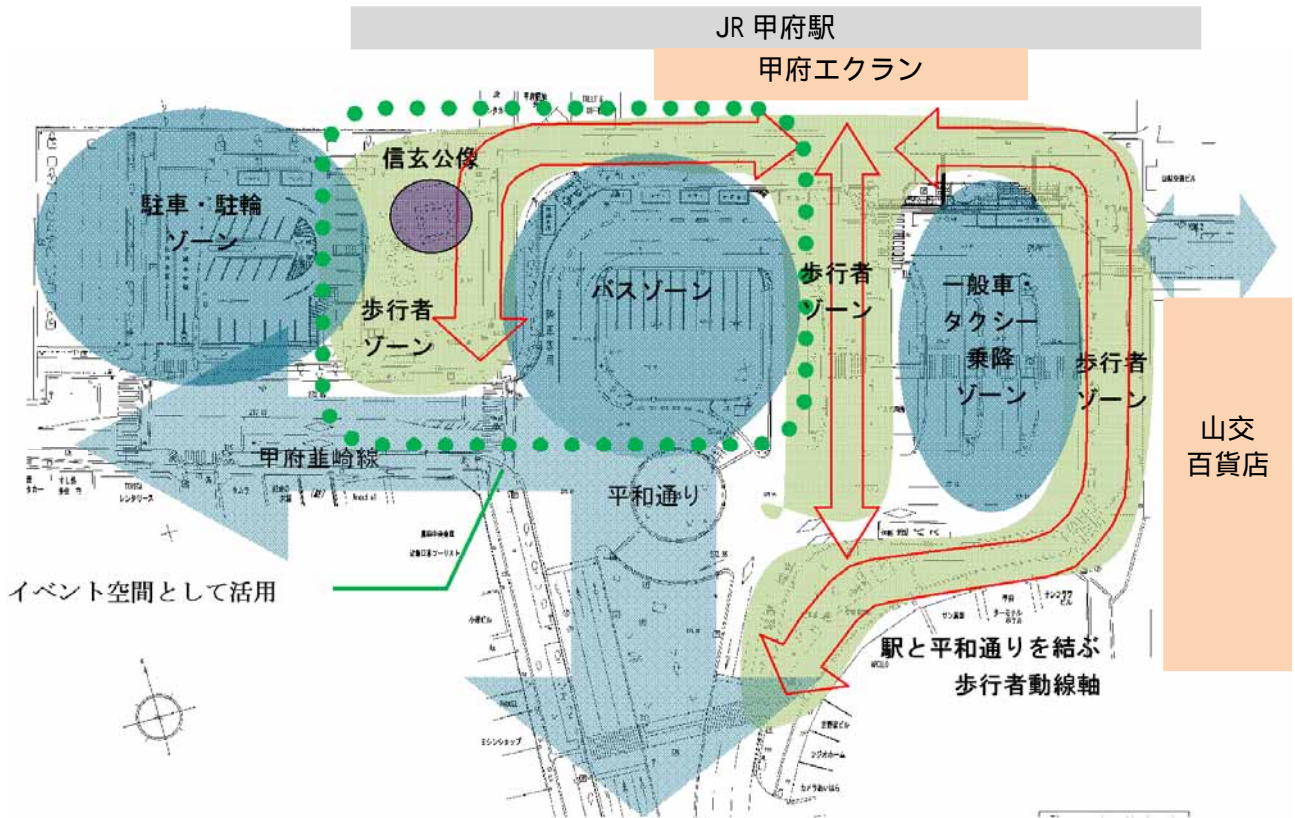
（バスゾーンにタクシー乗降場を入れ込むとともに歩行者ゾーンを拡充。横断施設は地下式に。）



この図は、あくまでもイメージ図であり
今後詳細に技術的な検討を行う中で
変更する可能性があります。

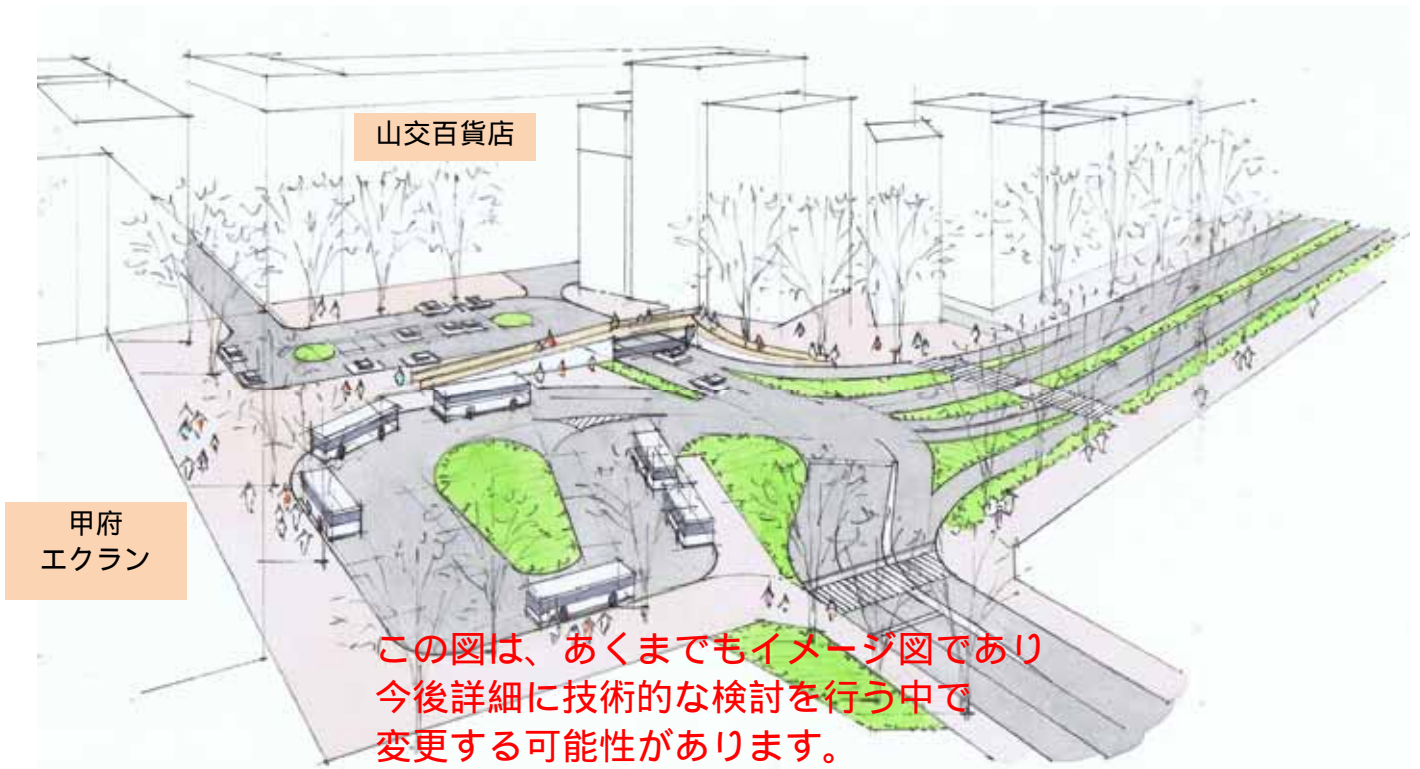
駅前広場のゾーニング図(案2)

(山交百貨店北側道路を対面通行のままとし、バスゾーンを西側に移動した場合)

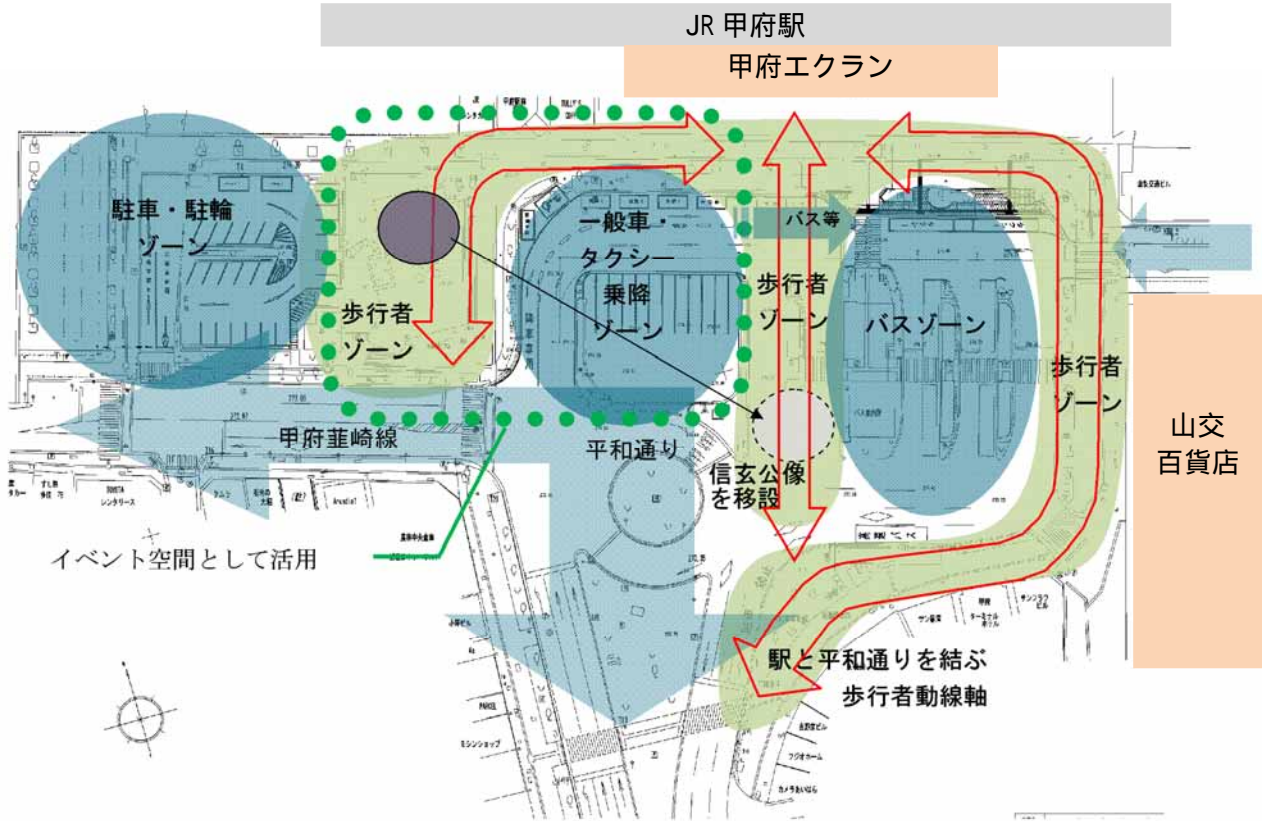


駅前広場のイメージ(案2)

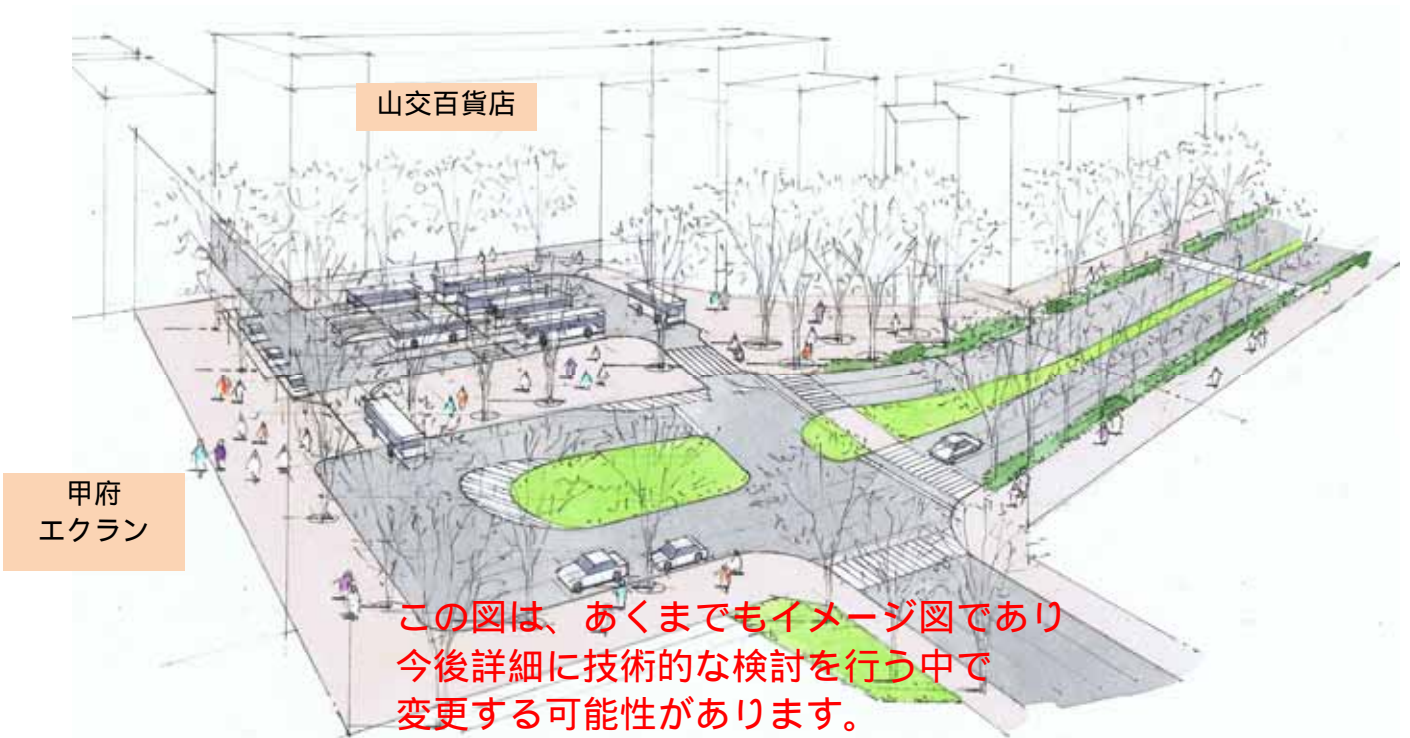
(山交百貨店北側道路を対面通行のままとし、バスゾーンを西側に移動した場合)



駅前広場のゾーニング図（案3）
 （山交百貨店北側道路を西方向の一方通行にした場合）



駅前広場のイメージ（案3）
 （山交百貨店北側道路を西方向の一方通行にした場合）



9 - 2 . 平和通りのリニューアルのイメージ

(1) コンセプト：風格と賑わいの感じられる緑豊かな開放的な空間づくり

平和通りでは、ゆとりある道路空間と長い時を経て大きく育ったケヤキの緑、そして沿道の高度な機能集積が県都のシンボル道路にふさわしい風格を醸し出している。今後は、県庁や市役所の建て替えをきっかけに、まちの緑がさらに豊かに感じられ、季節ごとに様々な表情を見せる空間づくりを行い、ここを舞台に様々な人が行き交い、集う、賑わいの感じられる空間づくりを行う。

(2) リニューアルの考え方

アーケードの撤去等（歩道のリニューアル）

- ・ 開放的で緑豊かな空間を演出するとともに、地震時などの安全性を高めるため、東側歩道の老朽化したアーケードを撤去する。
- ・ 賑わいとリズムの感じられる街並みを演出するため、可動式の庇を設置する。
- ・ 歩道舗装やストリートファニチャは、お店や緑を引き立たせる脇役に徹し、落ち着いた色調、デザインとする。通りとしての統一感、連続性に配慮する。
- ・ お店からもれる光と緑が拡散する光が織りなす暖かみのある夜間景観を演出するため、歩道上（埋め込み式）や低木植栽への照明を設置する。

歩道上のケヤキ及び中央分離帯

- ・ 西側歩道上のケヤキは、落葉の管理や鳥の糞の問題が指摘されているため、地域の人々とともに、そのあり方を検討する。
- ・ 中央分離帯については、緑豊かな空間形成のため、ケヤキの植樹を検討する。
- ・ アーケードを撤去する東側歩道上には、中木を植樹し、歩道の縮小分を車道（側帯）にあてて検討する。

自転車通行空間

- ・ 歩行者と自転車の安全性を確保するとともに自転車利用者に配慮し、自転車通行のスペース確保及び自転車駐輪スペースの整備について検討する。

老朽化した道路施設等の撤去・改善

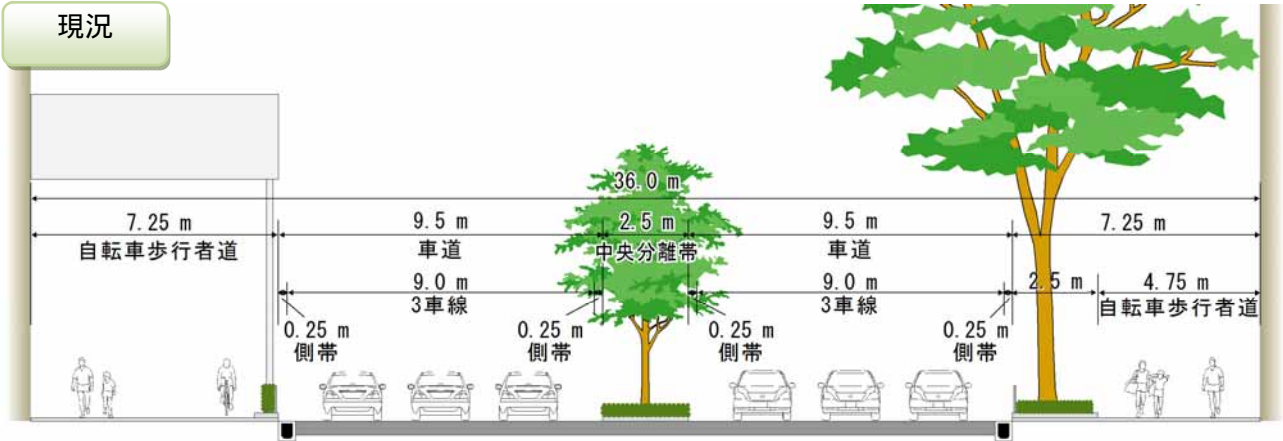
- ・ 見通しの確保、ユニバーサルデザインの観点から歩道橋の撤去を検討する。
- ・ その他老朽化し風格ある景観づくりにそぐわない道路付帯施設やサイン等は撤去・改修する。

店舗のファサード、看板等の色調、デザイン等の統一とアクセントカラー等による個性の演出の提案

- ・ 一定の統一感のもとで個性豊かで賑わいのある空間を演出するため、店舗のファサードの色調、デザインや看板の大きさ、デザインなどのある程度統一するとともに、アクセントカラーや照明等を効果的に活用することを提案する。
- ・ 広がりを演出するため、極力、壁面後退を誘導するとともに、後退部分（中間領域）における花木、ライトアップなど、しつらえの工夫を誘導する。

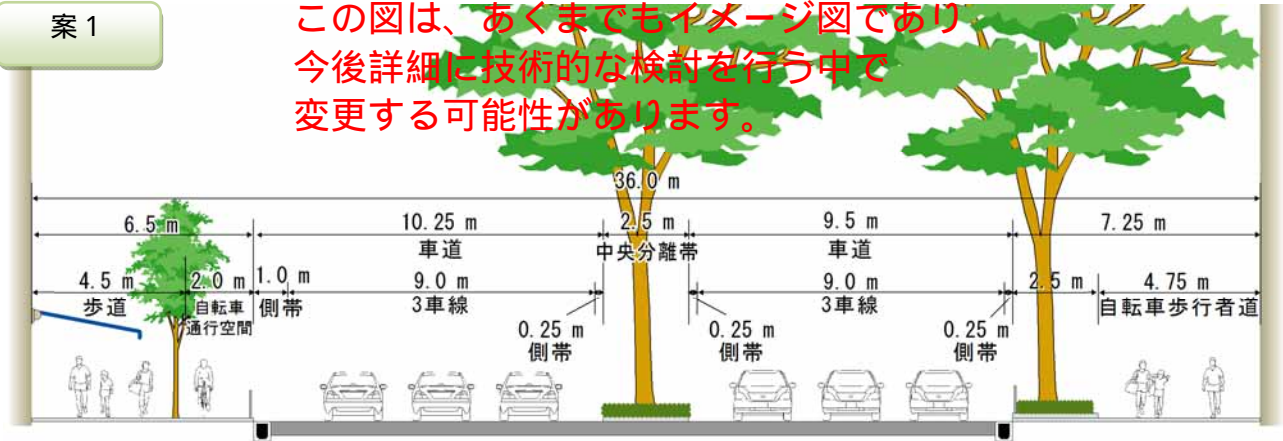
平和通りの断面構成イメージ

現況



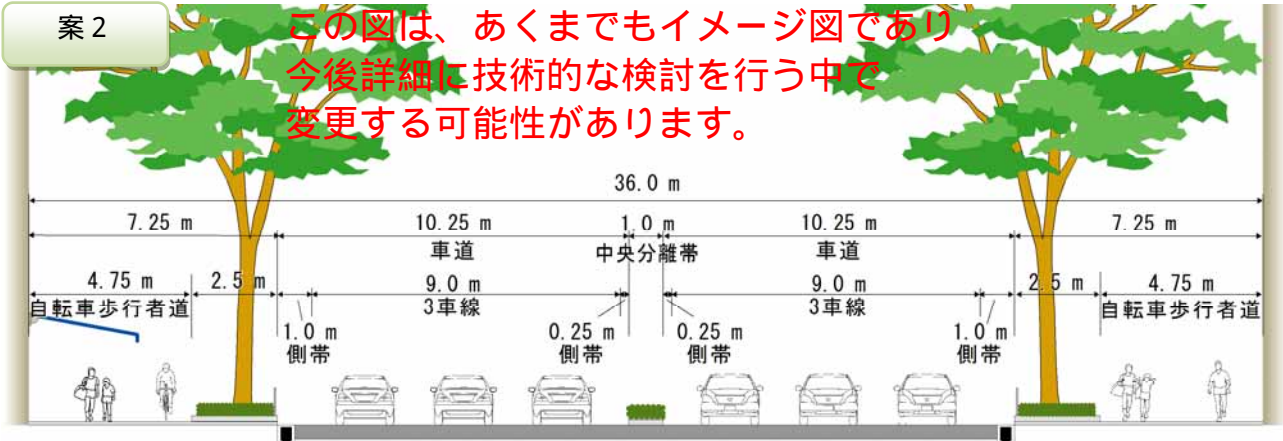
案 1

この図は、あくまでもイメージ図であり、今後詳細に技術的な検討を行う中で変更する可能性があります。



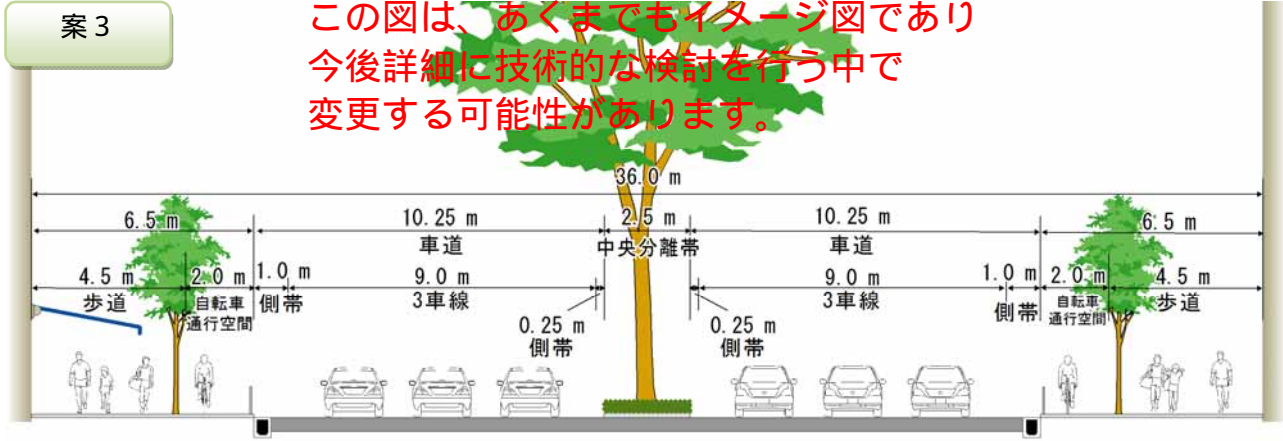
案 2

この図は、あくまでもイメージ図であり、今後詳細に技術的な検討を行う中で変更する可能性があります。

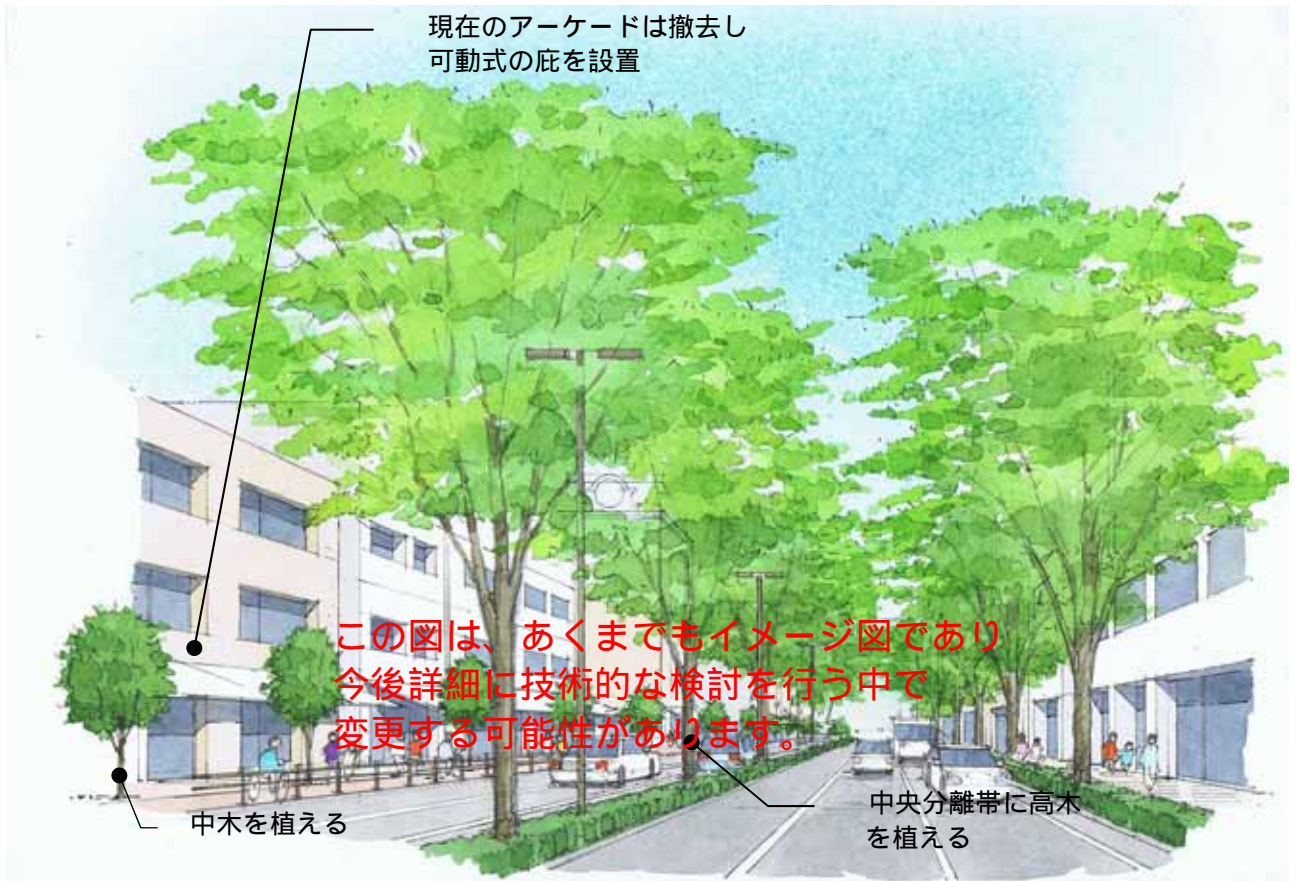


案 3

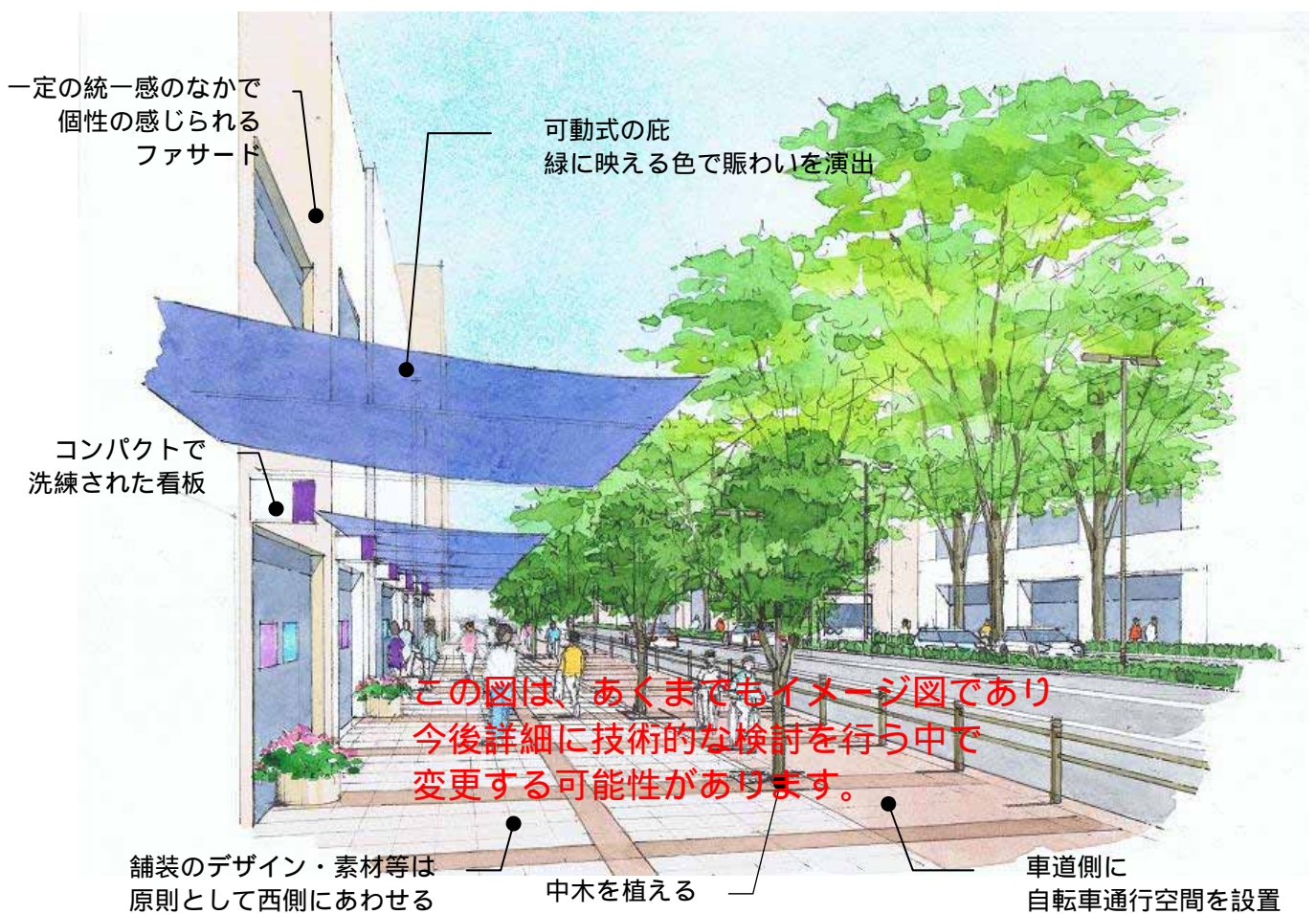
この図は、あくまでもイメージ図であり、今後詳細に技術的な検討を行う中で変更する可能性があります。



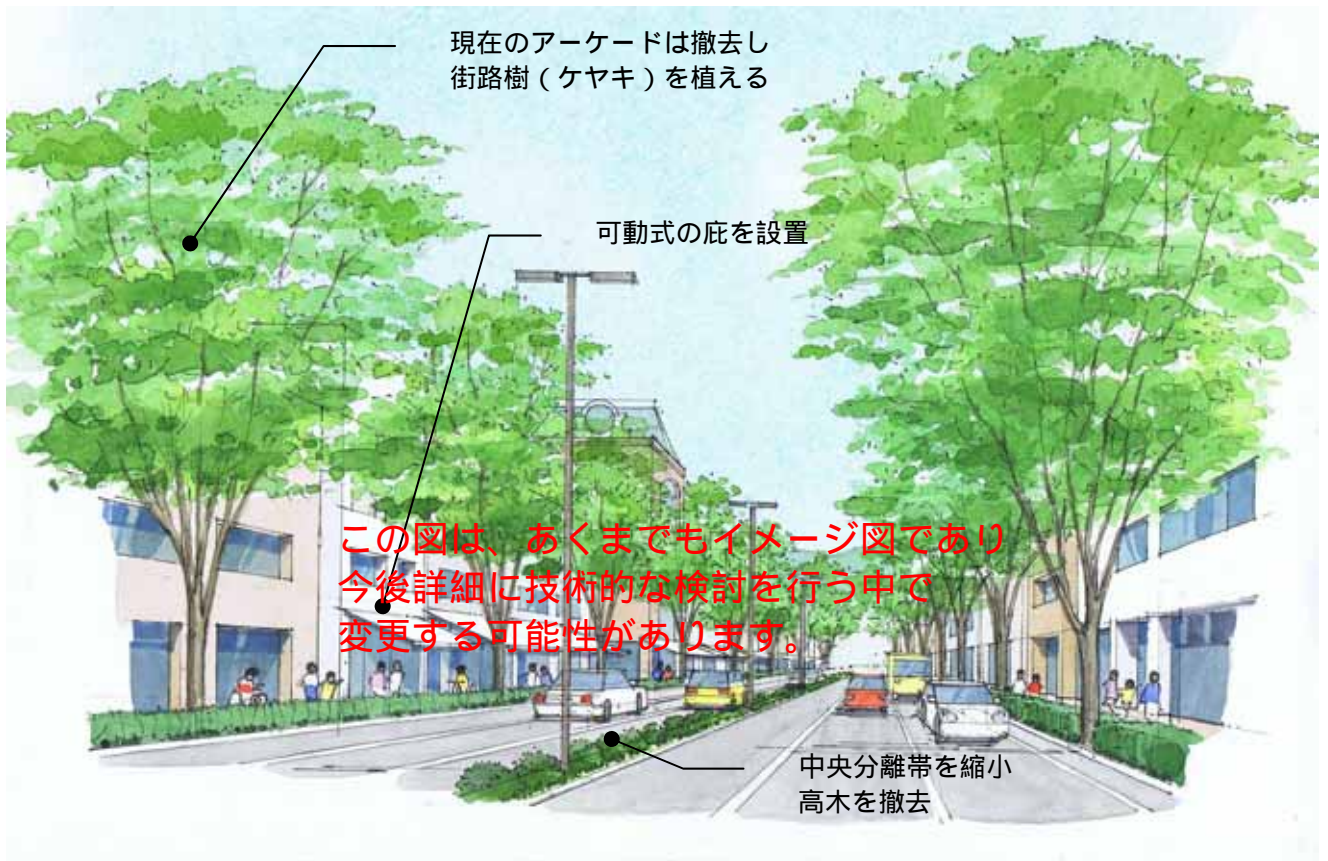
平和通りのイメージ(案1) ~ 南側を望む ~



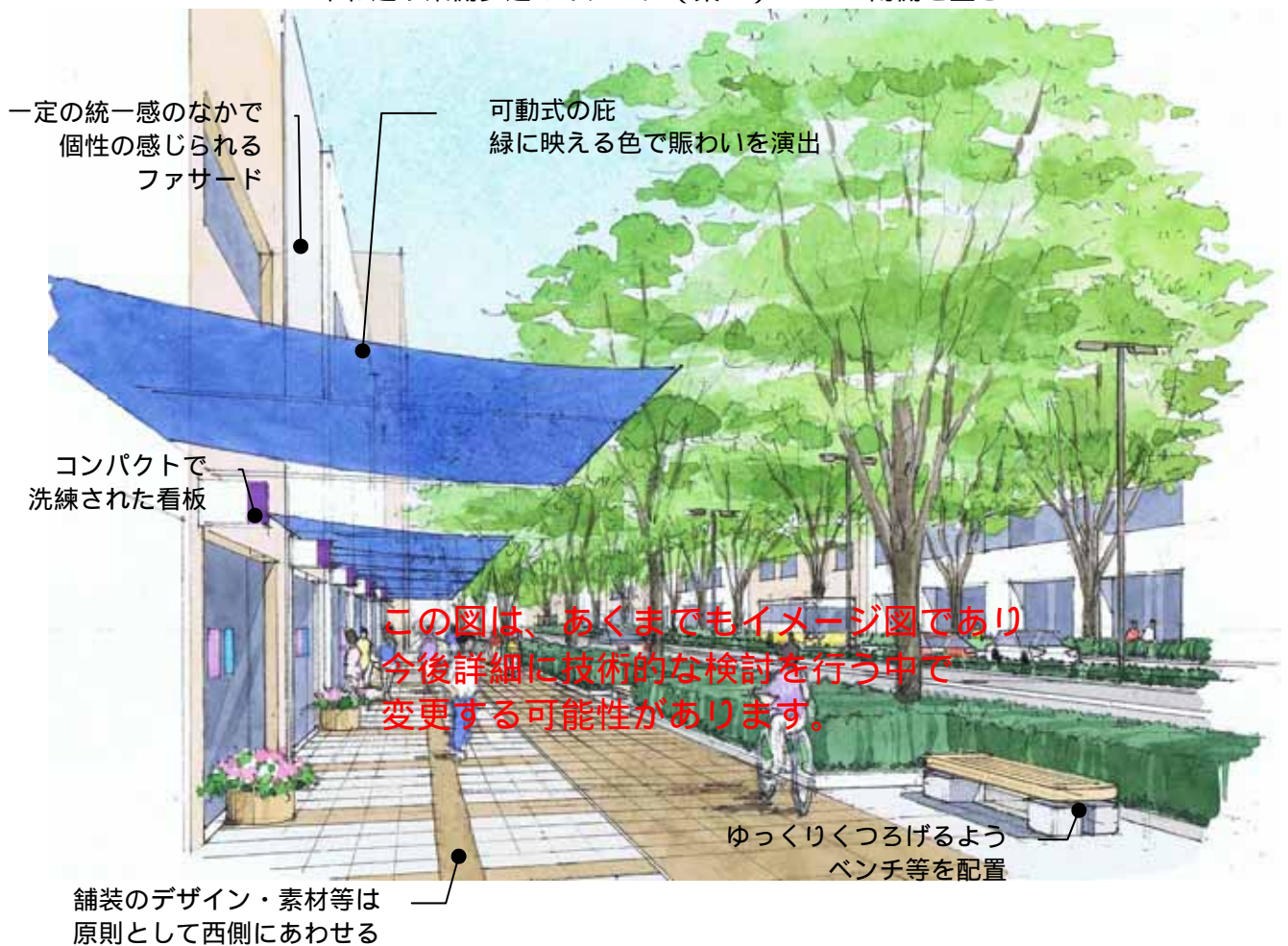
平和通り東側歩道のイメージ(案1) ~ 南側を望む ~



平和通りのイメージ（案2） ～ 南側を望む ～



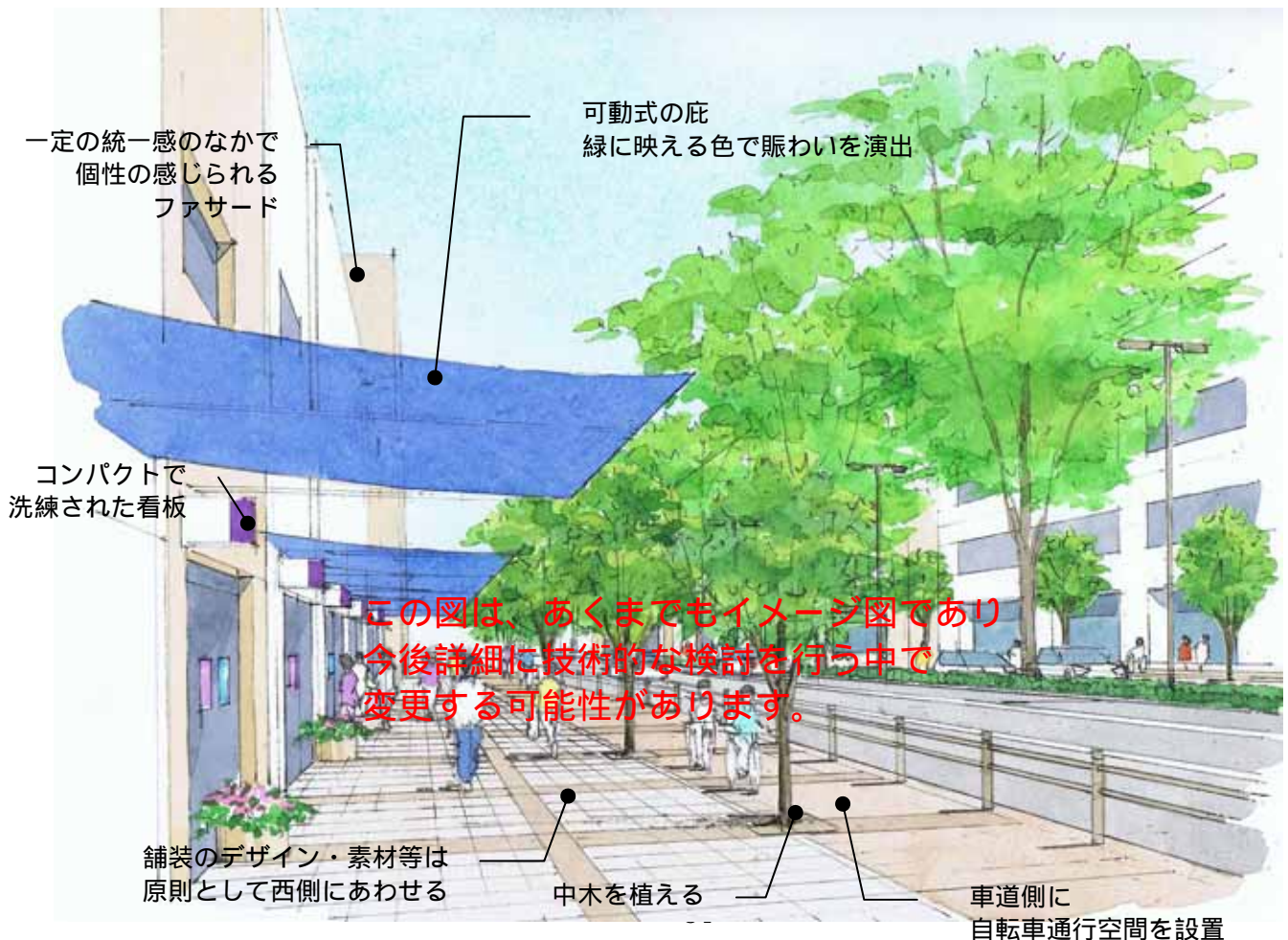
平和通り東側歩道のイメージ（案2） ～ 南側を望む ～



平和通りのイメージ(案3) ~ 南側を望む ~



平和通り東側歩道のイメージ(案3) ~ 南側を望む ~



9 - 3 . 舞鶴通り沿道の空間整備のイメージ

(1) コンセプト：甲府城と一体となった緑豊かで開放的な空間づくり

舞鶴通り沿道では、県庁敷地、県民会館跡地などを活かして、緑豊かでゆとりが感じられる、甲府城を見せ、近くに感じさせ、行きたくなる空間づくりを目指す。

(2) 空間整備の考え方

県庁敷地（緑豊かで開かれた空間）

- ・ 県庁敷地側では、緑豊かで開放的な空間を演出する。
- ・ 歴史的価値が高く景観的にも優れている県庁別館が通りから見えるよう、樹木等の配置に配慮する。
- ・ 敷地内は歩行者優先の公園的空間とし、平和通りとを自由に行き来できる通路を確保する。
- ・ 防災新館周辺には甲府城の眺めなどを楽しめる広場空間を確保する。
- ・ 県庁別館などをライトアップし、夜間も印象的な空間を演出する。

舞鶴通り（歩行者に配慮した、周辺敷地と一体的な空間）

- ・ 段差の解消など歩行者に配慮した、周辺敷地と一体的な空間を演出する。
- ・ 歩道舗装やストリートファニチャ等は、甲府城の石垣との調和に配慮し、シンプルかつ落ち着いたデザイン・色調とする。

県民会館跡地等（甲府城を見（魅）せる開放的な空間）

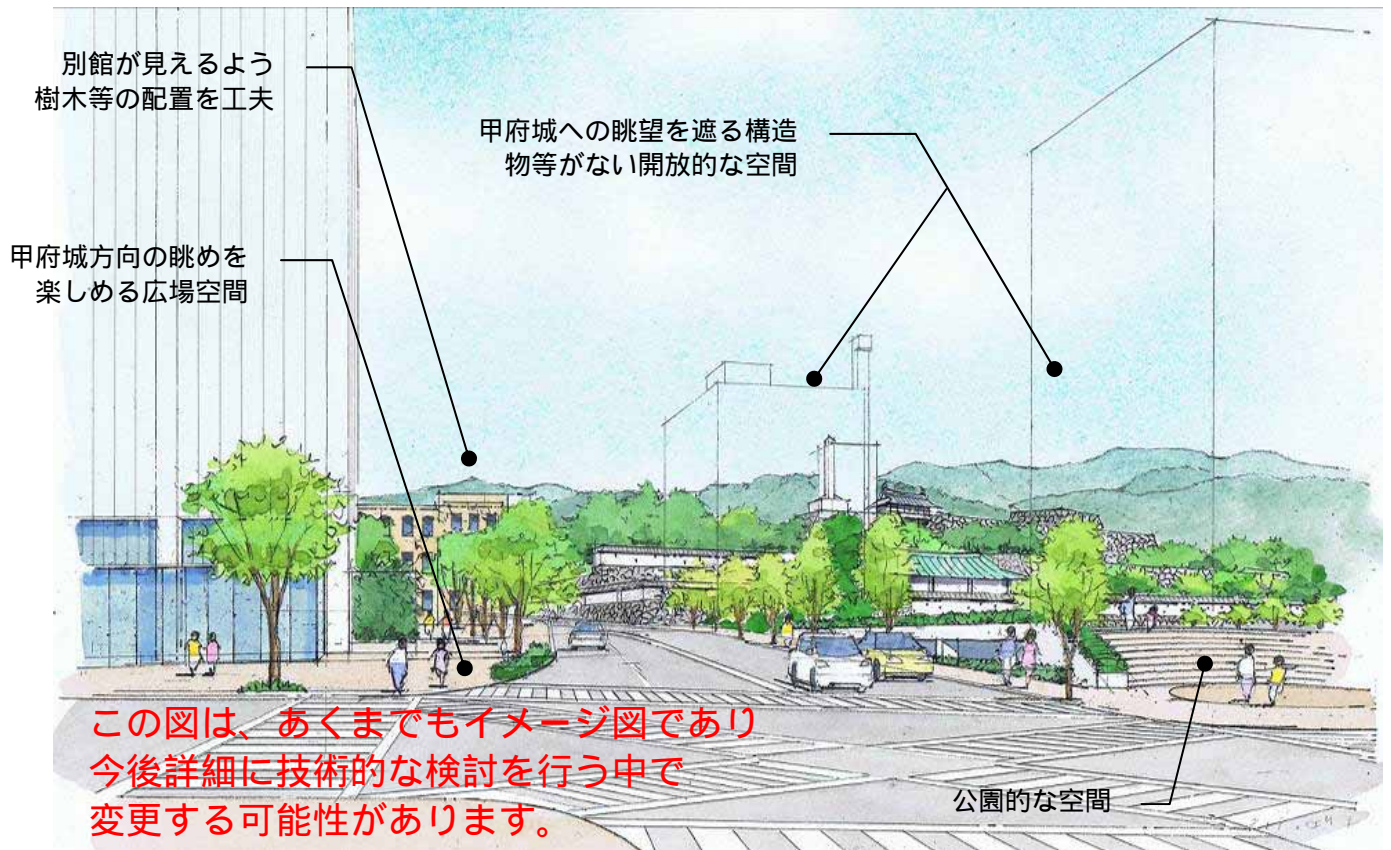
- ・ 甲府城を見（魅）せるため、眺望を遮る構造物等がない、開放的な空間を演出する。
- ・ スクランブル交差点付近は重要な視点場として位置づけ、ここから甲府城が良く見えるように、県民会館跡地は公園的に利用する。

お堀沿いの回遊道路の整備

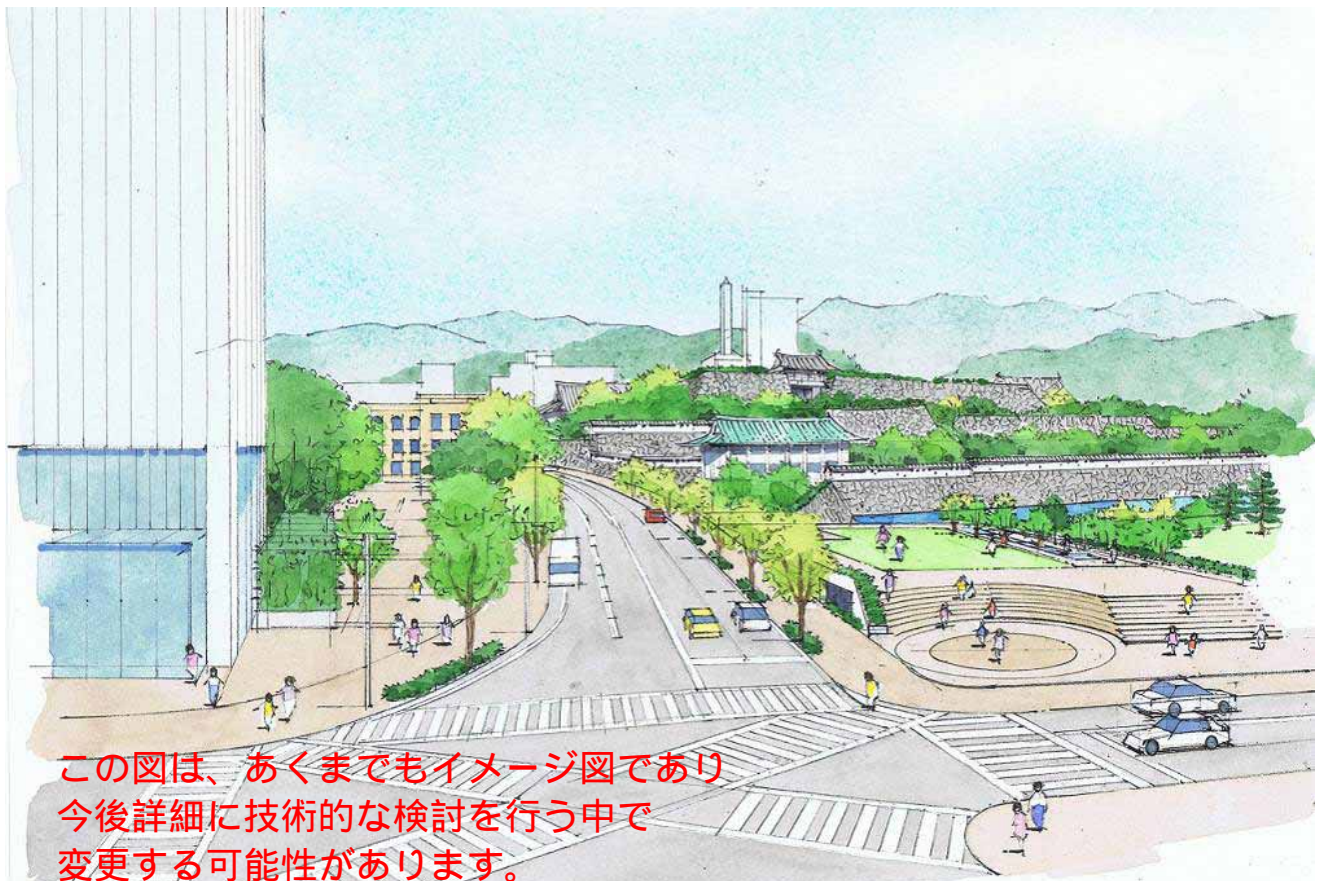
- ・ お堀沿いの道路は、甲府城を見ながらゆったり歩けるように、歩行者優先の空間整備に努める。
- ・ 訪れる人が、ゆっくりくつろげるように、税務署敷地を活用した和風の茶店や休憩施設などの整備に努める。



舞鶴通り沿道のイメージ ~ スクランプル交差点から北側を望む ~



舞鶴通り沿道のイメージ ~ スクランプル交差点後方、やや高い位置から北側を望む ~



10．取り組みの実現に向けて

10-1．段階的な取り組みの方針

「8．ゾーン別景観形成の方向と具体的な取り組み」で掲げた取り組みメニューを一時期に実施することは困難であり、長期的な視野に立って、段階的な取り組みが必要となる。

ここでは、各取り組みの実現に向け、実施の時期及び実現に向けた課題などを整理することとする。

各種取り組みを段階的に実施していく場合の基本的な考え方は以下のとおりとする。

段階的な取り組みの方針

短期：防災新館や市役所新庁舎の建設にあわせ周辺環境・景観の整備を進めるとともに、駅前広場や平和通りのリニューアルを進めていく。

中・長期：回遊道路の整備などを行い、地区の回遊性を高め、駅前広場や平和通りのリニューアルの効果を周辺に波及させ、民間による取り組みを誘導し、地区全体の魅力向上を図る。

10-2．段階的な取り組みのスケジュール

上記の方針に基づき、各取り組みの実施時期などを整理すると次表のとおりとなる。

段階的な取り組みのスケジュール

(短期：5年以内に完成を目指す、中期：10年以内に完成を目指す、長期：10年を超える)

取り組み項目		時期			実現に向けた課題
		短期	中期	長期	
おもてなし駅前ゾーン	南口駅前広場のリニューアル				・計画・設計及び関係機関等との協議・調整 ・平和通りのリニューアルとの整合
	駐輪場・駐車場の整備・充実				・計画・設計及び関係機関等との協議・調整（放置自転車を取締る条例の検討）
	甲府城との連携強化（案内機能、歩行空間の充実等）				・計画・設計及び関係機関等との協議・調整
風格と賑わいの都市ゾーン	平和通りのリニューアル				・計画・設計及び沿道住民等との協議・調整（アーケード撤去、植樹、沿道の景観誘導のあり方等）
	歩道橋の扱い検討（撤去／改修等）				・関係機関等との調整及び歩道橋に代わり歩行者が安全に横断できるような方策の検討
	県庁西側入口周辺の修景整備				・平和通りのリニューアルとの整合
	市役所敷地の修景整備				・平和通りのリニューアルとの整合

段階的な取り組みのスケジュール

(短期：5年以内に完成を目指す、中期：10年以内に完成を目指す、長期：10年を超える)

取り組み項目	時期			実現に向けた課題	
	短期	中期	長期		
歴史と文化へのアプローチゾーン	県民に身近で利用しやすい開かれた県庁舎敷地の整備				・甲府城との連携強化
	舞鶴通りのリニューアル				・甲府城との連携強化
	県民会館跡地等の甲府城の眺望に配慮した空間づくり				・大型バス駐車スペースの確保の検討 ・埋蔵文化財の取扱い
	税務署及び周辺敷地の活用				・甲府城と一体的な休憩施設整備の検討
	回遊性や周辺ゾーンとの連携を高める道路の整備・充実				・計画・設計及び沿道住民等との協議・調整
	甲府城の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討				・地域住民を交えた規制・誘導のあり方の検討
	歴史的建造物の保全・復元				・県史跡としての価値を損なわない対応が必要
	観光売店、茶店等の休憩施設の整備				・史跡内では、施設整備は出来ないため、周辺地での設置を検討
	草花による魅力の演出（百花爛漫プロジェクト）				・民間事業者の提案に基づく事業であり、具体的に調整を行っていくことが必要
歴史・文化の香る住居・業務複合ゾーン	都市計画道路の整備（古府中環状浅原橋線）				・未整備区間の事業化について検討
	甲府城の眺望や景観を阻害する建物の意匠・形態規制の検討				・地域住民を交えた規制・誘導のあり方の検討
賑わいの商業ゾーン	商店街（通り）のリニューアル（歩道舗装、ストリートファニチャーの見直し）				・商店街毎のあり方検討
	賑わいを演出する工夫				・商店街毎のあり方検討
	都市計画道路の整備（城東通り）				・未整備区間の事業化について検討
	道路の通行規制の見直し（規制の廃止、新たな導入）				・地域住民を交えた通行規制のあり方の検討
	遊亀橋通りの南側への延伸				・周辺道路の通行規制と一体となった検討
潤いの住居・業務複合ゾーン	公園のリニューアル				・地域住民を交えた整備のあり方の検討
	水路のリニューアル				・地域住民を交えた整備のあり方の検討
	区画道路等のリニューアル				・地域住民を交えた整備のあり方の検討

10 - 3 . 実効性を高める今後の取り組み

各種取り組みの実効性を高めるため、今後、以下の方策を検討する必要がある。

情報の共有

- ・ 良好な景観は、公共空間と民有空間が一体となって形成されるものであり、事業者や住民の理解と協力により実現されるものである。
- ・ 民間事業者との連携を図るため、修景計画及び修景計画に基づく取り組みに関する情報をホームページや各種メディアを通じて積極的に発信するとともに、継続的に意見や提案の募集を行い、修景計画に基づく取り組みに反映する。

指定管理者制度（民間活力）の活用

- ・ 修景計画に基づく取り組みを行政だけで行うには限界がある。このため、官民パートナーシップの手法（PPP手法）を活用して、公共施設の整備や維持・管理などを行うことを検討する。
- ・ 例えば、駐車場、駐輪場の監理、放置自転車に関するパトロールなどに関しては、指定管理者制度を活用することが考えられる。

公共施設デザイン事例の収集及びデザイン検討マニュアル

- ・ 全国各地での優れたデザイン事例を収集及び分析して、公共施設整備に反映させていく。
- ・ 将来的にはデザイン検討マニュアルとしてとりまとめていく。
- ・ この検討マニュアルは、個々の施設のデザインを決めるものではなく、デザインの検討方法やデザインの方向性などを示すものとする。

【参考資料】

甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会設置要綱

甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 甲府駅南口周辺地域について、山梨県や甲府市等が所管する駅前広場、道路、庁舎などのいわゆる公共施設を中心とした、県市が共同して行う県都の玄関口にふさわしい景観形成とイメージアップのための検討を行い、住民の意見・アイデアも加味して、計画案の策定を行うため、甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、別表に掲げる委員によって構成する。

(任期)

第3条 委員の任期は、平成22年7月16日から平成24年3月31日までとする。

(所轄事項)

第4条 委員会は、甲府駅南口周辺地域修景計画の検討を行い、住民の意見・アイデアを加味して計画案を策定するものとする。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、委員の互選により選出する。

3 委員長は委員会を代表し、会務を総括する。委員長に事故がある時は、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集し、議長となる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、山梨県県土整備部都市計画課及び甲府市都市建設部計画指導室都市計画課が共同で行うものとする。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則 この要綱は、平成22年7月16日から施行する。

甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会委員名簿

第1回委員会(H22.7.16)～第4回委員会(H23.3.18)

氏名	所属・役職
石川 和樹	JR東日本八王子支社総務部企画室企画部長
岡村 美好	山梨大学大学院准教授
小澤 照彦	山梨県タクシー協会会長
加々美 富明	甲府市春日地区橘町自治会
笠井 矩善	山梨県バス協会専務理事
北村 眞一	山梨大学大学院教授
佐々木 邦明	山梨大学大学院准教授
中井 検裕	東京工業大学大学院教授
中込 哲太郎	甲府駅南口のまちづくり研究会会長
名取 誠	甲府市富士川地区境町自治会
広瀬 淑子	甲府商工会議所議員(女性会相談役)
堀内 洋子	画家
宮坂 孝一	甲府市春日地区東栄会自治会
望月 祐仁	甲府市教育部文化振興課文化財係課長補佐
若狭 美穂子	山梨県建築士会女性部長
上田 仁	山梨県県土整備部技監
宇野 善昌	甲府市副市長

：委員長
：委員長代理

アイウエオ順(行政除く)

第5回委員会(H23.7.28)～第7回委員会(H24.3.27)

氏名	所属・役職
石川 和樹	JR東日本八王子支社総務部企画室企画部長
岡村 美好	山梨大学大学院准教授
加々美富明	甲府市春日地区橘町自治会
梶原 俊貴	山梨県バス協会専務理事
北村 眞一	山梨大学大学院教授
佐々木邦明	山梨大学大学院教授
中井 検裕	東京工業大学大学院教授
中込哲太郎	甲府駅南口のまちづくり研究会会長
名取 誠	甲府市富士川地区境町自治会
平井 武彦	山梨県タクシー協会副会長
広瀬 淑子	甲府商工会議所議員（女性会相談役）
堀内 洋子	画家
宮坂 孝一	甲府市春日地区東栄会自治会
望月 祐仁	甲府市教育部文化振興課文化財係課長補佐
若狭美穂子	山梨県建築士会女性部長
上田 仁	山梨県県土整備部技監
宇野 善昌	甲府市副市長

アイウエオ順（行政除く）

臨時委員

小田切仁司	社団法人甲府青年会議所
丹沢 良治	新世紀甲府城下町研究会
松本 順丈	山梨経済同友会

アイウエオ順

：委員長
：委員長代理

個々の施策、取り組み等に関する語尾の表現

本計画における個々の施策及び取り組みを説明する文章の語尾は、下表のルールに沿って表現した。

修景メニューに関する表現について

定義	表現
事業実施に向けて、手続きや施策を進めていくもの (県や市の判断で実施できるものなど)	行う、～する 進める、図る
事業実施に向けて、手続きを進めていくが、関係機関や地元との調整が必要であり、目標の達成が不確実なもの	努める 誘導する
実施の是非や実施時期などの議論を積極的に行うもの	検討する

「甲府城」という名称に関して

かつての甲斐の国の府中城であり、現存する石垣、お堀などに囲まれている範囲を特定する名称としては、「甲府城＝江戸初期には使われていた名称」「甲府城跡＝史跡名称」「舞鶴城公園＝都市公園名称」の3つが考えられる。

本計画では、基本理念の実現に重要な要素として「歴史・文化」を掲げており、「甲府城」が歴史的資産、景観的な象徴としてのイメージをあらわすのに最も適していると考えられることから、本計画では「甲府城」という名称を用いることとした。

甲府城：江戸時代初期にはこの名称が使用されていた経緯があり、歴史的資産、景観的な象徴としてのイメージが浮かびやすい

甲府城跡：平場をイメージさせる、立体感がない、寂れたイメージがあり、景観的な象徴の名称としては馴染みにくい

舞鶴城公園：舞鶴城は雅称であり全国で9つの城がこの雅称を持っており、個性（甲府らしさ）が感じられない

名称の比較表

名称	名称として使用する理由	名称として使用した場合のマイナス点
甲府城 (こうふじょう)	<ul style="list-style-type: none"> 江戸時代の初期には、この名称が使用されていた経緯がある。 歴史的資産としてのイメージが浮かびやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 「城」という文字より、天守閣があるように連想してしまう。 甲府城は、甲府駅や平和通りまで、築城の範囲となっており、甲府城という表現にした場合、どこまでが範囲となるのか明確でない。
甲府城跡 (こうふじょうあと)	<ul style="list-style-type: none"> 県史跡としての正式名称である。 県史跡として指定されているため、範囲が明確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「跡」という文字より、平場をイメージして、立体的な感覚が出ない。また、さびれたイメージを連想する。
舞鶴城公園 (まいづるじょうこうえん)	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画公園としての正式名称である。 明治の初年の書物には、「舞鶴城」で記載されていた。 都市計画公園として指定されているため、範囲が明確である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「舞鶴城」は雅称(*)であり、全国に9つの城がこの雅称を持っており、個性的でない(お城の跡地を舞鶴公園という名称で呼んでいる事例もある)。

* 雅称＝風雅な名前・呼び方。「舞鶴城」という雅称を持つ城としては、以下のものがある。

甲府城(甲斐国、山梨県甲府市) 三春城(陸奥国、福島県田村郡三春町) 太田城(常陸国、茨城県常陸太田市) 丹後田辺城(丹後国、京都府舞鶴市) 福岡城(筑前国、福岡県福岡市) 柳川城(筑後国、福岡県柳川市) 唐津城(肥前国、佐賀県唐津市) 村上城(越後国、新潟県村上市) 津奈木城(肥後国、熊本県葦北郡津奈木町)